フハッ

水木しげる妖怪造形特集 え壱



第45号

もくじ


牛鬼
妖怪モデリング其え壱
3

水木しげる・画

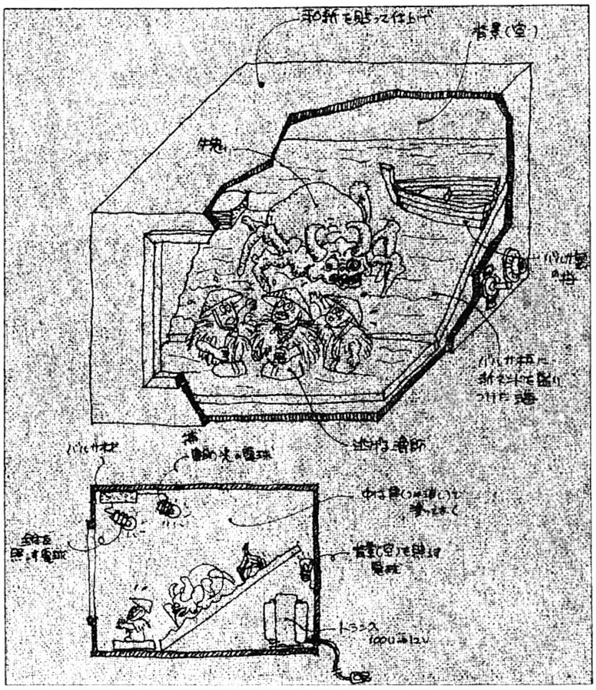


牛鬼は覗いて楽しむ　製作・解説　オフィスレイドバック

水木氏のイラストをもとに、紙ネンド（おなじみ「ファンド」及び「フォルモ」）で造形する。今回の作品は、覗いて楽しむシャドーボックスにするため、他の物とのバランスを考えて、サイズや形状を決めていく。又、青春の思い出に型取りしておこうと思い、胴体、足、角、下アゴをそれぞれ別パーツで作っていった。

紙ネンドが乾燥するまでに、ディティールの仕上げを全て済ませてしまうと作業は楽なのであるが、今回は、パーツをバラバラで作っていったので、大まかに造形し、乾燥させた後に仮り組みし、全体のバランスを見てから削ったり、再びネンドを盛りつけたりのくり返しで作っていった。

造形が一応終り、完全に乾燥したら、表面に薄めたパテを塗って仕上げる。これで原形の出来上りじゃ。



牛鬼を型取る

次に、原形をシリコンで型取りし、プラキャストで複製する。複製したプラキャストの方を組み立て、パーティングラインや接合部の修整を行い、全体に溶きパテを塗って、気泡などを完全に無くしてから塗装にとりかかるのである。

牛鬼を色塗る

一瞬迷ったのが体色。水木先生曰く「あれは牛である」という事なので、グレー、茶、黒（全てつや消し）を順番にピースコンで吹きまくり、〝それらしい色〟に仕上げてしまう。全体的にはコケ茶色であるが、部分的にグレーのまだらが残るようにしてやった。次に目、角、口の中を彩色し、最後にクリアーを全体にかるく吹きつけて塗装終了。

逃げまどう３人の漁師

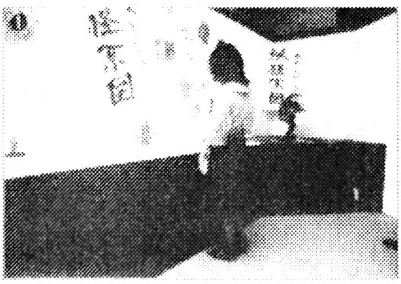
ほぼ1/12スケールで、牛鬼と同様に、紙ネンドで造形。顔も水木先生タッチで立体化。腕と笠は３人分作るのがメンドウだったので１セット作ってシリコン型取り→プラキャスト複製で３セットに増やした。蓑(みの)は日東の「油すまし」のキットに入っていた材料を使用。

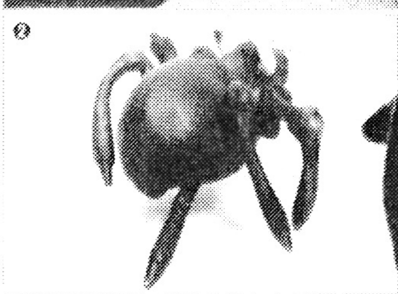
作業手順としては、まず頭部（ムネの部分までを裸の状態で）を作り、乾燥させた後にペーパーがけをして仕上げ、その後で胴体部分をつぎ足して行った。服のシワなどの再現をしてから乾燥させる。次に別に作っておいた腕を接着し、この段階で肌や服の色を塗る。最後に蓑の材料を、ちょっと長めに切った物を体に接着していき、あとから長さを整えてやる。蓑は材料そのままだと色が明るすぎて違和感があったため、薄めた黒を塗ってから表面をダークイエローでドライブラシしてみた。あとは笠をかぶせて漁師は完成。だーっ。おいちゃんは疲れたヨと。

シャドーボックス

ボックスの寸法は、タテ20㎝、ヨコ30㎝、奥行30㎝。ベニア板、バルサ板を使って組み立てた。

照明は、100Ｖ→12Ｖのトランスを使い、12Ｖ、3.4Ｗの電球を３ヶ使用している。（詳しくは図を参照のこと）



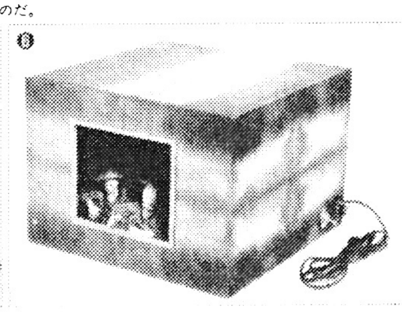




❶Ｋ林氏入魂の鬼気迫る見本市ディスプレイ。たたずむ少女は何を想ふのだろう…。
❷❸ぶも〜っ牛鬼はこの様なポーズになっている。イラストに合わせたため、足のつけ根がまとまらなかった。
❹おののく漁民たちである。御覧の様にシャドーボックスの外から見える部分のみを作ってある。
❺バルサ板に紙ネンドを盛って海面とし、舟もバルサで作って接着。そして30°位傾斜させてやると、漁民を襲う牛鬼の構図に。
❻シャドーボックス全景。正面板は着脱可なので、違った妖怪を入れて楽しむ事もできるのだ。







木の葉天狗

妖怪モデリング其之弐



水木しげる画

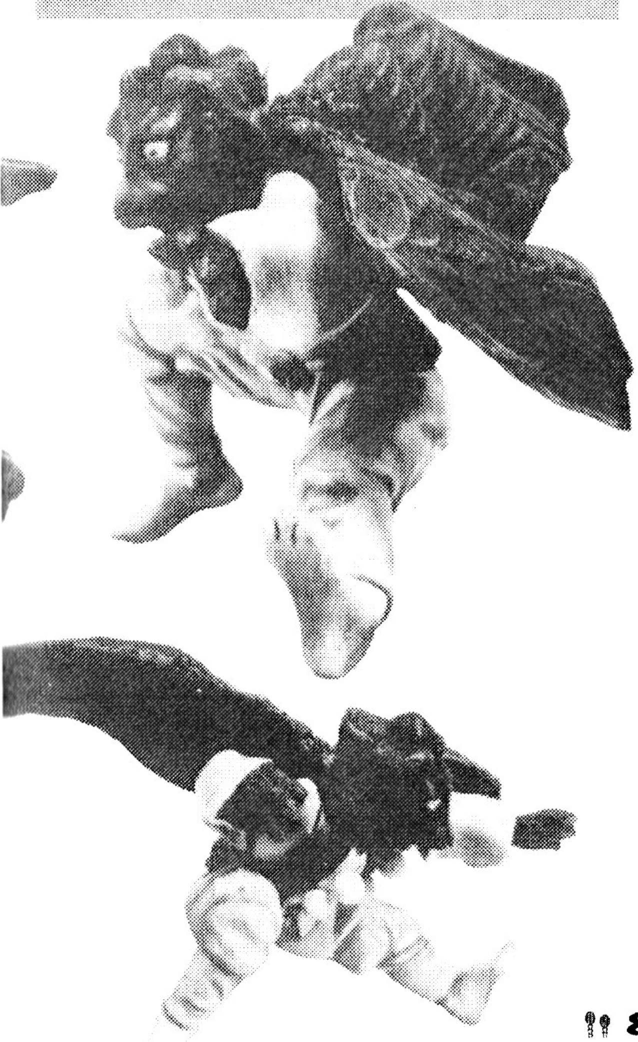


木の葉天狗

解説　水木しげる

日本の妖怪の中で、河童に並んで代表的な妖怪であろう。山や野の神とされ、なんにでも姿を変える事ができる。神通力のようなものを使い、人間の意表をつくものとされている。深山の精気が化して、天狗となったのだろう。

木の葉天狗は、境鳥とも言い、人間に似て、正面に顔があるが、大きなくちばしを持っている。両手両足には5本の指があり、背中には、はば6尺ほどの翼を持っていて、たいへんな速さで飛びまわることができるという。





カット
No.14
古賀弘明

※この頁は部屋を暗くし、ろうそくの灯などでお読みになって下さい。

木の葉天狗、飛翔 製作・解説オフィスレイドバック

妖怪造形シリーズ第２弾は、皆さんおなじみの天狗を制作しました。

木の葉天狗は別名カラス天狗と呼ばれるように、手足及び頭部の形状は人間よりカラスに近く、背にはカラスと同型の翼を有しています。しかしその他の部分はほぼ人間の成人と共通すると思われるので、まずはストレートに1/12スケールのボディから作ります。

この際、最も問題となるのは右腕の持ってゆき方です。まねき猫の様なのか背面へ引いた腕の袖だけが前へなびいているのかわかりませんが、思い切って後者を取りました。しかし正確にこの腕位置を再現しようとすると肘がかなり引かれ、右翼が無理な角度になる為にちょっとアレンジさせて頂きました。また手足が左右で形状が全く異なるという点も作業を３時間も中止させましたが、これも全様が判別できる左の部分を両側に用いる事にさせて頂きました。（水木先生すいません!!）

左脚は脛骨を約1/3程延長し、左腕と共に顔正面を中心にシンメトリーにならない様、角度を浅くしました。これで撮影すれば劇画調の構図が期待できるでしょう。

次に別途に顔面を制作します。

くちばしはサキブトカラスを参考にして上顎骨を中心に鼻筋へのラインを気づかいながらほとんど完成させてしまいました。遅れましたが素材にはフォルモを使用していまして、顔面などの繊細な部分は室温を22度ぐらいにした方が適当な粘度が出て良いようです。

これをオーブンで５分程焼いた後瞬着で接着してから後頭骨を盛り、別に作っておいた兜巾をなじませます。また有髪もこの時に盛りますがラフな段階で止めておきます。

ここでまた全体をオーブンで焼き今度は放置して冷やします。そしてその間を使って手足を若干大きめに作って、レリーフも入れた後これまたオーブン焼きを７分・５分と２度焼きして完全硬化させます。ケズリ、研ぎ等で仕上げた手足をボディに接着し袖口や裾口の自然なたるみを盛ってやります。

ここまで来たら完成も同然、翼のラフ形状を作って風通しの良い所で一週間乾かしておきます。

そして一週間がたちました。

残されたコンセプトは服のしわですが基本的には元絵を再現するつもりで、関節を中心に（比較的フィーリングで）盛りつけます。そしてこの珍しい形の鈴繋つき袈裟の厚みをケズリ込みで表現して、そこへ残された有髪の残りと喉仏の部分を盛りつけて最後のオーブン焼きを３分程行ないます。尚、このオーブン焼きは合わせて15分前後までが限度です。これ以上焼くと細い部分がこげたり、亀裂が生じます。

翼は図鑑を参考に初列風切→次列風切→初列雨覆→第三列風切→小翼→中雨覆→小雨覆の順にうすく盛りレリーフを入れ、裏側も長翼→下雨覆→えき羽を盛ってレリーフを入れます。その際に厚くならない様に注意しないとボテボテのたい焼きみたいになります。

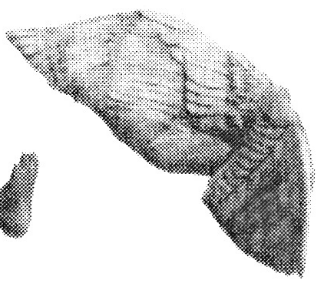
これも７分程オーブン焼きした後、本体も含めて凹凸を修正して９番のヘラで全体をこすって表面をひきしめ、薄く透きパテで表面処理をして塗装寸前になります。

塗装は一般フィギュアと同様、明→暗・太→小の定石通りに行ないました。眼はアイボリーと原色赤を極少量添加したホワイトを塗ってブラウンで黒目をチョン。ロットリングで輪郭をとってから基本色ホワイトをハイライトとしてチョンします。更に充血はカッターの刃の部分に原色赤をつけて力を抜いて描いてからクリアーを塗ります。全体的にマットタイプのフィクサチフをかけて完成!!

おっと忘れちゃいけない鈴繋の玉を急造して接着し、翼をグラインダーで穴を開けた上で５㎜のプラ棒で接続させましょう。

この1/12スケール木の葉天狗は写真のものを関節・しわ・翼等、更に修正させたものをMGのモデルカステンからキット化されるそうなのでぜひ皆さんも挑戦してみて下さい。ポーズを変更したり、トビの天狗にしたり、女性の天狗やパロディータイプなど改造して遊んでみて下さい。特に翼はリキ入ってますから鳥人等への流用パーツとしても使えると思います。





塗装前の木の葉天狗である。
全体にサフェーサーを塗ってある。



完成した状態を正面より見る。



同、後から見る。翼のモールドがお分かりいただけるだろうか。



飛翔ポーズの木の葉天狗。
鋭い目、動感等、かなり表現できたと思う。

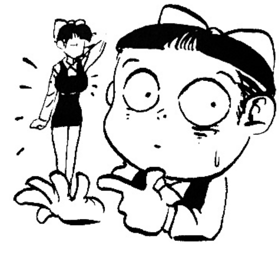

ぬらりひょん
妖怪モデリング其之三



ぬらりひょん
解説　水木しげる

ぬらりひょんは、妖怪の総大将といわれている。姿は僧のような時もあるが、多くは商人のような格好であらわれる。

夕方、人々が忙しい時にどこからともなくあらわれ、座敷に上がり込み、勝手にお茶を飲んだり、煙草をふかしたりして去って行く。皆、忙しいので誰がいるのか正体を見きわめない。人間の心理のすきを狙うのが巧みなのであるが、どうもやる事が総大将らしからぬ妖怪である。とにかく、我々の知らない事を心得ているのだろうが、夕方現われ、家に坐り込むという事しかわからない。



カット
No.14 古賀弘明

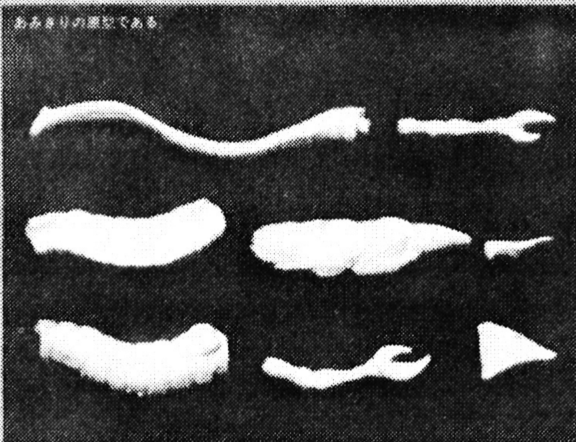


水木先生が描かれるぬらりひょんには、数種か見受けられる。ゲゲゲの鬼太郎版、妖怪文庫版、そして今回のイラストの様な姿の３種ほどかあるようだ。今回の物は鬼太郎版で、日東科学さんの試作原形てある。
背景製作：オフィスレイドバック


あみきり
妖怪モデリング其之四

水木しげる画





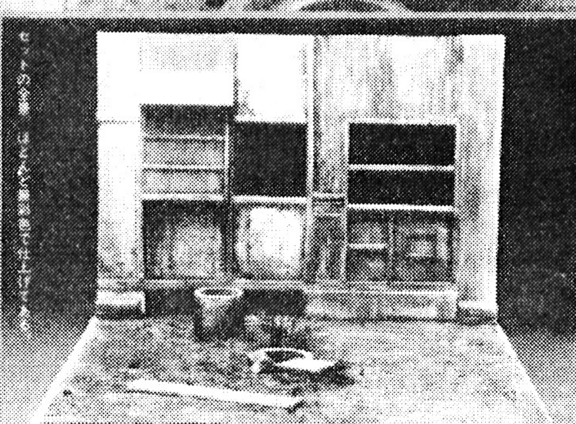
あみきりの部分である。



あみきりの完成状態。ご覧の様にウレタン注型時に一緒に埋めておいたピアノ線によって立たせる事ができる。この様にくねくねと飛んできては、はさみの切れ味を試す為に洗濯物をチョキチョキと切って去って行く……。こうもりの様なしっぽの先から出して飛ぶのである



頭のアップ。夜でも見える夜きり目、小えびや蟹を食べる口。はさみは良く研ぐ。



セットの全景。ほとんど単色で仕上げてある。

あみきり

解説
水木しげる

られでもしたかのように、スッパリと切られていることがある。又、漁師の用いる魚網や、洗濯物が干してあるのをスッパリとやってしまうものもいる。昔の人はこれを「あみきり」の仕業であるとした。

蚊帳はたいてい緑色をしており、海底かどこかにいるような気分で、いつも蚊帳の中は静まりかえっていた。

静かな誰もいない時、蚊帳のほつれを発見するほど不可思議な気持ちのすることはない。多分、この「あみきり」もそうした気持ちに支えられて生きつづけた妖怪であろう。

チョキチョキ あみきり

今月の妖怪は「あみきり」であります。妖怪モデリングも第四回目となりますと、そろそろマイナーな妖怪も出てくるわけであります。（妖怪マニアの中で、このあみきりの知名度はどの位なのか分かりませんが、私は知らなかった）

正直申し上げて、イラストを渡された時は、とても立体化の意欲がわいてくるというものではなかったのですが、それは、も、作ってしまえば愛情も出てきて、オー、イイコ、イイコ、ヨシヨシという感じになってくるわけですね。

●あみきりを作る

まず、イラストをもとに、図面を描いてみる。サイズは、ディオラマベースを30cm×30cmと設定し、それより算出し、体長約30cmにて決定。図面は、方眼紙に上面図と側面図をごく簡単に描く。この時に、全体のイメージを頭の中に入れる様にする。また、今回も、プラキャスト複製を考えていたので、パーツ割りも考えておく。

パーツは、①頭、②腕（左）、③腕（右）、④脚（左）、⑤脚（右）、⑥尾、⑦下アゴ、⑧舌、の計8点。

針金を芯にしてファンドで造形していくのだが、腕パーツ以外は全て一体で造形していき、乾燥後に各パーツに分割していくという方法をとる事にする。また、頭の毛も最初の段階では作らずに、パーツになってから頭の部分に盛りつけていくことにする。

まず、胴から尾の先にかけて針金をよじったものを芯にしてファンドを盛りつけていき、先ほどの図面を参考にしながら形を決めていく。だいたいの造形が出来たなら、オーブンに入れて乾燥させる。

本体を乾燥させている間に、両腕を造形し、これも乾燥させる。

乾燥ののち、本体に両腕をいったん接着し、全体のバランスを見てみる。腕が長すぎたので、ちょっと短く切りつめてみる。これでも、イラストよりはまだ長めだが、この程度の方がサマになっているので、ちょっと長めにしておく事にした。

その後、体表のディテールをモーターツールやら彫刻刀やらで彫り込んで仕上げていく。イラストのままでは少々ディテールが物足らない感じなので、目のまわりなどに細かいシワを入れてみた。

全体に溶きパテを塗って目止めをして、パーツの分割作業に入る。

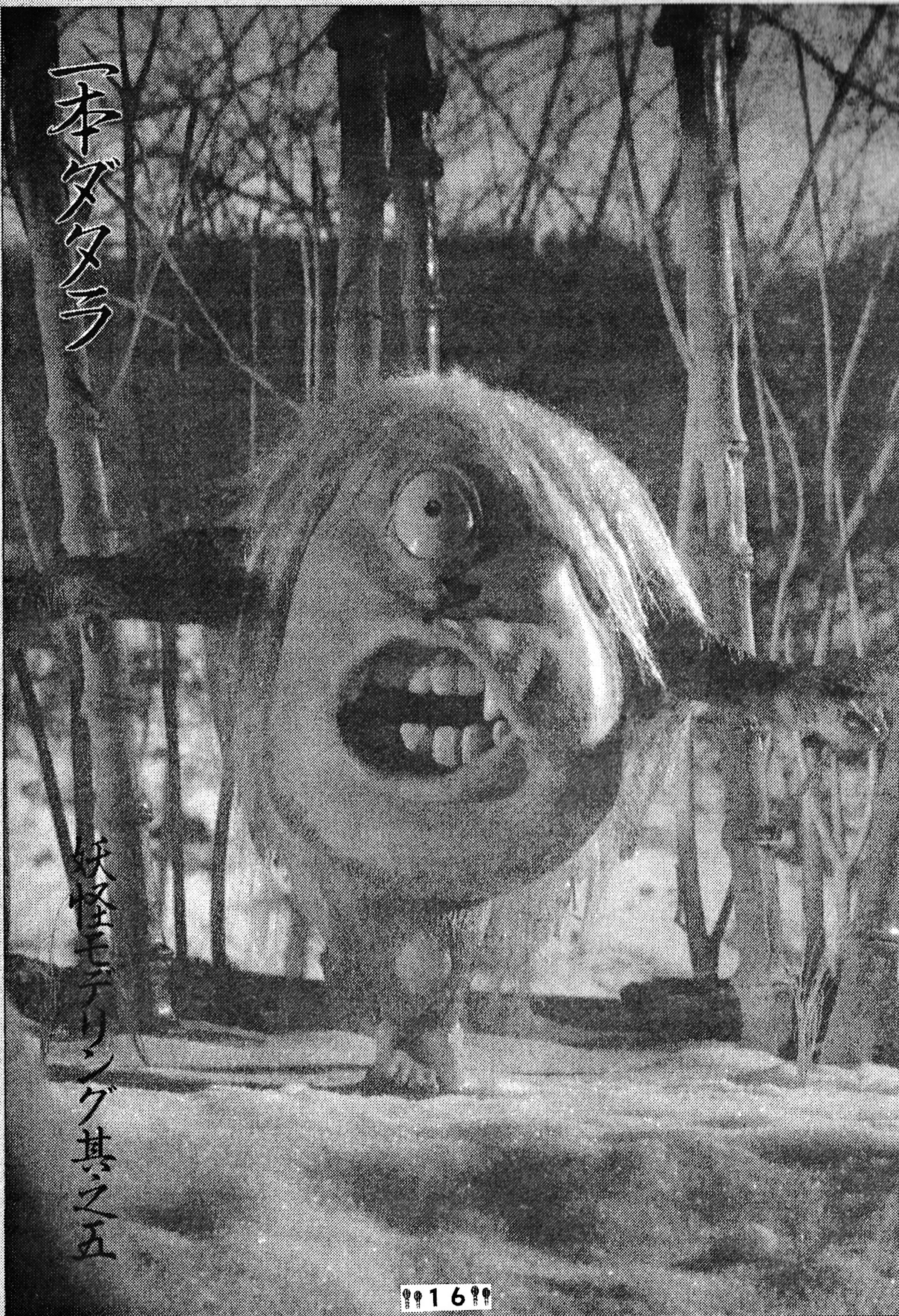
ホゾノコやカミソリノコで各パーツに切り離し、（中に針金の芯を入れたため、胴と尾の切断はしんどかった）胴の中をくり抜き、口の中のディテールにさらに彫刻を加え、各パーツの接合面を整えてやる。この時に舌ベロのパーツを作ってやる。また、頭のパーツにはファンドを盛りつけて頭の毛を作ってやる。

各パーツの修整が終わったら、再び溶きパテを塗って、原型は完成。シリコン型取り・ウレタン複製を行う。ウレタン取りの際に、今回のディオラマでのディスプレイの事を考えて、尾のパーツにはL字型に曲げたピアノ線を入れておいて、インサート成型し、尾の部分から出たピアノ線で全体を支えられる様にした。

●あみきりの塗装

水木先生曰く、「エビの様な色」という事で、エビの様な色にぬる。ただ、妖怪という事も考え、全体をまるごとエビの様に塗ってしまっては面白くないので、腹の面は緑っぽくしておどろおどろしくしてやる事にした。

まず全体に、完全つや消しのエビ茶色を塗り、その後、頭部のみに色が


一本ダタラ
妖怪モデリング其之五

水木しげる画



製作・文
オフィスレイドバック

セミクロス、ドラブラシの筆頭でフラットホワイトを塗ります。

頭髪はしつけ糸をベースにトーンをつけた後に、アームストロングの両目用ヘアーを貼ります。

●珍竹林の章

背景はもう簡単！10㎜のアクリルパイプを20㎝程に切断、エポキシパテを盛って、硬化後やすりでなじませます。モーターツールを溝引きして節をつければこれが竹の原形。これをキャストクレイで片面取りし、ウレタンで複製したものに本当の竹の枝を接着して角材で乱打ちしてしまえば立派なフェイク竹林が完成します。

●霊体験談の章

さてさて、突然ですがここで私の霊体験談をお話しいたしましょう～。

それは私が、会社勤めをしていた時ですから、今から3～4年前になります。季節は夏の真っ盛りの頃でした。

その日私は夜の11時頃まで作業していたので、隣駅まで行く電車がもうなかったのです。しかたなく途中の駅まで行ってそこからタクシーで帰る事にしました。夜中になってもタクシー乗り場はやけに多く、他の待ち客も多いためイライラしながらタクシーに乗ったのは1時過ぎでした。

駅を出るともうヘッドライトの範囲以外は全く暗くて見えません。私も連日の疲労感で半分眠くなっていましたが、その唯一明るい所を見据えていました。住宅街を抜けて林のある角を曲がる時に、女子高生が紺色のレインコートを着て歩いているのが見えたのですが、角を曲がりきると姿がどこにもなかったのです!!

「あっ」運転手が小声を出した時、私も同じ様に声が出たのです。「運転手さん、今たしか女の子が歩いてたよね？」「ええ、あっ、お客さんも見ましたか？」

スーッと血の引いていくような気分になって、後は運転手と確認し合ったまま、ただ夜道を飛ばしたのです。

その日は特に雨もなく、女子高生が夜中に歩いているのも不自然です。林の中へ入っていったとしたら尚さら恐いクあれ以来タクシーは夜に乗らない事にしたのです。

あ～なんかこう書いているのも恐くてしょうがない。（夜中に書いてるせいもあるか）皆さんの霊体験もぜひおしえて下さい。こういう事は皆んなで一緒に恐がりましょう。

この記事を読んでるあなたの背後を知らないだれかが覗いていたりして…



カット
No.14 古賀弘明

一本ダタラ

解説　水木しげる

雪の山中に、幅一尺ばかりの大足跡を見ることがある。それも二本足ではなく、一足の跡である。これは、「一本ダタラ」という妖怪の足跡で、和歌山県熊野の山中に、今も棲んでいるといわれている。

実際にこの怪の姿を見たという者はいないらしいが、一本足で一つ目、人に似た獣のように考えられているようだ。だいたい山に棲む妖怪、山の神といったものは、片目片足という通説があって、この「一本ダタラ」も例外ではない。ただ、"ダタラ"というのはあの「ダイタラ法師」の、"ダイタラ"と同じ意味で、その足跡から推し量ったものか、大人、巨人という風にも考えられているようだ。

一本ダタラ土俵入り

そろそろ日々春めいてきましたが、全国の妖怪ファンならびに妖怪サン方お元気でしょうか？今月はくっきめノものの屈曲仕様「一本ダタラ」を製作しました。(多々良純は元気かな？)

●頭部製作の章

頭自体が体を兼ねるという点でここが一番難関です。まず頭骨をフォルモで造ります。口腔内も完成段階まで整え、歯茎（歯も含む）や舌も盛り付けてやります。オーブン焼きで完全硬化後に修正、溶きパテまで行ってから上顎骨以上を盛り付けて行きます。この際は口腔内のスペースを確保するために手でのフォローが必要です。

頭全体が目的の形状になったら、目、耳、鼻を人物写真を参考にして盛り付けます。目は眼球を取り付けた後に瞼を盛りつけるという工程があるのだ。またオーブン焼き後、上歯を盛り付け目の上の溜稜(英語ではSuper ciliary arch というそうだ）頬骨、上下の唇を盛り付けます。上唇には大袈によ る盛り上がりを表現してみました。

結果、この顔はまるでナンシー・アレン?これはなぜか？私が彼女に惚れとるからです。失礼しました一。

●脚部製作の章

脚部は妖怪文庫版を尊重しました。と言うのも頂いたイラストではちょっと貧弱で…十立たせたい…十？本脚指がある方が面白いという理由があったからです。これが想像する部分があってなかなかユカイノ左右脚兼用という事は中殿筋・大腿筋等のマッスル系が2つずつあったり、写真では見えないけど爪は割れていなかったりで、この作業工程は楽しかった。最後にオーブン焼きしてから接着します。

●両腕部製作の章

両腕部は、イラストの左右対称より若干アレンジして造ってみました。

爪はラ・ドールを一個造ってから硬化後剥がし瞬着で再び接着、やすりがけを行います。

●不老林の章

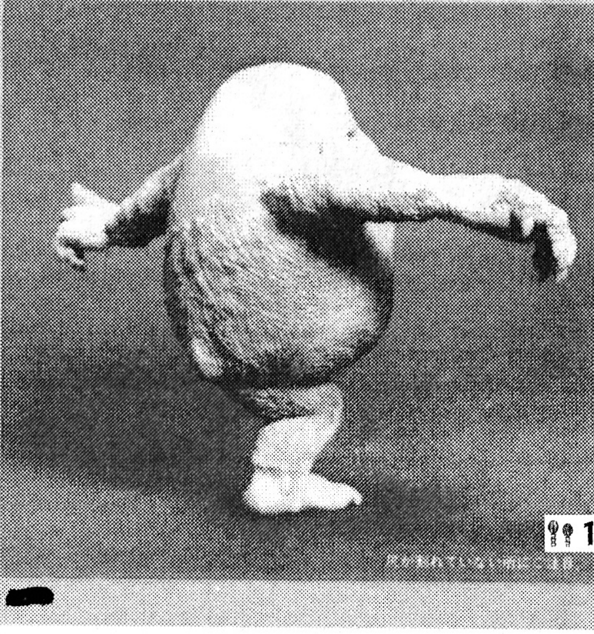
全身を被う体毛はラ・ドールを使ってみました。約0.5ミリ程度に伸ばして少しずつ表面にはりつけ、乾かないうちにナイフで刻すように毛の流れを表現して、生え際を整えてやります。

この作業も一度やったら病みつきになりますゼダンナ。

●塗装の章(カンロン付き)

「油すまし風な色を」という事で肌はガルグレーにほんの少しライトブルーを混ぜたものを使います。この色は黒を入れて体毛に、コバルトブルーを濃くして爪に使っています。肌に塗る際は実験的にグンゼのラフベースを使ってみました。感覚的にはトノコ使用に比べるとコントロールが効かないといった感じですね。

口腔内の色は濃いめのピンクをピースコンを突っ込んで塗り、歯茎も同色で塗装します。歯茎は特に正面からよく見えるので陰をていねいにつけて、歯を塗ります。メインはアイボリーの



[illegible]



[illegible]

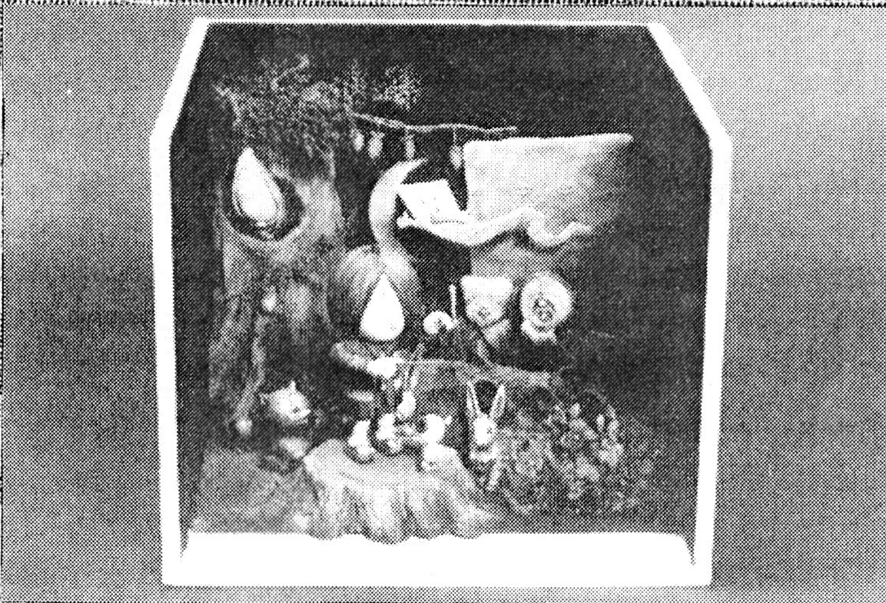

ゲゲゲの鬼太郎
妖怪モデリング其之

水木しげる画



妖怪コーラス

製作・文オフィス
レイドバック



▲最終的に完全なシャドウボックスに仕上げるつもりである。

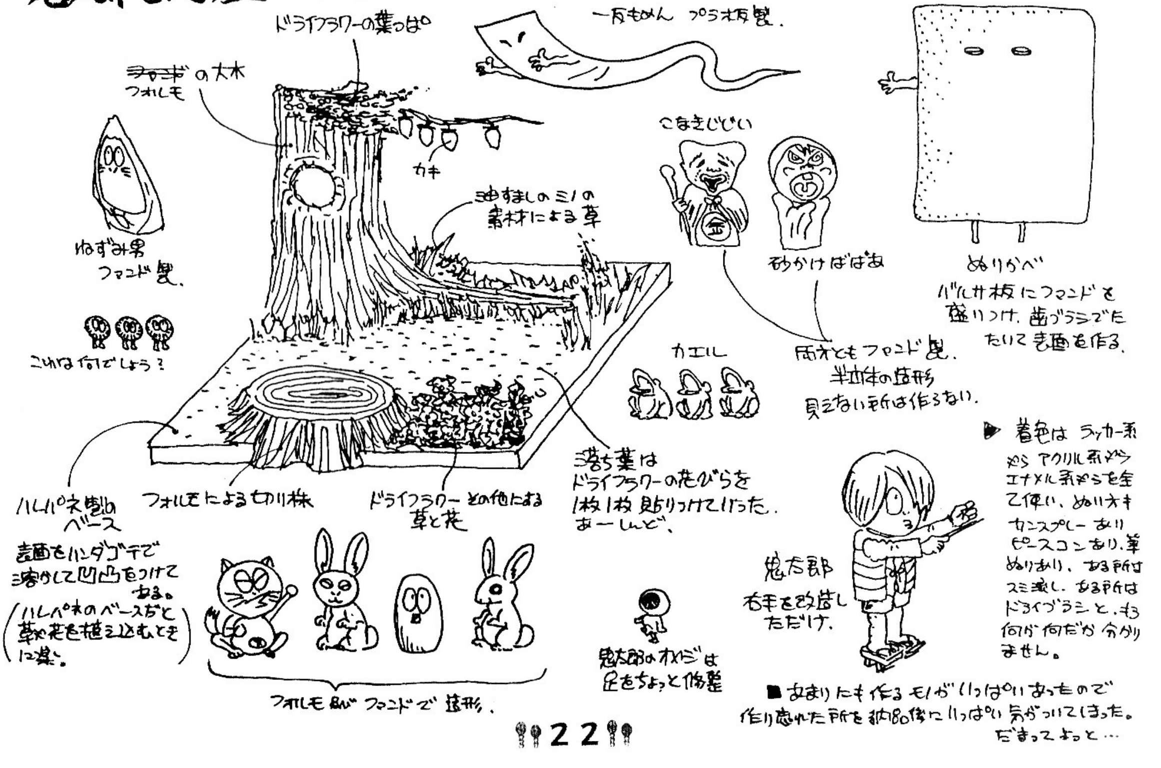
毎回このページは、編集担当のK氏との打合せにより、水木先生のイラストを私が物化し、K氏がそれを誌面にまでもっていく、という作業で行っている。過去何回かの作品は（牛鬼、あみきり）イラストをそのまま物化しただけであったのだが（今回のもそうなってしまった）K氏はそれだけでは満足してくれない。忠実な物化と共に、妖怪の雰囲気を作る事を要求してくれる。「形ができればいいってもんじゃないんのである。きびしいなあ。

K氏は常に現状に不満を持っていて何やらよく分からぬ新しい事を要求してくる。私だって、いつまでも同じ様な物を同じ様に作るというのは大嫌いなのですよ。

K氏は言う「もっと何か、恐い物を作って下さいよ。」

――それでは、もっと恐い物、見せてあげましょうか……

鬼太郎でぃおらまのひみつ




天井下り
妖怪モデリング其之七

水木しげる画



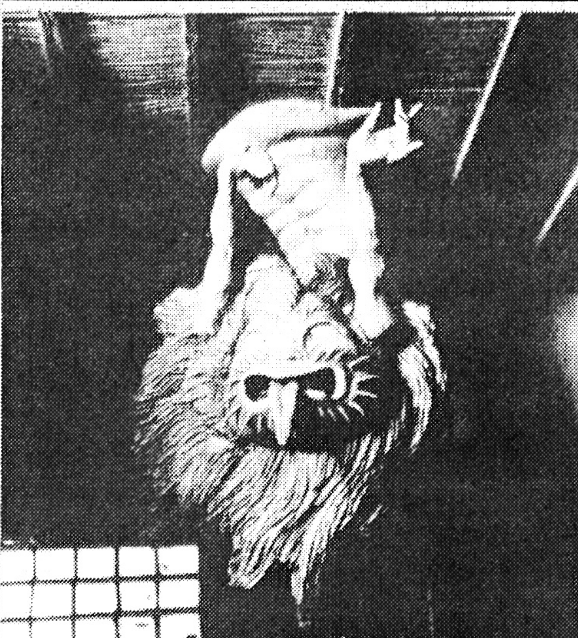
天井下り

解説　水木しげる

真夜中に、ふと目をさますと、よくこの妖怪が、天井にぶらさがっていることがある。人間がおどろいているすきに、屋根に穴をあけて逃げてしまう。

天井下りは恐い

製作・文
オフィスレイドバック（笈川治）



天井下りって気色悪い妖怪だと思いませんか。

薄暗い部屋で、ふと気配を感じて天井を見上げると、音もなくぶら下っているんですよ。ブラーリと。それで、こっちを見つめてニタリニタリと笑っているんですよ。今までずーっと見ていたよ、という感じで。たまらないですよ。

ま、別に人間に危害は加えない妖怪なんですけどね。いやらしいよね。出かたが。ただ人間を驚かす事のみに生甲斐を感じて生きている、という事に対しては、なかなか凄い生き方だと思うし、私も仲間に入れてほしいという気もしますけど。（私も入れてほしい…K）

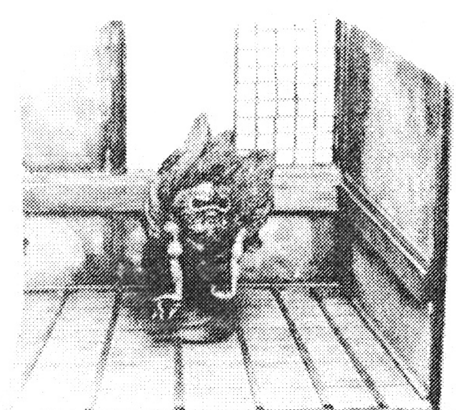
この妖怪、何がいやだって、天井から下がっているっていうのが、いやですね。別に、姿かたちは、そんな恐いという恰好していないし、よく見れば結構愛嬌ある顔しているよ。（以前に水木先生が描かれていた天井下りは、シワだらけの老婆の様な、もっと気持悪い顔をしていたけれど、今回描かれたイラストでは愛嬌ある顔をしていますね。）だけど黙ってぶら下っているというのはやめてほしい。

とにかく、ぶら下っているモノは恐いですからね。私は、死ぬまでに天井下りと首つり死体だけにはお目にかかりたくないと思っているわけです。ほんとに。

■造形に関して

今回、造形に関しては、特に書くべき新しい事は何もないです。相変わらずの紙粘土造形ですから。何の苦労もなく、簡単に出来上ってしまったし。造形そのものよりは、むしろ雰囲気を出すための撮影の方が大変だったのではないかと思います。

ま、今回も一応複製を考えていたので、頭・両手・胴体・舌のそれぞれのパーツに分けて作ったわけだけど、胴体のパーツがなんとも、ぶら下るモノに酷似した形状になってしまって、いやー、これはまた、どーも、いけませんなー、なんとも、はっはー、という感じで、恐い思いをしましたけどね…



[illegible]



これが複製だが、いらん事は考えんように、壁につけて、帽子かけ等に使えそうだな～。

キジムナー

妖怪モデリング其之八



水木しげる画



ガジュマルの精霊

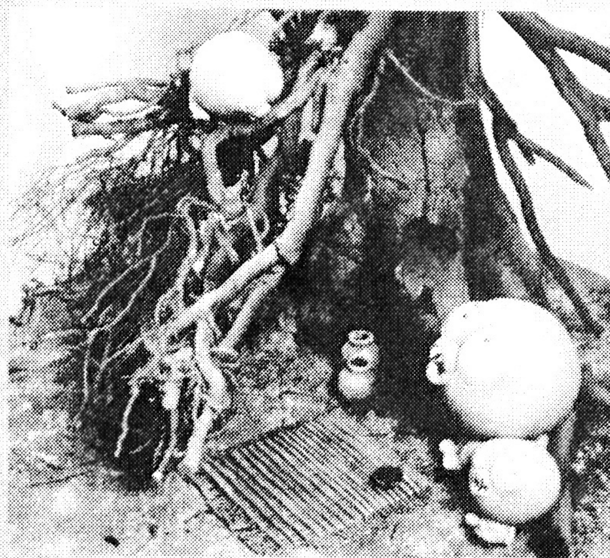
製作／画・レイドバック（柿沼朱里）

キジムナー

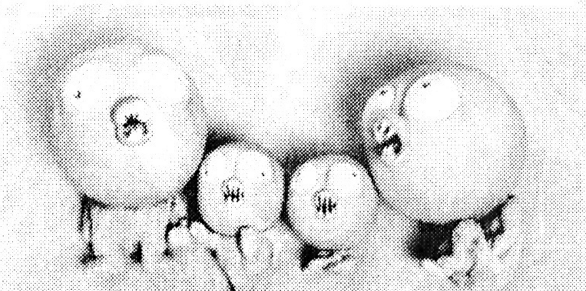
解説 水木しげる

キジムナーは、沖縄独自の妖怪で、ガジュマルの古びた木の精霊であるともいわれ、子供か赤ん坊くらいの大きさで全身が毛に覆われている。

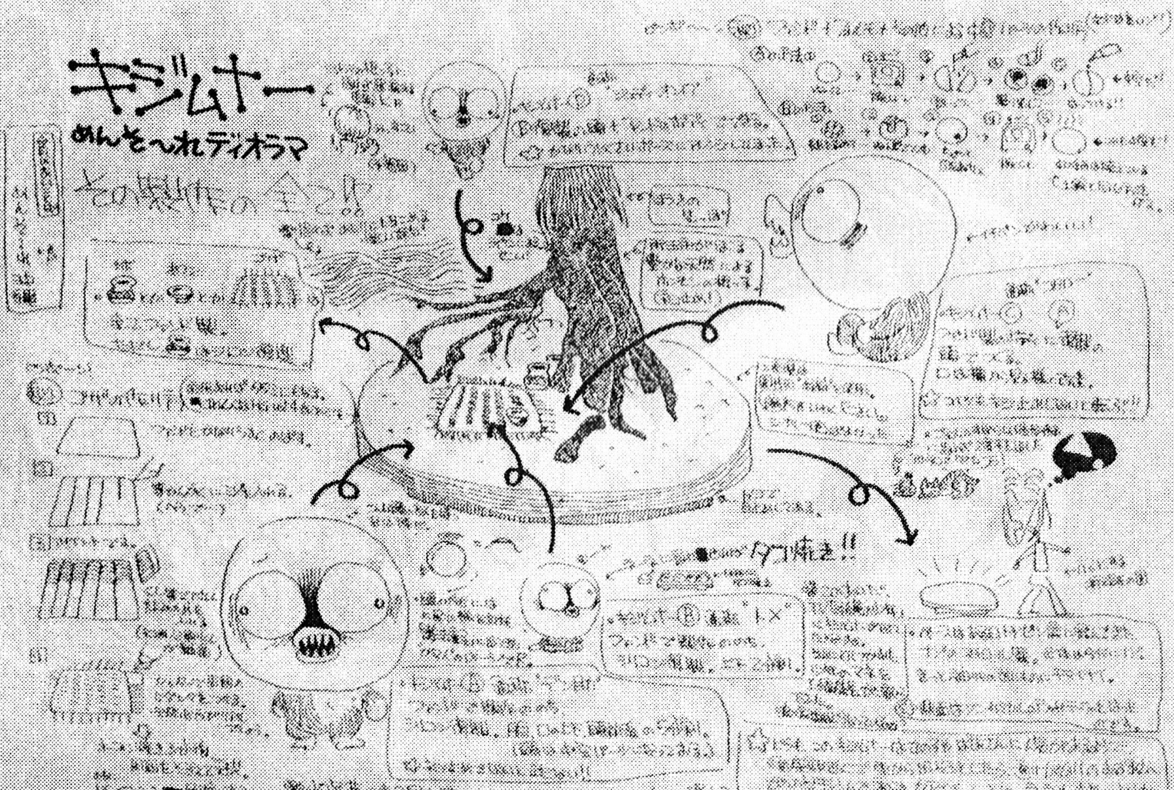
性格はいかにも南方の妖怪らしく、あまり陰にこもったことはしない。牛や馬にいたずらして飛びはねさせるなどたわいのないことをする程度で、魚や蟹を好んで食べる。



▲キジムナーは、河童の一種とも言われている。漁がうまく、火を発しながら漁をするらしい。

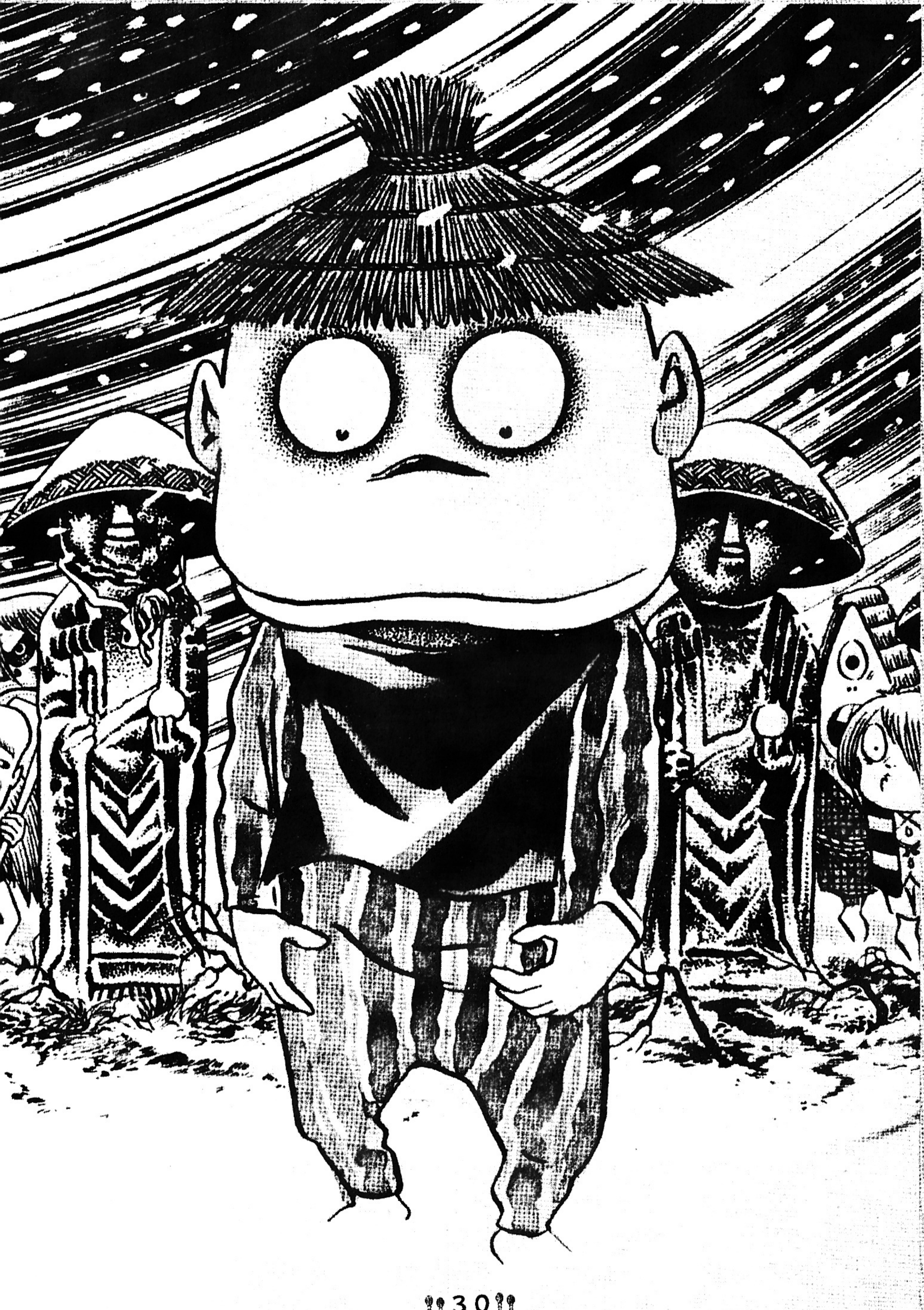


▲勢揃いしたキジムナー一家。




座敷童
妖怪モデリング其之九

水木しげる・画

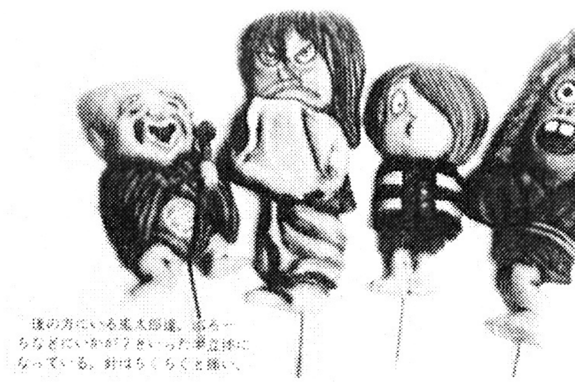


座敷童

解説 水木しげる

座敷童は東北地方に住んでいる妖怪である。明治四十三年の夏、岩手県土淵村の小学校にあらわれ、子供たちと遊びたわむれた。だが、小学一年生の子供にしか見えず、年上の子や先生には見えなかった。

昭和五年に、やはり遠野市の小学校に子供の幽童がでるといううわさがたった。夜の九時ごろになると、白い着物をきた子供が教室にはいり、机やいすのあいだをくぐって楽しそうにあそんでいたというのだが、やはりおとなには見えなかった。





ザ✦ザ✦ザの座敷童

製作・画／笈川治

ざしきわらし 製作説明図

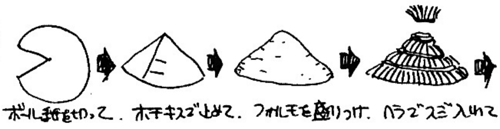
● 今回は「ざしきわらし」です。ざしきわらしだから座敷のジオラマ作らなければならないと思っていたのだが、雪の降る家の外なのでした。この方が作るの楽だけど…。



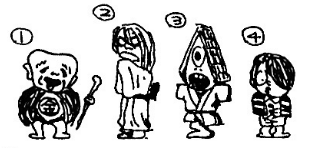
ざしきわらし
日東のキットの原形を複製してもらったものを使用。まえかけのみフォンドを薄くのばして自作した。

おは地蔵さま
これも日東のキットの原形を複製してもらったもの。それをさらにこちらでシリコン取りして2つに複製。

かさ

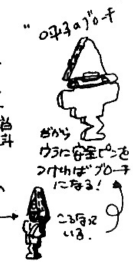


ボール紙を切って、ホチキスで止めて、フォルモを盛りつけ、ヘラでスジ入れて、オーブンに入れて乾燥させて、塗装する（ラッカー系のダークイエローを塗り、エナメルの黒をスミ流し、細部、バフでドライブラシ）



こなきじじい 砂かけ婆 呼子 鬼太郎
フォルモを使用。形を作ったらオーブンで乾燥させ、その後細部を修正。サーフェイサーを塗る。下地にラッカー系のつや消しホワイトを塗り エナメル系塗料にて彩色。

あくまで撮影用という事で、前半分だけのレリーフ処理。だから横の方から見ると→ こうなっている。



“呼子のブローチ”
だからウラに安全ピンをつければブローチになる！

ベース
ベースの作り方はいろいろある様ですが、時間も手間もかからないやり方として今回はこのようにして作りました。

① ハレパネを適当なサイズに切ってベースに使う。撮影用なので、やや大きめに作る。

② ハンダゴテでハレパネの表面を溶かしてやり、凸凹をつくる。

③ との粉を水でといたものに木工用ボンドと水彩の具の黒を混ぜてベースにぬる。

④ おすましのキットに入っているミノの補素材を使って草を植える。（ベースに穴をあけて植え込む）

⑤ 3Dスプレーで雪をふらせる。（あとは撮影時に編集部の方で塩をまくなどしてもらうことにする）




妖怪モデリング其之十
縊鬼
くびれおに
Model Graphix



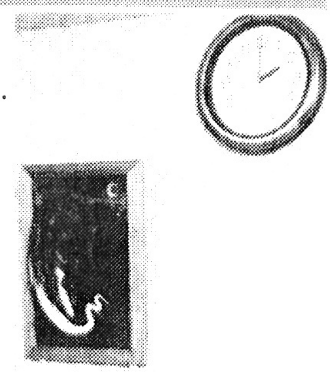


縊鬼

解説水木しげる

池や沼で、おぼれて死んだ人のうらみが、この世に残って、柳の下などに出て、いきなり通行人を引っぱりこむことがある。これを縊鬼という。

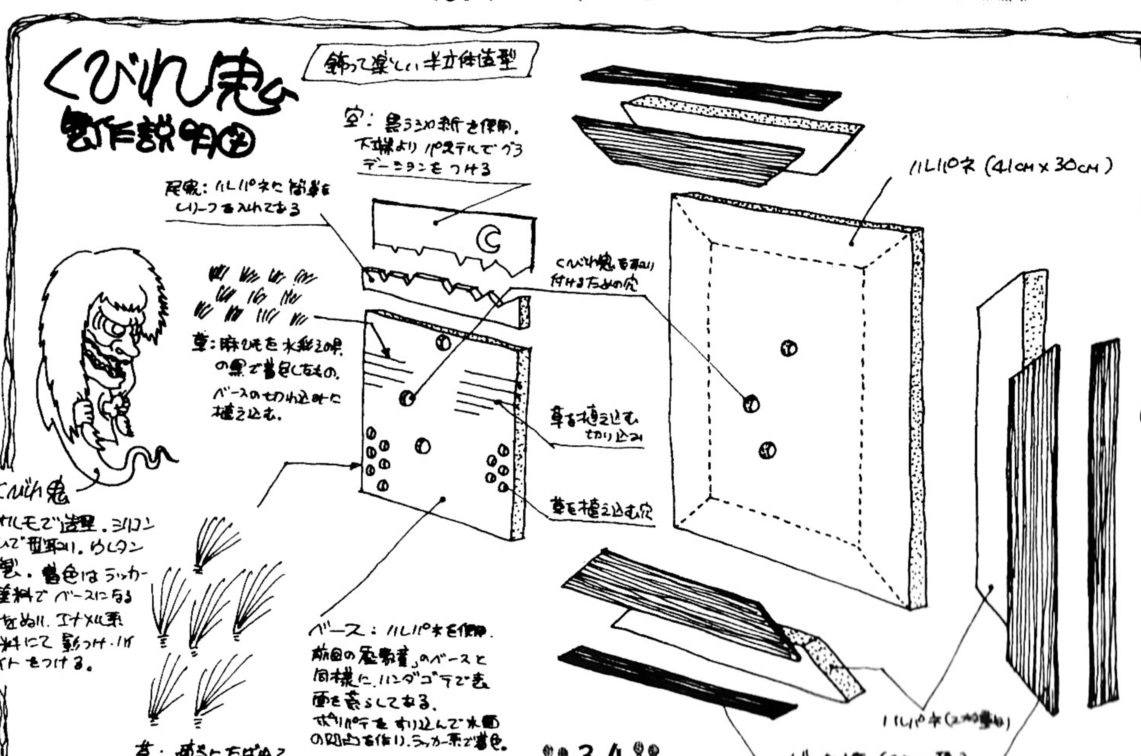
深い池や川などには、夕方になると縊鬼が出るといって子供は近づかなかった。酒などをのんで歩いていると、誤まって池や川に落ちて死ぬことがある。これを縊鬼が引きずりこんだと昔の人は思ったという。



▶今回の作品、実はこうなっている。与論島の青い海がこうさせたのだ。笈川家の壁に展示してあるが、奥さんは「気持ちわるーい」と言っている。

飛び出す妖怪画 縊鬼

製作・画／笈川治

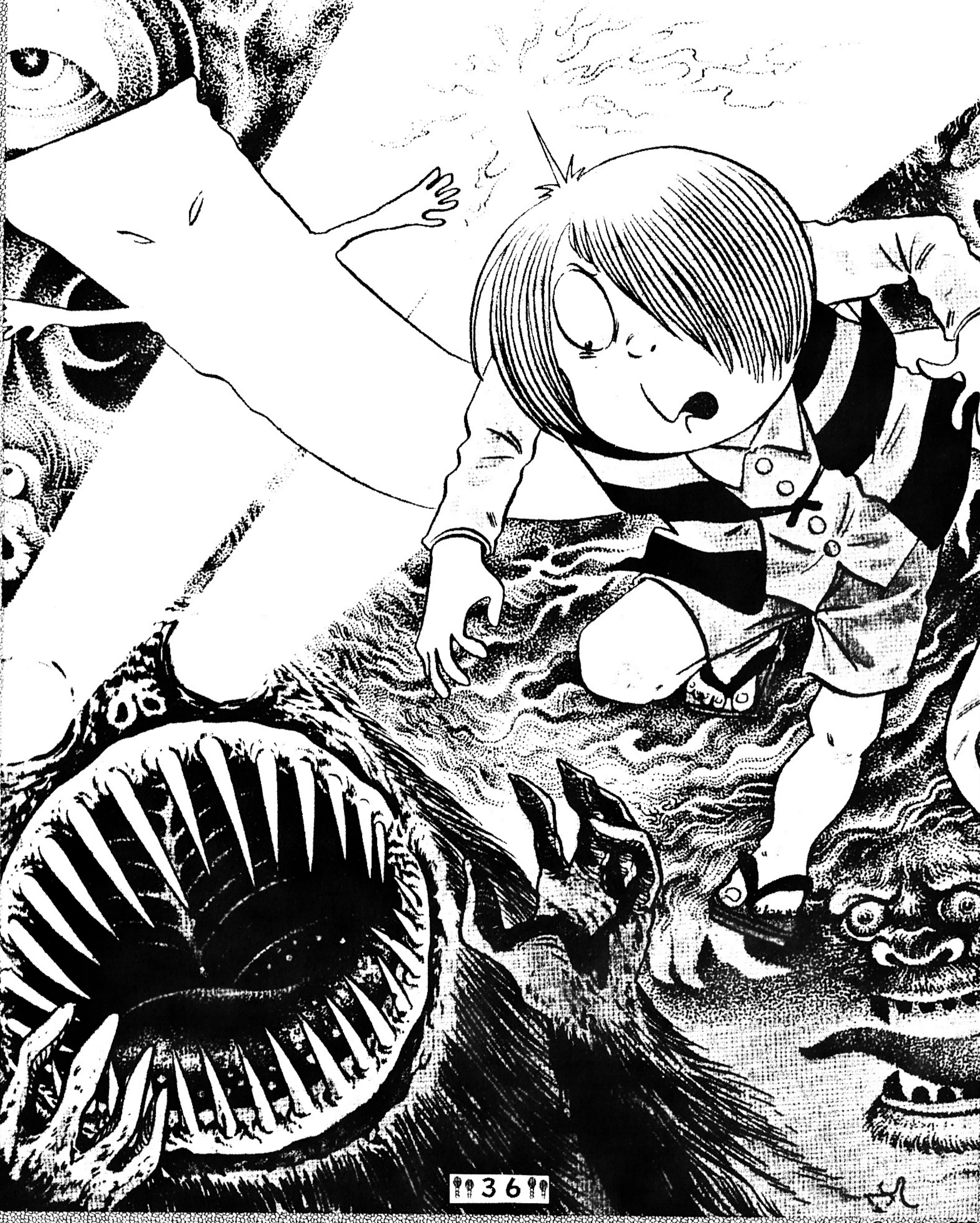


妖怪モデリング其之十一

鬼太郎対妖怪獣



水木しげる画



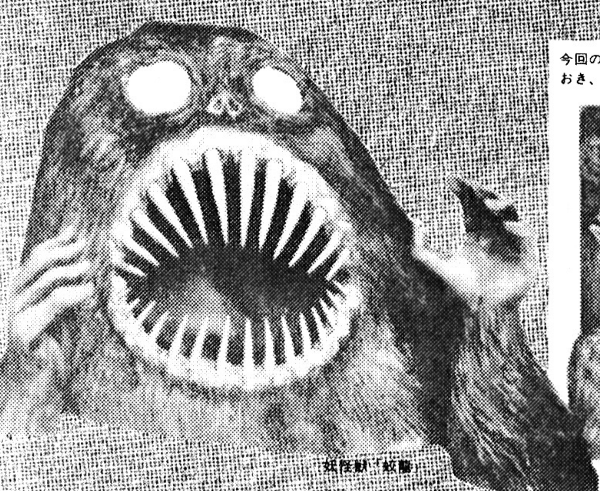
漫画映画化（てれびあにめ）記念対決！

製作・画／笈川浩
特殊撮影／小野寺宏友



愛好家の皆さんも御存知かと思いますが、いよいよ10月からゲゲゲの鬼太郎が漫画映画で放映されるのです／過去2度制作されており、今回が3回目になります。世間はだんだんあやしくなっていますから、妖怪たちも元気に活躍してくれる事でしょう。（月ドラの鬼太郎もそれなりにおもしろかったですね）

というわけで今回は、はりきって鬼太郎と妖怪獣との対決で特撮をかましてみました。いやあ、今回の特撮はっきり言って本誌始まって以来のめんどくせー撮影になってしまいましたよ。



妖怪獣「蛟龍」

今回の造形物の全て。背景は別に撮影しておき、投影して鬼太郎達と合成したのだ。

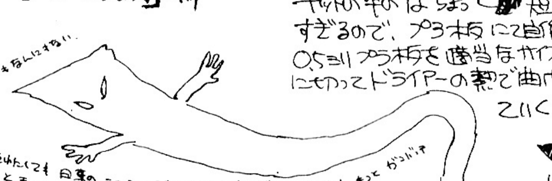




岡山県　岡本謙次さん

ゲゲゲの鬼太郎　妖怪獣「蛟龍（こりゅう）」編

ゲ・ゲ・ゲゲゲのゲ～
朝は寝床でグーグーグー……
……オイラにゃ楽しみも希望もなんにもない。



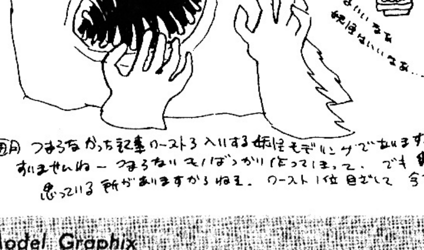
▼一反木綿
キットのものはちょっと短かすぎるので、プラ板にて自作。0.5ミリプラ板を適当なサイズに切ってドライアーの熱で曲げていく。

●今回のは撮影がたいへんだったそうです。背景はリアプロ。妖怪獣の目から出た光と鬼太郎の頭の毛から出とる光は多重撮影によるものだそうです。ごくろうさまです。

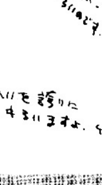
妖怪獣▼
まずはスタイロフォームにて大まかな形を作り、その上にフォルモを盛り付ける。食い付きがタタリ悪いがそれでも強引に盛りつける。そして一気に造形する。歯のみ後からエポパテで作ったものを植えてやる。



◀鬼太郎
日東のキットより改造。キットのままではパッケージイラストとポーズが異なっている所があるので、そこを直してやる。両手、両足の各関節部を切断してバラバラにし、角度を変えて接着し直す。接合部の修正。頭は内側をポリパテで裏うちしてから削り込んでちょっと小さくしてやる。



▼背景
ハレパネにフォルモを盛り付けてレリーフ造形。自然乾燥。ヒビ割れが生じたら再びフォルモをすり込んでやる。もっとオドロオドロとキモチワルク作ってやろうと思っていたんだが、なかなか思いどおりにはいかない。こんなもの。

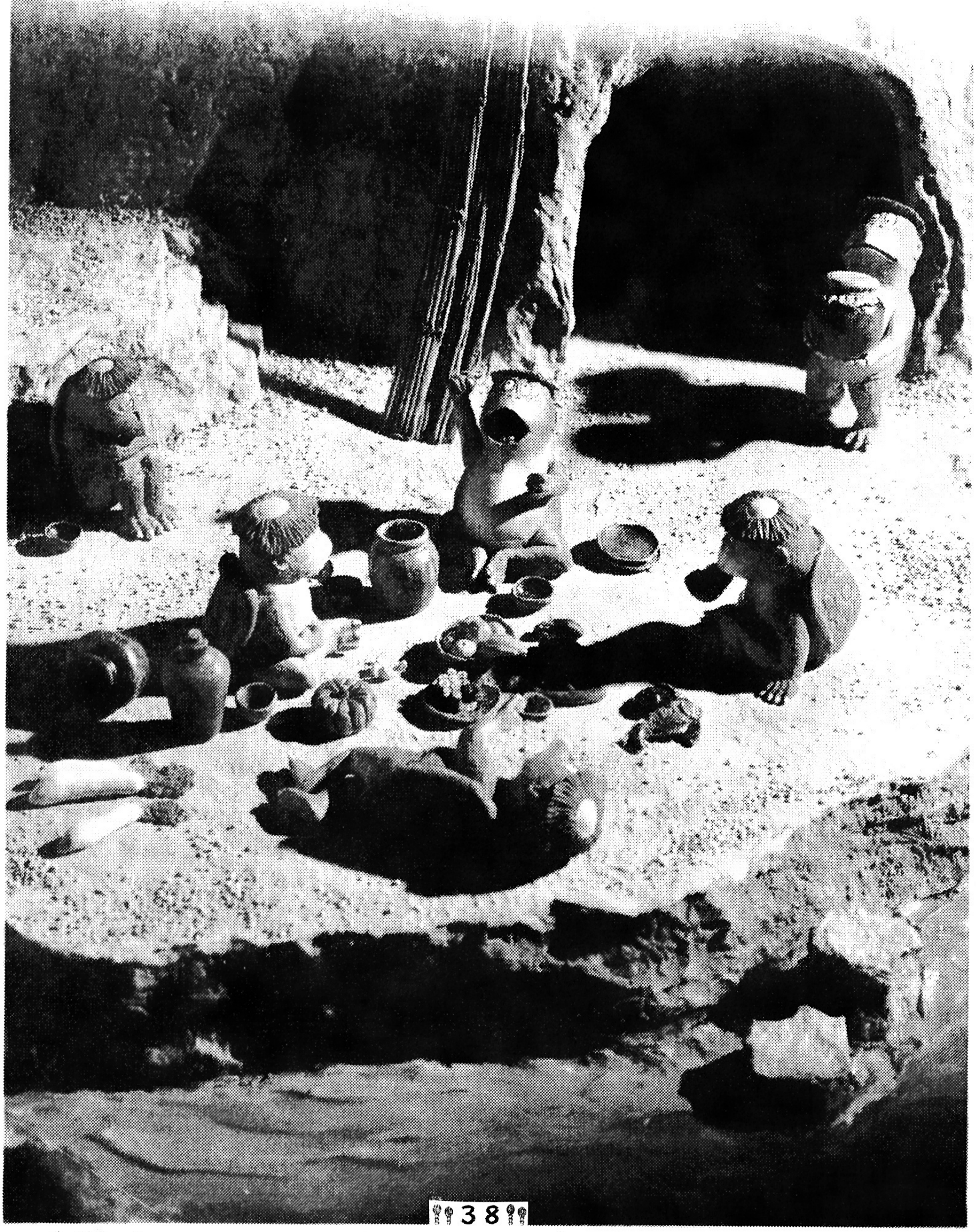




毎月つまらなかった記事ワースト3入りする妖怪モデリングでおります。すいませんねー つまらないモノばっかり作ってまして。でも編集部増田さんまんもワースト記事入りを誇りに思っている所がありますからねえ。ワースト1位目ざして今後もつまらないモノをいっぱい作らせてもらいますよ。ケケケケケ……

妖怪モデリング其之十二

河童の忘年会

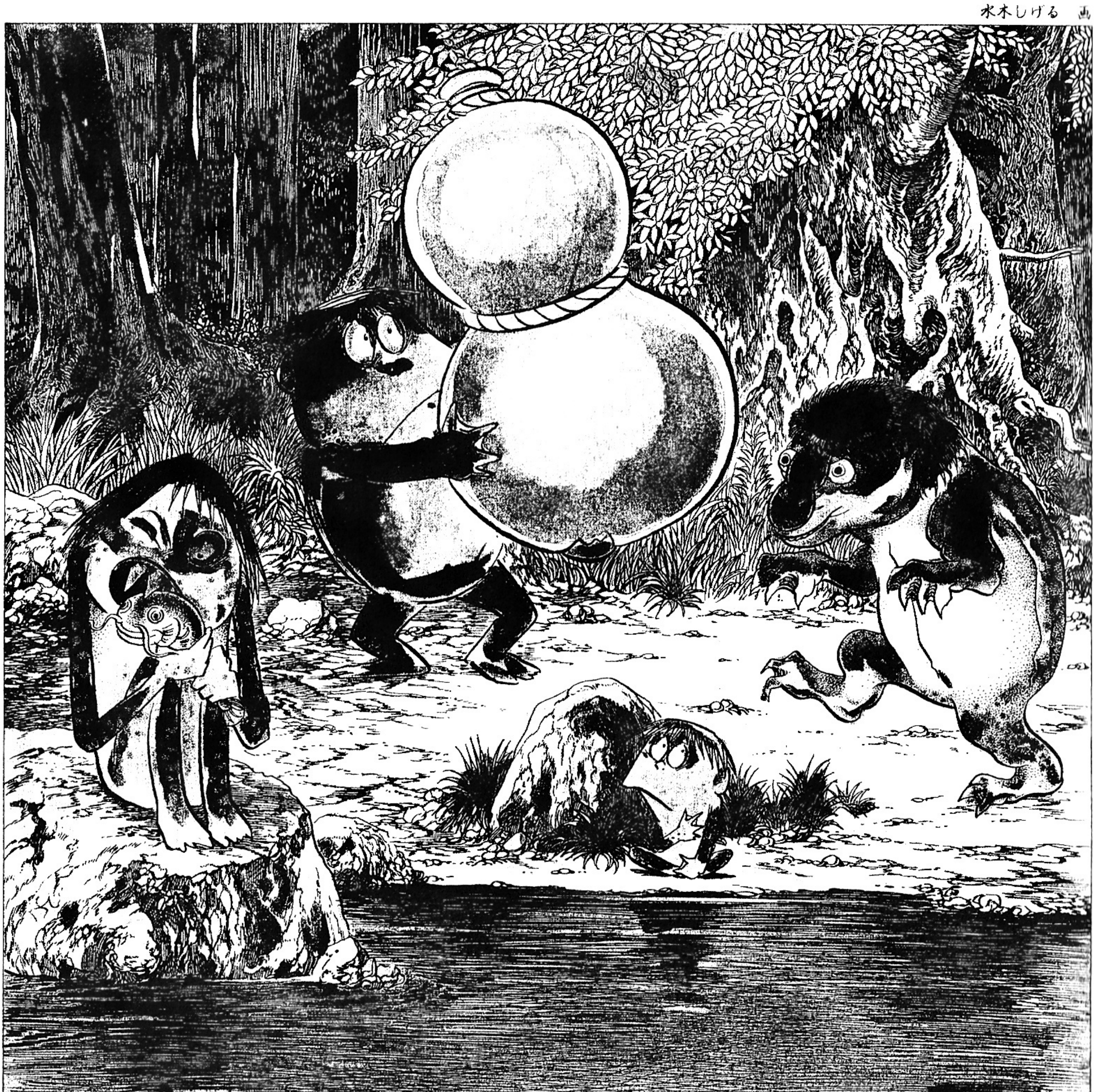


河童とは、もともと中国の河伯が、
大昔の日本にやって来たのが始まりらしく、
それがいろいろな形で日本各地に伝わり
百以上の名前で呼ばれるようになりました。
もとは水の神ですが、愛きょうがあり
昔から人々に愛されている、日本人に最もなじみ深い
妖怪だといえるでしょう。
ここに描かれたものは、左から四国に伝わるエンコウ、
真中はいわゆる河童、
右は滋賀に伝わる水虎であります。

河童の好物

河童はキュウリを最も好みます。
ナス、カボチャ、魚なども食べます。
特に九州地方の河童は酒が大好きです。
やはりなんといっても大好物は人間の尻子玉（肛門）です。

水木しげる　画



河童っぱたちの大宴会

冬…忘年会の季節。皆様、飲み過ぎには注意しませう。



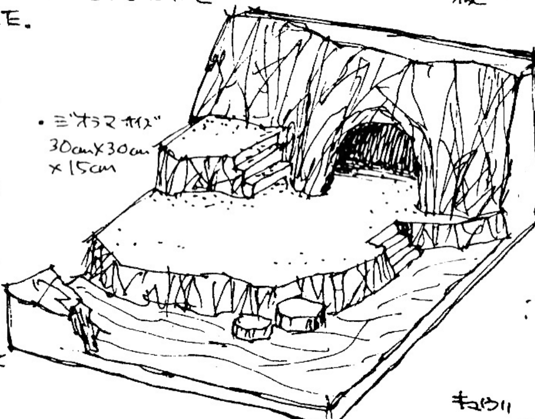
製作・画／笈川治

●前回までは基本的に水木氏のイラストをそのまま立体化していましたが、今回はちょっと趣向を変えて河童の宴会をテーマにオリジナルに作らせていただきました。本当は河童をもう2～3体作りたかったのですが時間の都合で6体で終わってしまったのが残念。しかし、壺やら椀やら食い物やらの小物を作るのは楽しい作業で、今月は躁状態です。

▲ベースはハレパネの上に発泡ボード（30mm厚）のブロックを組んでいき、大まかにカッターで削ったのちにハンダゴテで溶かして造形した。表面は木工ボンドにフォルモをまぜたものをぬりつけて仕上げをした。



カッパは酒が好きである。岩穴の貯蔵庫には酒がいっぱい保存され、酒宴の日毎に開かれる。他の酒好きの妖怪も酒を飲みにこの河童の国に現われるという。（壺、椀、その他全てファンド製）





▶酒を飲んで気持よくねむっている河童。もしくは弱いのにむりに飲んで■はきそうなのをこらえる河童。



▼酒が入ったとたんにやたら陽気になって叫びまくる河童。その場を盛り上げるのが自分の役割だと思っている。



▶陽気な河童の相手をする河童。顔は笑っていてもほんとはかなり疲れている。



▶酒やら食い物やらを運ぶ河童。こういう事をいつもやらされているのだが自分では何とも思っていない。



▶マイペースに酒を飲む河童。まわりの会話に加わっているようで実は何も聞いていない。



▼すぐに寝ころぶ河童。だがこの体勢も長くつづかず5分おきにすわったりねころんだりをくり返す。





《河童の食い物》
思いつくままに作ってみたが、カッパ巻はちとやりすぎか？（マンガには載っていたけれど…）

参考資料：「河童なんでも入門」（小学館）、「鬼太郎なんでも入門」（小学館）、「水木しげるの妖怪事典」（東京堂出版）、水木しげる短編傑作集〈幻想編〉「河童」（朝日ソノラマ）、その他…

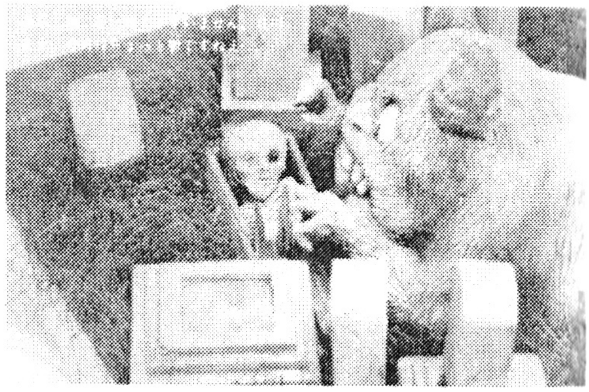

魍魎
もうりょう
妖怪モデリング其之十三



ぼち墓地行こうか…

製作・画／笈川治





魍魎

「魍魎」は、木や石が化けた妖怪だといわれるが、一般には死者を食べる妖怪と考えられている。

体は赤黒い色をしており、耳は長くてふさふさとした髪をもち、亡者の肝を食べるのが特に好きである。

昔から墓地のあたりに棲み、葬式の時には、棺桶から死者を引きずり出して食べることもあった。"火車"とは同類の妖怪だと思われる。

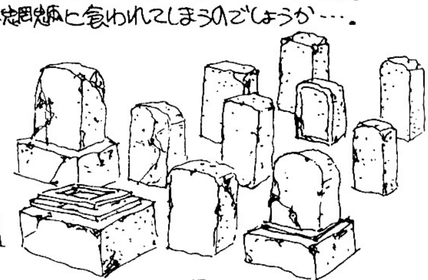
魍魎

新年そうそう魍魎であります。魍魎は死者を食べる妖怪であります。コワイですねえ。
ということは、死んだようになって生きている私などは魍魎に食われてしまうのでしょうか…。
今年は、いい事が、ありますように。

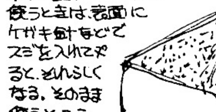
もうりょうという字は漢字で書くとムツかしい字が2つ並んでなかなかカッコイイ。まあ、そんなことはどうでもいい事ですけれどね。



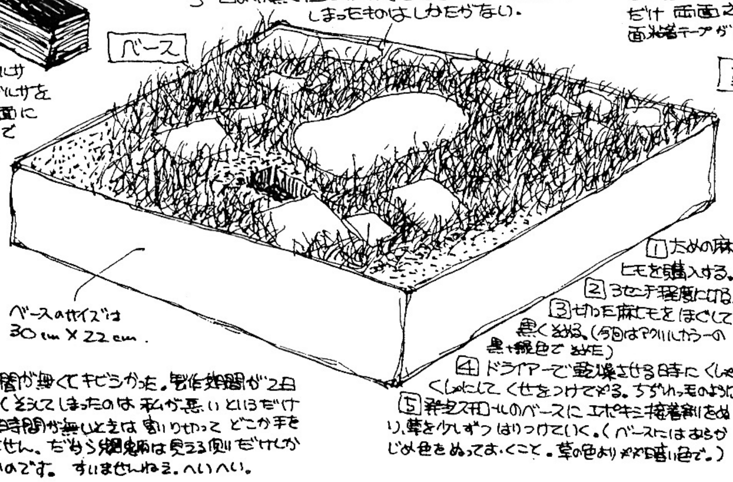
▲大まかな形をフォルモで作り乾燥させた後、体毛をファンドで作っていった。色はそれなりに塗ったのだが、後で妖怪文庫を読んだところ色は赤黒く、目は赤く、などと書いてある。塗ってしまったものはしかたがない。

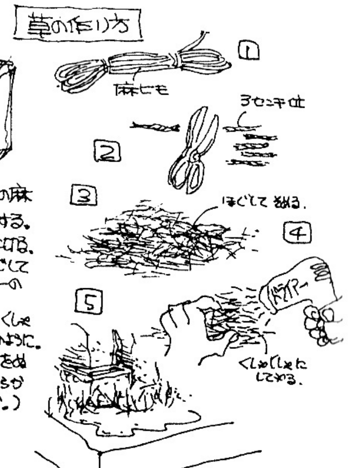


▲墓石は全てフォルモ製。全部に知っているやつらの名前を彫り込んでやろうかと思ったが、不謹慎に思えてきたので止めた。1つだけ両面之墓と彫り込んでやった。(目の前に両面粘着テープがあったので何となく)



▲屍はファンド、棺はバルサ板で製作。バルサを使うときは、表面にケガキ針などでスジを入れてやると、それらしくなる。そのまま使うとシラジラしくなる。





1 太めの麻ヒモを購入する。
2 3センチ程度に切る。
3 切った麻ヒモをほぐして黒く染める。(今回はアクリルカラーの黒+緑色で染めた)
4 ドライアーで乾燥させる時にくしゃくしゃにして、くせをつけてやる。ちぢれっ毛のように。
5 発泡スチロールのベースにエポキシ接着剤をぬり、草を少しずつはりつけていく。(ベースにはあらかじめ色をぬっておくこと。草の色よりやや暗い色で。)

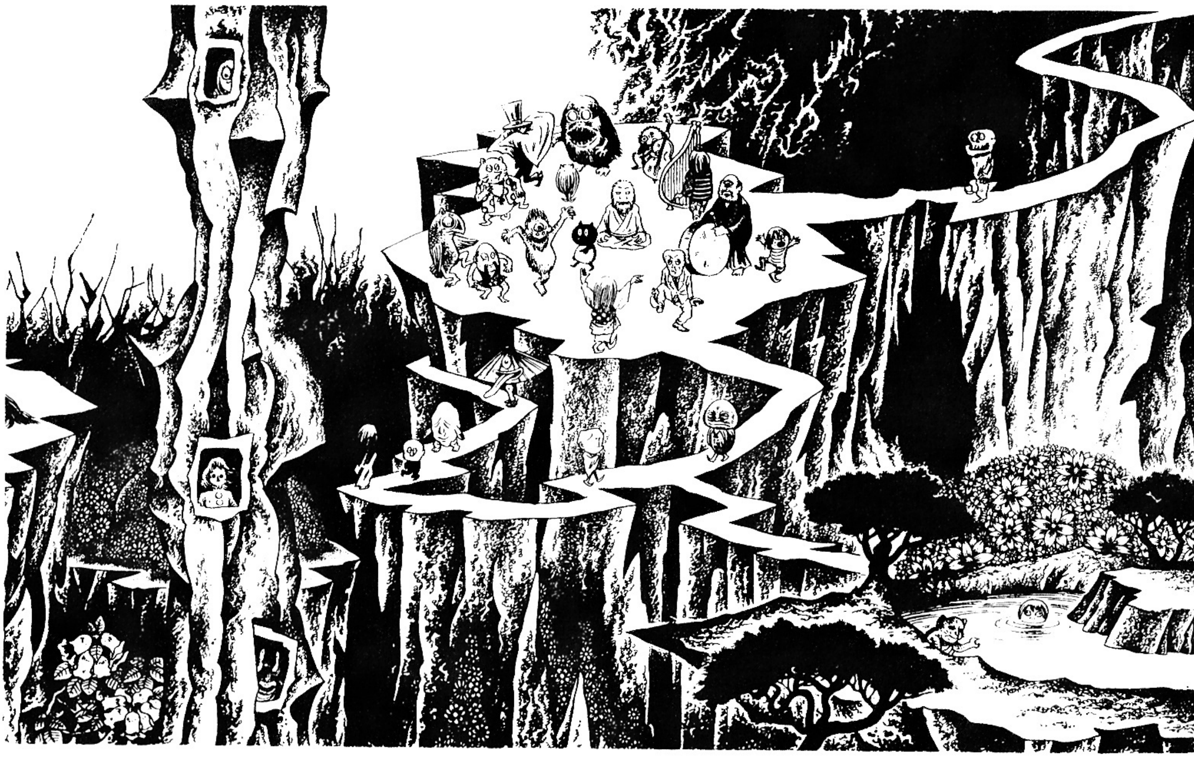
■今回は時間が無くてキビシかった。製作期間が2日しかなかった(そうしてしまったのは私が悪いとはいうだけの事です)。時間が無いときは割りきってどこか手をぬくしかありません。だから魍魎は見える側だけしか作っていないのです。すいませんねえ。へいへい。

妖怪モデリング其之十四

隠れ里







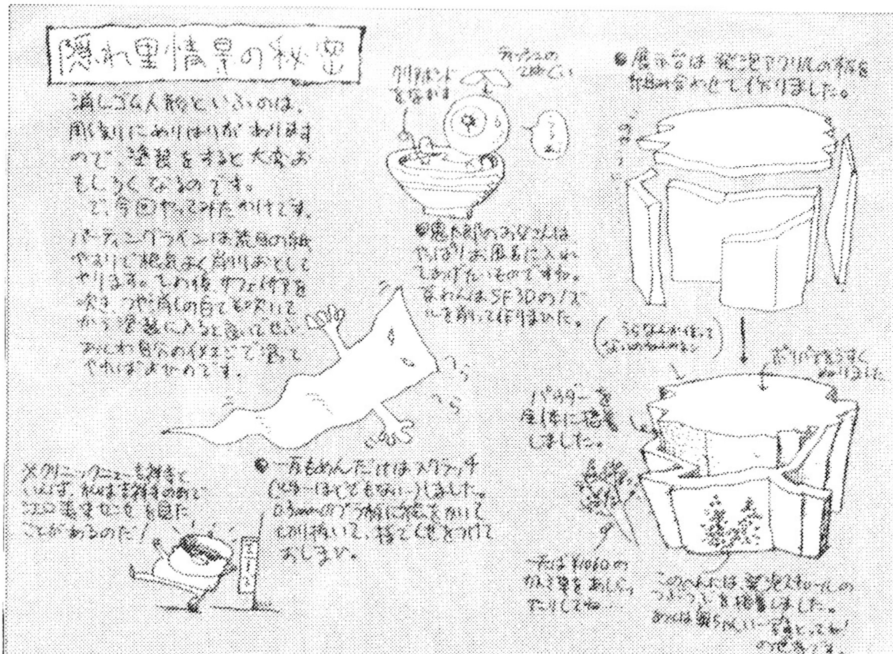
人間逃避の時代やね（意味不明）

製作／大林[illegible]

皆さま今晩は。河童の忘年会で、病状が回復しかけたと思われたのですが 刎?ないで再び落ち込み、とうとうクリニックニュー吉祥寺行きとなってしまわれた笈川先生の代わりに、今回製作を担当させていただきました。

早く人間やめて妖怪になりたい、と思っている私は、笈川氏とは昔よりの模型仲間で、色々な事を教わったり、楽しい妖怪の話をしたりしました。AFVやフィギュアなどをわいわいとやっていたのですが、いつ頃からか興味がうすれて行き、おもしろいと感じる事がなくなってしまったのです。さらには模型以外の事もつまらなくなってしまい、うんうんとうなっているのです。何か、大変重い病気にかかってしまったのです。妖怪の世界が大変すばらしい世界に見えてきます。私たちはそこにもっと近づきたいと思うようになりました。その表れが、笈川氏の一連の作品であり、私も連載を楽しく見ていたのでした。

という事で、今回の主題の隠れ里はすんなりと受け入れる事ができました。新しい年になって、妖怪たちが集まってきてあいさつでもしているのでしょう。あー、楽しそうですねえ。暖かそうですねえ。隠れ里への入口はどこにあるのでしょうかねえ………………。

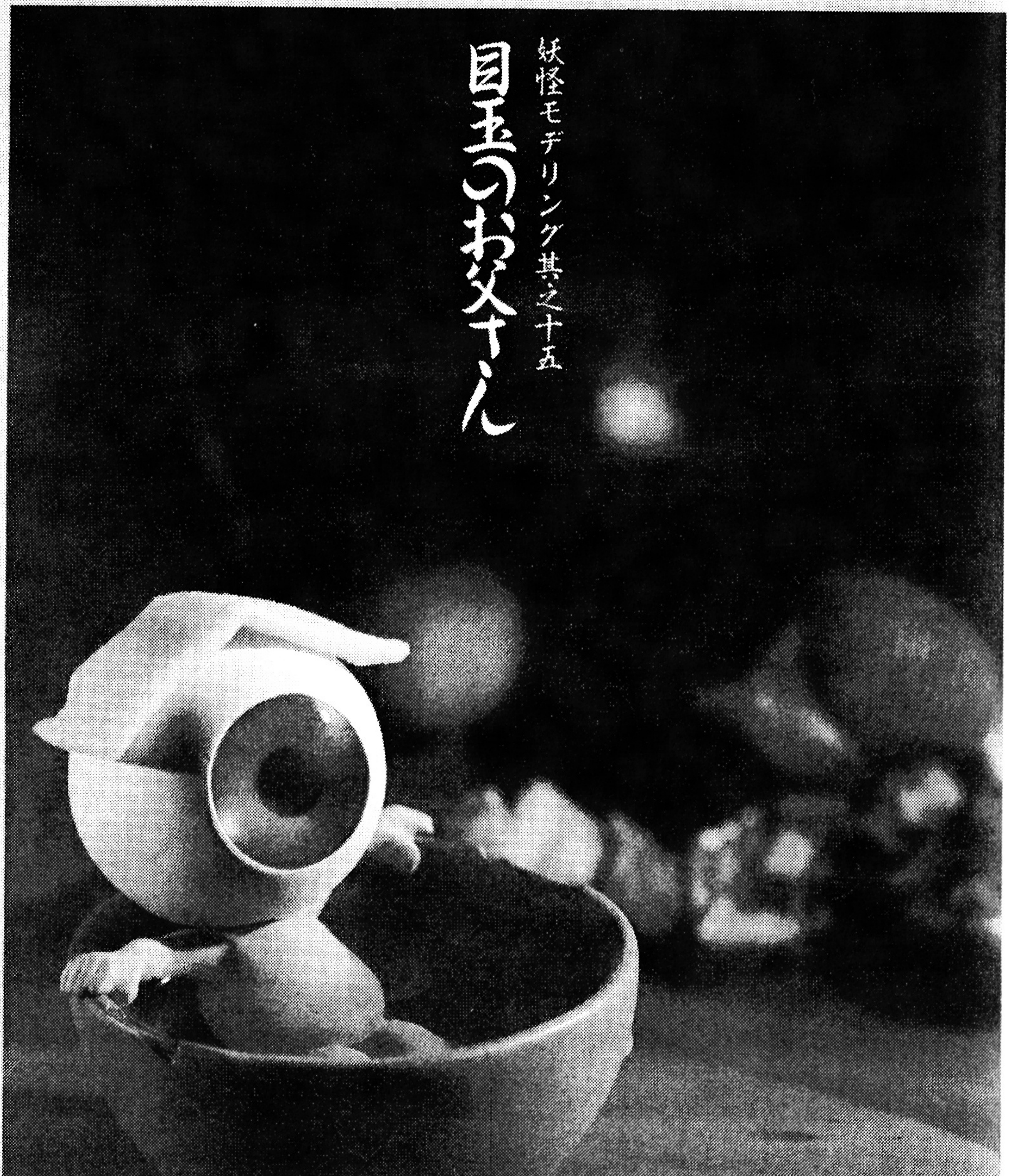


隠れ里

隠れ里のことは、人間だけがだれも知らないだけで、きつねやたぬきをはじめ、妖怪たちならばよく知っている地下にある世界なのだ。

地下にあるので、地上の気候の影響をうけず、一年じゅうぽかぽかと暖い常春の気候にめぐまれている。

妖怪たちは、ときどき、この隠れ里に集まることがある。


妖怪モデリング其之十五
目玉のお父さん

目玉のお父さんの秘密

鬼太郎をいつも見守っている目玉のお父さん。そのかわいらしい姿は昔から大変人気があり、今でも子供達に好かれています。そんな目玉のお父さんについての秘密を、水木しげる先生にお聞きしました。

幽霊族

編：水木先生、鬼太郎とお父さんは最後の幽霊族という事なのですが、人間が地上に現れる前から人の形をしていたのですか？

水木：しておったわけです。だから第一期人類と言われるわけですな。霊の要素が強かった。今の人間は霊の要素が少し減ってますけどね。

編：現在でも霊感の強い人はおりますね。

水木：たまにいるんです。遠く離れていても念力みたいなもの感じますよね。

編：何か、胸さわぎがするとか…。

水木：そうそう、そういう事ですね。そういう感覚を育てるって事しないでしょう。否定するばかりで…。育てれば育つんじゃないですか。スプーン曲げばかりじゃなくてね。

編：宇宙飛行士で、宇宙に出た時何かを強く感じてそういう研究を続けている人が多くいるそうです。

水木：先々は無限なんですよ。だから第二期、第三期人類が出て来ても不思議じゃない。

編：今の子供達はその予備軍かもしれませんね。

水木：で、鬼太郎というのは幽霊族、今の人間でないものの生き残りなんです。だから今の人間にない能力を持っている。ま、大きく分ければ旧型の人類でしょうけどね。

編：それで妖怪とは違うわけですね。

父の存在

水木：私は良く海外へ行って、色々貧しい国々があるけど心は豊かなんですよ。あれは日本にはないですね。

編：様々な競争が全てですから…。

水木：だから心を休めるお父さんはいないんですよ。休んでいる間に敵が勝つわけですから。はっはっは。

編：家庭も子供も顧みずに働き続ける…。それで存在の薄くなった父親を、子供たちは目玉のお父さんに求めているのでしょうね。

水木：そうでしょうね。こういう父親が欲しいんでしょうね。

お父さんの誕生

編：目玉のお父さんは目玉に手足がはえていますが、その原案というのは…。

水木：紙しばいだった頃、鬼太郎がねえ、悪いやつに追われて殺されかけるわけです。で船に乗って逃げるわけですけども、その時船の上で声がするんです。「鬼太郎、しっかりやれ！」だれもいないのにお父さんの声がするっていう所で終わったわけです。死んでるはずのお父さんをどうしたらいいかと思って一晩中考えてねぇ。

編：なるほど。

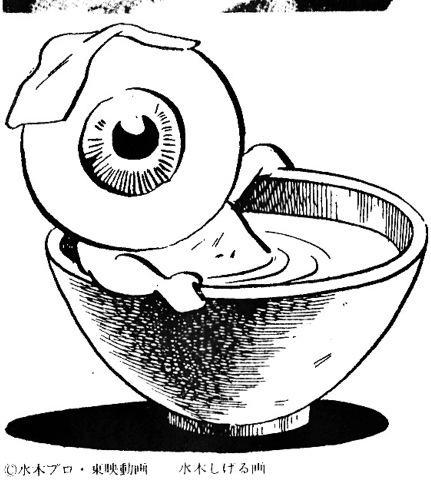
水木：実はお父さんの心は目玉と化してポケットに入っていたとして、2回目に手足をちょっとつけた。苦しまぎれに出て来たんですよ。

お父さんの心が守るわけですから抵抗なく受け入れてくれるわけです。奇妙な形をしとるけども父の魂を感じるからそれでなりたってるわけですな。そう、お父さんの魂みたいな物なんですよ。

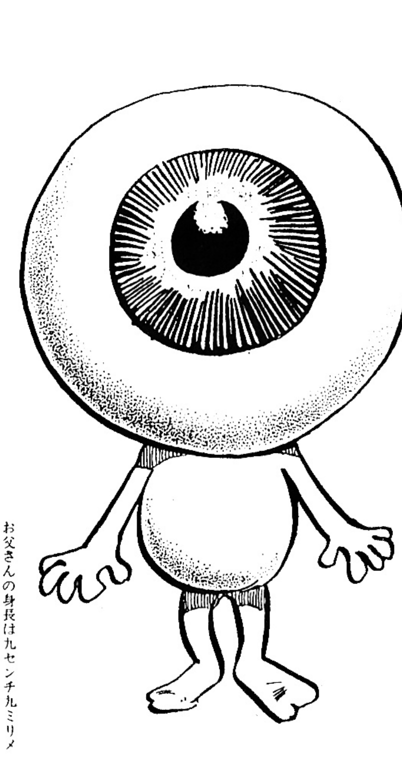
編：なるほど、そうだったんですか。貴重なお話をありがとうございました。



水木先生と目玉のお父さん。



お父さんの趣味・茶わん風呂
水木「最近ではお茶の種類が増えたから、色んな風呂ができますね。酒でもできるし牛乳でもできる。（笑）」



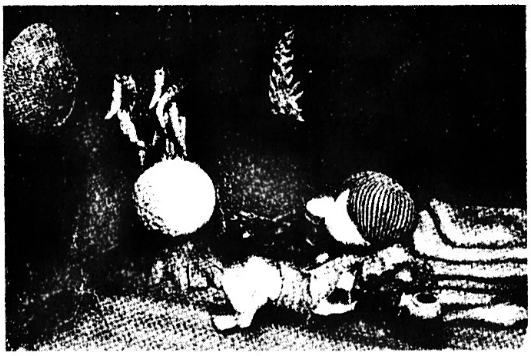
お父さんの身長は九センチ九ミリメートル。小さな体なので、良く踏まれてぺちゃんこになるが、すぐ元通りになる。

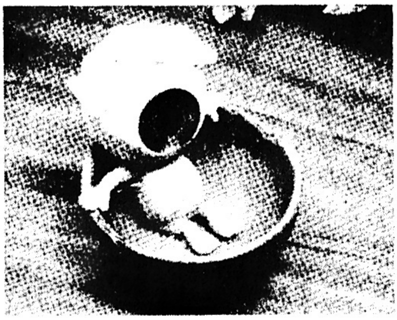
人間が知らない様な歴史や、妖怪についての研究をしており、鬼太郎の危機には助言を与える。鬼太郎にとっては本当に頼りがいのある存在である。

鬼太郎一家の団欒

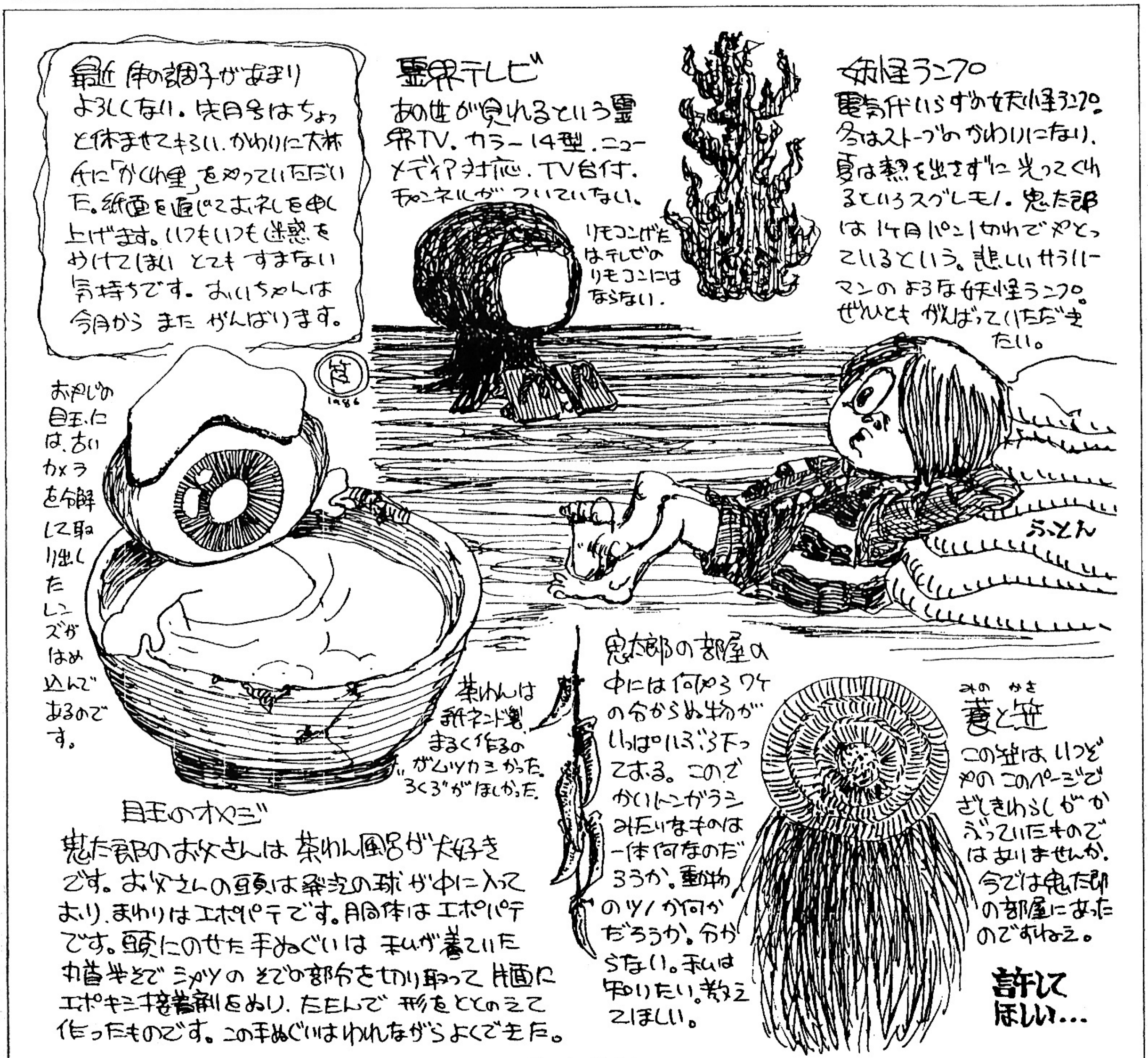
作・画／笈川 治

▶霊界テレビを見る鬼太郎。
「阿字ケ浦は波ひざからムネ風北東でオンショアか…。苗場は積雪190 cmくもりで滑走可能…。明日もいい日だといいなあ…」などと言っているワケがない。





◀鬼太郎のお父さん、今日は番茶風呂かしら？それともせん茶風呂…。烏龍茶風呂にも入ってほしい。




ゲゲゲの鬼太郎
妖怪大戦争
鬼太郎軍団対西洋妖怪　鬼界ヶ島でくり広げられる大戦争！
妖怪モデリング
Model Graphix

バックベアードの秘密

鬼太郎の中でも人気の高い、妖怪大戦争が劇場公開されるわけで、こっこれはすごい！というわけで敵西洋妖怪の大将であるバックベアードの秘密について水木先生にお話をうかがってみましたよ…。

妖怪大戦争

編：この春公開される妖怪大戦争ですが、見所といいますと…。

水木：あれはね、今の漫画と同じでね、格闘ですよ。

編：ほぼ漫画と同じ構成になるわけですか？

水木：そうです。まあ、女の子も見れるって事だからねー、女の子も出すけど。男とかばーさんとかばっかじゃだめって事ですよね。今は女の時代だから…。

編：最近は必ず女の子がでませんとね。えへへ。

さて、この作品の最後にブリガドーン現象というのが出てまいりますね。

水木：そうそう。

編：あれは地球のどこにでも発生すると考えられるわけですか？

水木：そういうこと。あーいう話出しちゃうとね、ま、西洋の妖怪だから良かったけどね。矛盾することがでて来るんですね。しょっちゅうふらふら出てくる。どーなんだ、っていう。まあ、短篇で読み切りだからそこまで子供たちは追求しないけど。

編：なるほど。やっぱり愛好家の中でも一番の作品のようですね。

水木：そうねえ、あれやっぱりもうちょっと長くすれば良かったね。敵をあれ以上戦わすのが難かしかったんですよ。はっはっは。

バックベアード

編：この作品ではベアードが敵の大将になっておりますが、その辺は。

水木：大きいし、強そうだから。小綿みたいでしょう。相撲取りでいうと、はっはっ。

編：どれ位の大きさがあるんでしょうか？

水木：かなり大きいわけですよ。四畳半位じゃないですか。

編：あー、そんなに大きいんですか。

水木：四畳半位あって、初めて驚くんです、人は。

編：他の妖怪をにらみつけて手下にしているずるがしこいというか、新しい感じの妖怪ですね。

水木：そうそう、新しい。ベアードはアメリカの妖怪でね…。アメリカ人はヨーロッパからの移民でしょ。そういう事とインディアンの何かとまざってこういうものができたと思うんですよ。

編：どういった人間の心の象徴なのでしょう。

水木：やっぱり、目っていうのは一番こわいですよね、だいたい。殺人鬼の目とか…。それ以上に目だけの妖怪もまた怖いわけです。そういうとこから来たわけです。

編：都市で生活している人間は、常に監視されているような不安がありますから…。

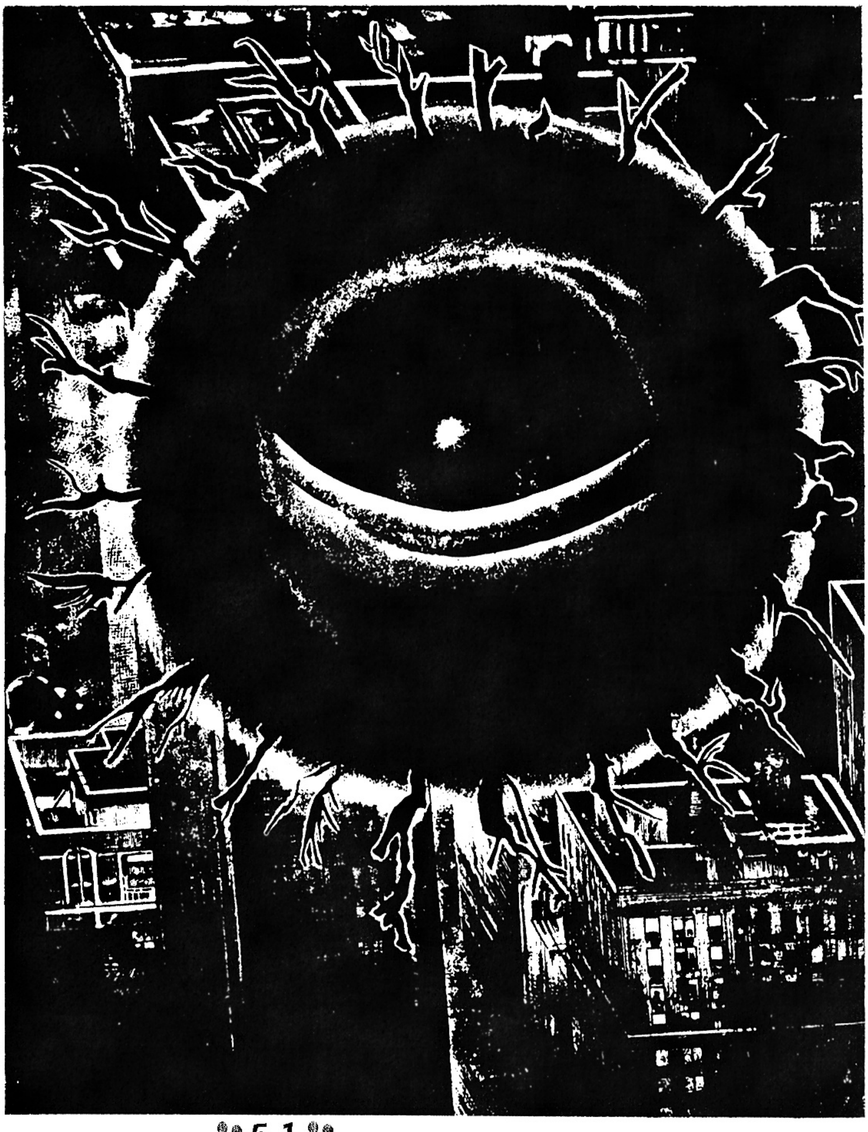
水木：そうですねえ。新宿なんかの高いビルなんかでも、どっかから見られてる感じだから、社内でもなまけられないしね。ははは。

編：東京に現われても全く不思議でないという事ですねえ。

水木：現われても不思議ではないですね。だから現代的な妖怪なんですよ。

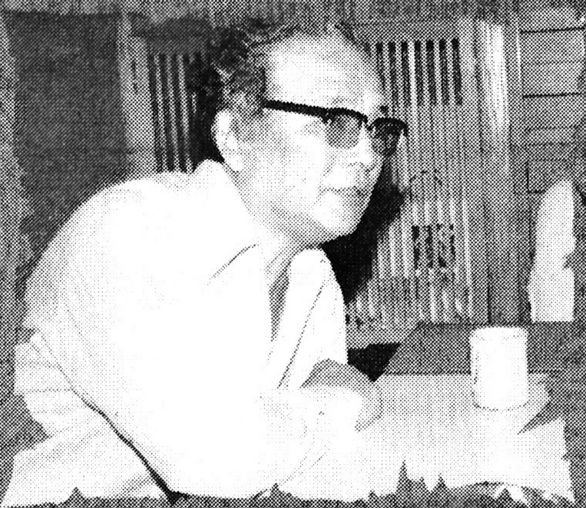
編：非常にそういう感じがいたしますね。

水木：そう、そういうことです。



アメリカの妖怪。夕がた近くに現われ、ぼんやりした人をにらむ。にらまれるとめまいを感じ、倒れてしまうので目を見ないようにしなくてはならないのだ。
妖怪大戦争の他に、鬼太郎のお化け旅行ベアード篇に登場。イギリスに現われ、ロケットで宇宙旅行をしようとしたが鬼太郎達にはばまれ失敗、袋に入れて焼かれてしまった。　水木しげる画


ゲゲゲの鬼太郎
幽霊電車
〝まいどご乗車ありがとうございます。
次の停車駅はばねつぼです……〟
妖怪モデリング其之十七



秋の妖怪模型談議

水木しげる先生妖怪インタビュー

秋も深まり、妖怪を感じる良い季節となって参りました。疑惑、怨念うずまくこの様な世の中で、本誌も早や創刊一周年でございます。妖怪モデリングも一周年というわけで、大変おめでたいわけであります。今回は一年間の連載頁と、作品の一部をお持ちし水木先生にお話をうかがってみる事にいたしました。

最新妖怪情報

水木：やあ、やあ、どうも。

編：ごぶさたしております。おかげさまで、本誌も一周年を迎える事ができました。そこで本日は、一年分の妖怪を御覧いただきながらいろいろとお話をうかがわせていただこうと思っております。

水木：はーっ。そうですか。

編：ゲゲゲの鬼太郎も新しく始まりまして、世間ではますます妖怪が盛り上がっておりますねえ。こういうわけのわからない世の中ですと、妖怪達もさわぎ出すのでしょうか？

水木：そうですねぇ。平和なようで不安な世の中だから、現実以外の世界を夢見るんでしょう。

妖怪は他の世界ですから。子供達にとって、勉強も、いじめもない…。現実以外の物にやすらぎを求めたいんですな。

だから旅行がブームでしょ。自分のいる所を遮断して、他の世界に行くという感じで…。

編：なるほど、最近ではいじめが入ってくるんですねぇ。そのせいなのかはわかりませんが、小学校高学年から中学生ぐらいの反響が大きいですね。

中には、妖怪は怖いので載せるなとか、夜眠れなくなったとか手紙に書いて来る子もいます。

水木：はっはっ。それだけ印象が強烈なんですねぇ。

編：ごく最近、水木先生が発見なさった妖怪はありますでしょうか？

水木：ありますよ。たくさんあります。

編：ええっ！た、たとえばどのようなものでしょう？

水木：あまり名前はよく覚えとらんのですが、十くらいあるんじゃないですか。"とんぼつき"とか、つきもので、目にみえないやつなんです。

編：はあーっ。きつねとか犬がつくのは存じておりますが、とんぼですか。

水木：とんぼというよりへびですな。あと、徳島県の"たぬき"。砂かけばばあなんかも砂かけだぬきなんて言う。

編：そうなんですか…。

最近では、模型屋さんにも妖怪が現れるといって話題になっているんですよ。

水木：ははァ。模型屋さんに。

編：冗談で書いたんです。欲しい模型があって、その時買わないでもう一度行ったら売れてなくなっている。妖怪"さきこうだ"にやられた、と。でも自分が"さきこうだ"かもしれないんですよね。

水木：ほほーっ。欲しいのがあって、なくなってたりすると、くやしいんですよねえ。こんつぎはそんなバカな事はするまいと思うわけですが、逆にいらん物買うんですよ。ははは。

編：ははは。

編：がさ、がさっ。よいしょっと。連載に使用しました作品を三つほど持って参りました。（あみきり、妖怪コーラス、一本ダタラ）

水木：ほおっ、こりゃすごい。これも細かい所まで良くできとる。これいただけるんですか？

編：（ぎくっ）えっ、は、はい。よろしければっ。（後で笈川さんに電話しとこう）

水木：（あみきりの）この地面が実に良くできてますね。こういうのはどうやって作るんですか？

編：これは石膏みたいなものにとのこや色を混ぜて作るんです。

私の実家、中野なんですがまだかやぶきの家が残ってるんですよ。その印象が強いのでこの作品にも思い入れがあります。

水木：実はね、あみきりの絵は、女房の実家がモデルなんてす。

私も、博物館を作ろうと思ってかやぶきの家を建てようと思ったんだが、今は消防がうるさくてだめなんですね。

編：あ、そうだったんですか。

水木：この鬼太郎もいいですね。この花とかは日東のに入ってるんですか？

編：いえ、それらは造花とかで、あとの動物などは、粘土で作ってあるんです。

水木：はあ、粘土で…。いやあ実にいい感じですね。

これ作られた方はこんな物ばっか作ってるんですか？

編：えっ、ええ、最近は…。

水木：それが職業？

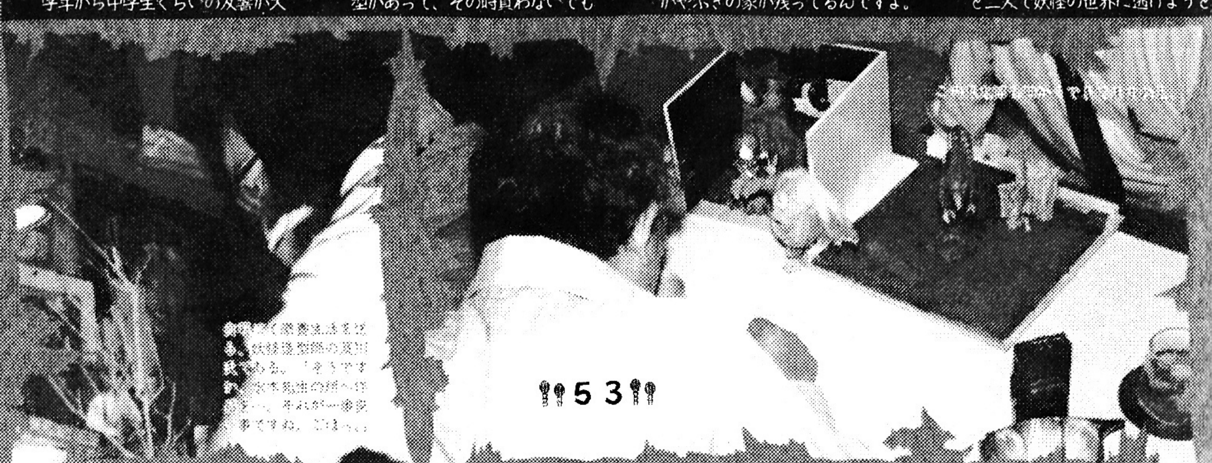
編：いえいえ、仕事のかたわらにですよ。

水木：仕事に身が入らんでしょうな。

編：はっはは…。どうでしょう？

水木：この人は結局、他の模型は作るんですか？

編：昔はばりばり作っていたんですが、最近ではこればかりで…。私と二人で妖怪の世界に逃げようと





しております。うううっ。
水木：模型マニアから妖怪に移行するっていう人もいるんですね…。やたら作りたいわけね。そういう人は。
　江戸時代の屋台とか、家とか、昔売ってましたね。今ははやらないんですかね。
編：そうですねぇ。でもあれなんかで町を作って、そこに妖怪を配するとおもしろいと思いますが。
　これを作ってる人は、いつか長屋みたいなのを作って妖怪を入れてのぞいてみたいと考えてるんですよ。
水木：あ！それはいい。それは絶対いいですよ。
　その、仮に長屋を作りますね。このぐらいの（20cm四方）六つくらい分けて、一個ずつ妖怪を入れてつなぎ合わせると長屋になると。そういう事も考えられますね。それ一個でも見られるとか。そういう物を作るといいですよ。
編：最初、あみきりもそういう考えで作り始めたんです。一つ一つつなげていったらと思いまして。
水木：そうですねえ。妖怪長屋とか、妖怪城とか…。妖怪城なんか１ダース位妖怪入れられますからね。今では妖怪ビルか…。
編：最近ではビルとか、妖怪マンションになってしまうんですかねぇ。
水木：昔、リカちゃんトリオなんてあったでしょ。ああいうので妖怪トリオみたいなのを作ってままごとをさせてもいいかもしれない。
編：妖怪料理とか。妖怪ＴＶみたいな小物もありますし。
水木：鬼太郎のへやね。
編：鬼太郎のへやはぜひ作ってみたいと思っております。
水木：鬼太郎のへやは、木を利用した小屋にあるわけですけど、その中にある物を、ちょっとふやしてみてもいいですよ。死なない薬とか…。(笑)
編：ごそっがさっ。先生、またおもしろい物を見つけて参りました。対空巡洋艦サンディエゴです。
水木：おおーっ。むーっ。日本で言うと秋月とか…。これは12cm位の高角砲ですね。アメリカで出したわけですか。これは。
編：イギリスのメーカーが出しています。
水木：イギリス！どこへ行けば買えますかね。浅草橋？
編：これは都内のある店で…。さがすとたまに出てくるんです。
水木：調布にも模型屋があるんですけど、日本のだけなんですよ。
編：あー。駅前のですね。
水木：活躍した国の軍艦が出るんですね。フランスなんかあんま活躍してないから…。
編：フランスのはスケールちがいで出てるんです。聞いた事もない、ジャンバールとかリシュリューとか…。
水木：ジャンバール！リシュリュー！リシュリューなんかおもしろいですねえ。あれは四連装ですよ、たしか。
編：1/400なんですよ。かなり大きいです。
水木：1/400！やはりねー、ちょっとちがうと問題がおこるんですよ。
編：あともっとくやしいのは1/720っていうのがあるんですよ。
水木：1/720っていうのは皮肉な大きさですね。なぜそんな手の込んだ事するんですかねえ。
編：イタリアのメーカーなんです。
水木：イタリア！ふうーん。
編：国ごとに適当に設定してるみたいですね。リシュリュー、よろしければ見つけて参りましょうか？
水木：いえいえ、1/400というのはちょっとね。1/700でないとね。
水木：これもあれでしょう。画集になりますよ。これ。妖怪模型画集。
編：ええっ。ぜひ出してみたいと思っています。愛好家の方々からもその様な手紙が来ています。
水木：連載も、あともう１つで１ダースになるじゃないですか。50くらいあるといいですねえ。まだちょっと足りないね。
　今日いただいた模型は本当にいい感じなんで、家に来たお客みんなに見せてやりますよ。妖怪の世界はこうなんですよと。
編：お役に立てれば幸いでございます。
水木：11でおわりそうなんですか。
編：いえいえ、そういう事ではないんです。今日は一年の区切りという事で。まだまだやりたい物はたくさんございますので。
水木：続けなくちゃいかんですよ。はっはっは。
編：本日は大変ありがとうございました。



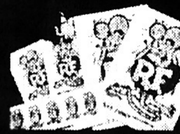
水木しげるは日本のエド・ロスだ！

イラスト・文／グローリー・アキラ





レベル社から発売されたエド・ロスデザインのカスタムモンスターのスケールモデル。いまでは入手困難なものもあり、プレミアが付いている。



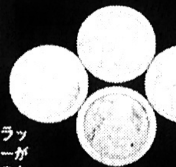
ラット・フィンクのデカールとキーチェーン。アメリカではコミック化されている人気キャラクター。



こちらは　ホットロッドカスタム・ショー95」にやってきたビートニックバンディッドⅡのスケールモデル。エドとラットフィンクのフィギア付き。



ラット・フィンクのスケールモデル。パッケージには若き日のエドの姿も。



写真では見えにくいが、ラット・フィンクとモンスターが描かれたコイン。お菓子のおまけで当たるともらえる。

エド “Big Daddy” ロス

1932年生まれ。イラストレーターで、ねずみのキャラクターでもおなじみの「ラット・フィンク」の生みの親。ピンストライパーであり、カスタムビルダーでもある。

カスタムの世界に興味を持つものであれば、エド“Big Daddy”ロスの名をいちどは耳にすることだろう。ネズミのキャラクター、ラット・フィンクの生みの親であることはあまりにも有名だが、多才な彼はピンストライパーでもあり、時にはカスタムビルダーとして「ビートニック・バンディッド」などのショーロッド製作も手がけている。

彼の作り出すホットロッドは、単純とはひと味もふた味も違ったカスタム・スタイルを持つ。長い年月をかけて培われたカスタム文化を持つアメリカだからこそ、彼のような人物が生まれたのかもしれない。では、日本はというと、独自のカスタム文化は培われているものの、いまだに彼のような人物は現れていない。ところがどっこい、日本にもエド・ロスはいたのだ。どんな枠組みにも、どんなカスタム・スタイルにも当てはまらない奇才が……。

その人物とは？「カラ～ン、コロ～ン、カランカランコロン♪」でおなじみ、ゲゲゲの鬼太郎の作者、水木しげる氏である。「えっ、水木しげる？ カスタムと関係ないじゃん！」と思うかもしれないが、実は鬼太郎や目玉おやじ、ねずみ男などの愛敬ある妖怪たちを描く一方で、自らの作品のなかに“妖怪自動車”と名づけて、カスタムマシンを登場させているのだ。

妖怪自動車には3タイプあり、1台は鬼太郎が普段の足として使っているもの。強いていうなら、スタンダードタイプということになる。ベース車を特定することは難しいが、登場回数が最も多いのがこのタイプである。

もう1台は、ゲゲゲの鬼太郎のコミック第6巻に出てくる『妖怪ラリー』で鬼太郎が乗っていたもの。このペー





鬼太郎のプラモデルはシリーズ化されて数多く出されているが、これは数年前にニットーから発売されていたもの。現在は童友社からシリーズで発売されている。

これはプラモデルを実際に組み立てたもの。多少手を加えてあるので、キットの内容とは異なる。



現在発売されている鬼太郎グッズ。カードやシステム手帳などのほかに、チョコレート菓子やキャラメルとその種類は多彩。もはや鬼太郎人気は大ブレイク寸前か！



ゲゲゲの鬼太郎のピンバッジ。茶碗風呂に入った目玉おやじが泣かせる！

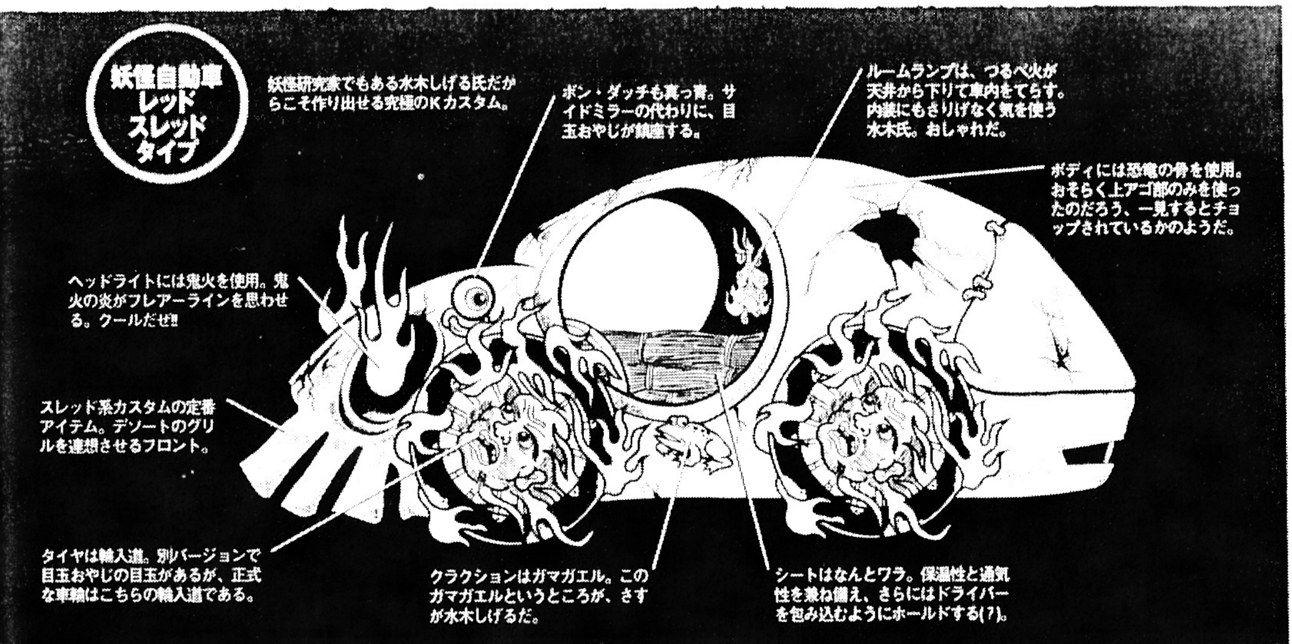


ゲゲゲの鬼太郎コミック（写真手前）と鬼太郎のクジ。大当たりを引くと指人形がもらえる。



水木しげる

1922年生まれ。マンガ家であり、妖怪研究家でもある。代表作品に『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』『河童の三平』などがある。1991年には紫綬褒章を授章。



ス車両はフォードのモデルTなのではないかと思われる。

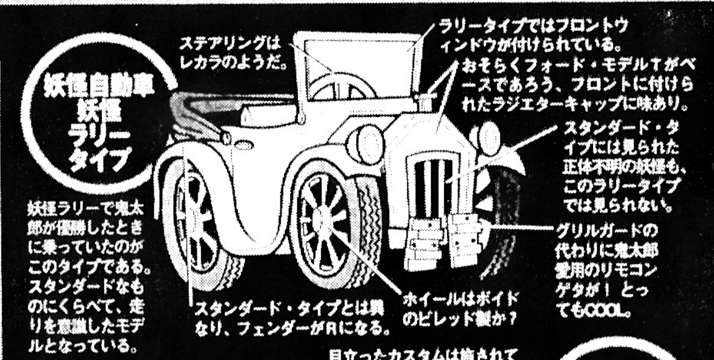
そして、3タイプの妖怪自動車の中でも、ひときわ目をひくのが残りのクルマ"レッドスレッド・タイプ"である。フィフティーズスタイルのCOOLな不良少年たちなら泣いて喜ぶに違いない。このレッドスレッド・タイプは本編で登場することはなく、「鬼太郎なんでも入門」という本の中やTVアニメなどで見ることができる。

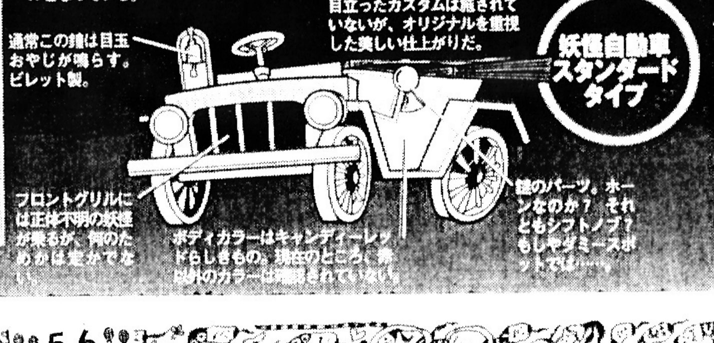
まずは、その完成されたデザインに驚かされる。ヘッドライトの鬼火がハートをHOTにしてくれ、また恐竜の頭蓋骨で作られたボディにめまいを起こし、輪入道のタイヤでノックアウトされることだろう!! カスタムの基本スタイルを押さえつつも、見事なまでに妖怪スタイルに仕上げられている。さすがに、水木ワールドだ!!

ところで、先ほど話をした「妖怪ラリー」だが、内容的には各国を代表する妖怪たちがレースをするというもの。おそらく「チキチキマシン猛レース」にヒントを得たのではないかと考えられる。それというのも水木氏の初期の作品には、色使いやカットなどにアメコミの影響が色濃く出ており、彼がアメコミを意識していた様子が感じられるからである。彼の作品に出てくるクルマは、どことなくアメリカを思わせるデザインが多く、アメリカのカスタム・スタイルを初期の段階で取り入れて消化した結果が、水木氏のスタイルとして確立したのだろう。

さあ、この"奇才"水木しげる氏の世界にハマったあなた! 彼のつくりだす妖怪自動車が、街を小意気に走る姿を夢見つつ、「ゲゲゲの鬼太郎」を口ずさむ日も遠くはない……?

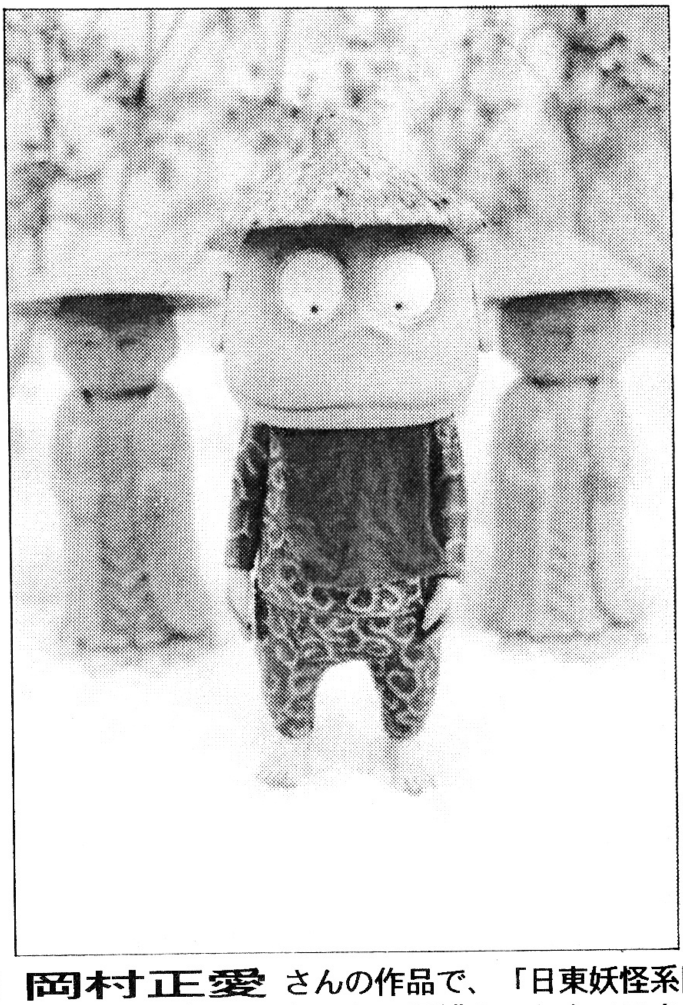






フハッ読者の

妖怪造形教室



◆会員№.２３８ **岡村正愛** さんの作品で、「日東妖怪系図」の『座敷童』をディオラマ製作して撮影しました。あの粗雑キットをここまでリアルに仕上げた腕前はお見事です。

水木ワールドの立体のミリキ

ヘッジフォッグテイル／つちのこ

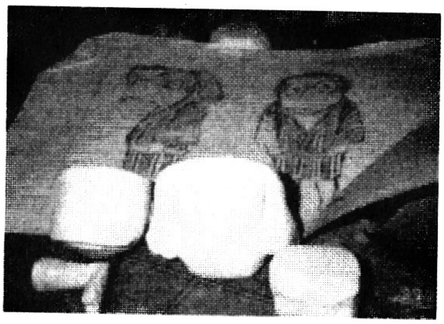
最近、数多くの水木キャラが立体化されていますが、どれも着色済み完成品が殆どです。私は、日東の『水木しげる妖怪系図』のような安価なインジェクションキットがまた発売してくれればなぁと、思っていますが、今はプラモって感じじゃないんですかねぇ。それに、最近発売の商品は、昔とは比べ物にならない程のディテールを再現しているのがガレージキット。ただ、ネックなのが値段でしょうか。レジンキット（ガレージキット）での製作となると、プラキットとは大きな価格差が生じます。材料となるレジンが高価だからです。小規模なメーカーでは、大手のように金型からなんてできませんから。でも、先に述べたように細かいディテールと、大手ではなかなか発売しないような物まで手に入れることができたりする良い面もあるんです。（**パイロットエース**の吸血鬼エリートとか）

ガレキの祭典

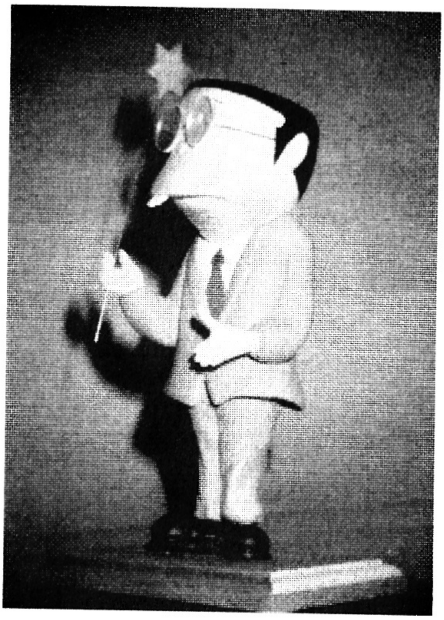
年に2回東京ビックサイトで開催されている、『ワンダーフェスティバル』（以後WFと略）を皆さん御存じですか。簡単に言うと、著作権をクリアして一日だけ（開催日のみ）販売権利を取った商品を、販売することのできるお祭りみたいなもんで、千以上のプロ・アマのお店がでます。コスプレなんかしてたりする人なんかもいて、ちょっと独特な場ですが、ここに足を運んで分かった事は、水木キャラを出しているブースもかなりあるんです。妖怪造型専門の**SKS**さんや、フィギア王の水木しげる特集の中表紙になった**維新組**さんの鬼太郎誕生や大海獣ャラなどもあり、その他いくつかのブースで扱っていました。言うまでもなく、皆すばらしいデキです。何を思ったか今では、私自信参加してしまっているんですけど…。

前回（夏）の参加でまだ2回目でして、新参者の為要領よく進んだ試しがありません。出店名は『Hedgefog Tail』（ヘッジフォッグテイル）といいまして、勿論、水木キャラ一直線です。一応、テーマを持ってやって行きたいと思っていて、今のところ短編人間キャラを中心に製作しています。中でも、水木キャラにおいて先生自身も好きでいる『そっ歯の男』を、数々の短編登場バージョンで作って行きたいと考えています。今のところ、『そっ歯の男』、バージョン違いで『下柘植のイタチ』、『空想石の少年』といったものを出しまし。次回開催されるW・Fには（2000年冬）、今のところ『そっ歯の男』河童バージョンでいくつもりです。後、過去の作品は完成品で出そうと思っています。やっぱり、ガレキを作れる人ばかりがW・Fにやって来ている訳じゃぁないし、完成品ならと言ってくれた方もいたので、何とか期待に添えたらと思い実行となりました。と、言っても全然進んでないんですけど…。

完成品は、塗装が大変手間がかかるし、その分販売の価格を上げないと割が合わないのが現状。ただ、プロ・ディーラーではない私は、限り無く自己満足でやっている訳で、ノルマがあったり、売れないと明日の生活も…。と、言う訳でもないので、何とかこの値段を抑えてだせそうです。別に売れなくても平気という訳ではないですよ！売れたらメチャメチャ嬉しいのは当たり前。まぁ、三度目の挑戦なんで、今までの失敗を活かしての再チャレンジってとこです。W・F出店は、年一度ぐらいにして、これからも、水木キャラを作り続けていきたいと思います。いい歳なんですが…。



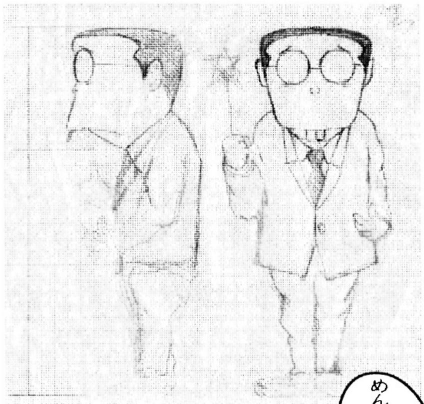
↑製作途中。バラバラ状態で失礼します。



↑「そっ歯の男」ほぼ完成の図。その後こいつは先生に送る事に。涙…。（うれし涙だよ！）

私の場合、ファンド（ねんど）にて形を作り上げる前に一応、左のような等身大の図を描くことにしております。これに合わせながら、盛っては削りをくり返し形を造り上げます。次回は、、今ディオラマっぽいものにもチャレンジしたいと思っております。ワンフェスには、先に紹介した『水木造型』専門の方々以外にも、まだまだいます。なかなかマニアックなモノも多数あり、興味のある方は一度は足を運んでみてはいかがでしょうか。



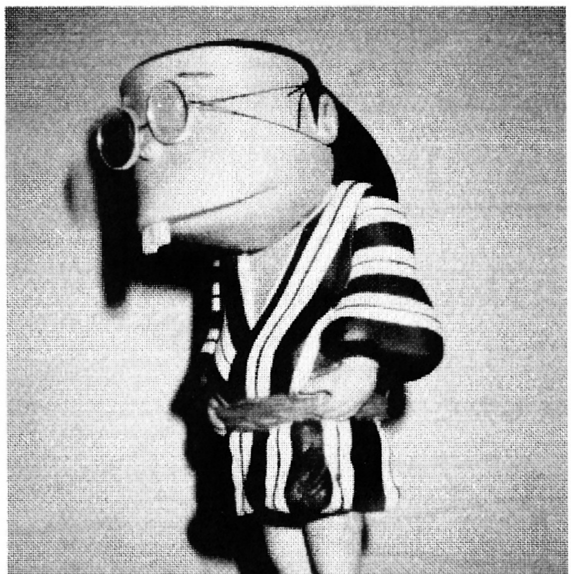


【そっ歯の男】
これほど造型しにくいキャラは、なかなかいないのでは？　特に、顔は悩みます。死神の口元なんか、立体にするとどんななんですかね。

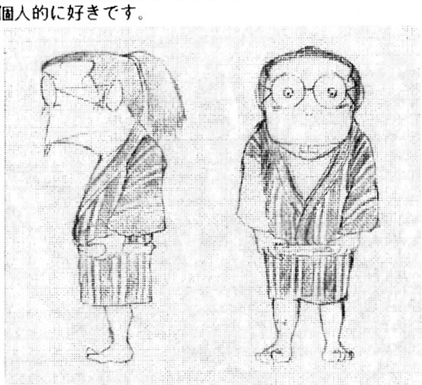


参考にさせて戴いた『忍法屁話』。
ダイヤモンドコミック表紙
この表紙絵と色は、シンプルで
個人的に好きです。

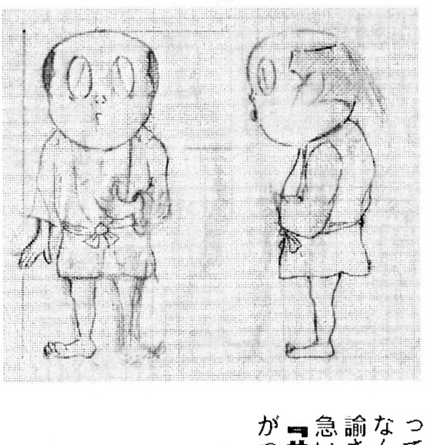
「下柘植のイタチ」の完成写真
メガネと服のストライプがちょっと面倒なんですよ。↓



造型していて思ったんですが、このキャラは、塗装しないと雰囲気でないです。今はまだ真っ白です。←



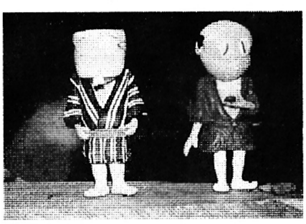
ほのぼの茂作少年。間に合えば空想石はホンモノを入れたい。（富士山溶岩石）



最後になりましたが、W・Fに参加するようになってまだ二回と、片手で数えるほどですが、嬉しい事に月刊モデルグラフィックスの10月号のW・Fレポートのページに、ちょこっと載せていただけました。と、いうことで

祝！モデルグラフィックス。

たいしたデキ（前日完成）ではないんですが、写真を撮ってもらった後なんか嬉しいのなんのって。でも身内には、いろんなディーラーを撮ってるんだから、載せてもらえるかなんて分からないよ。って、冷静に諭されちゃいました。しかし、月末急いで本屋にいって結果発表を仰ぎ、**『サクラサク』**。（実は、最初は気がつかなかった…。）



↑『空想石の少年』の空想石は、静岡産？溶岩石を拾ってきました。

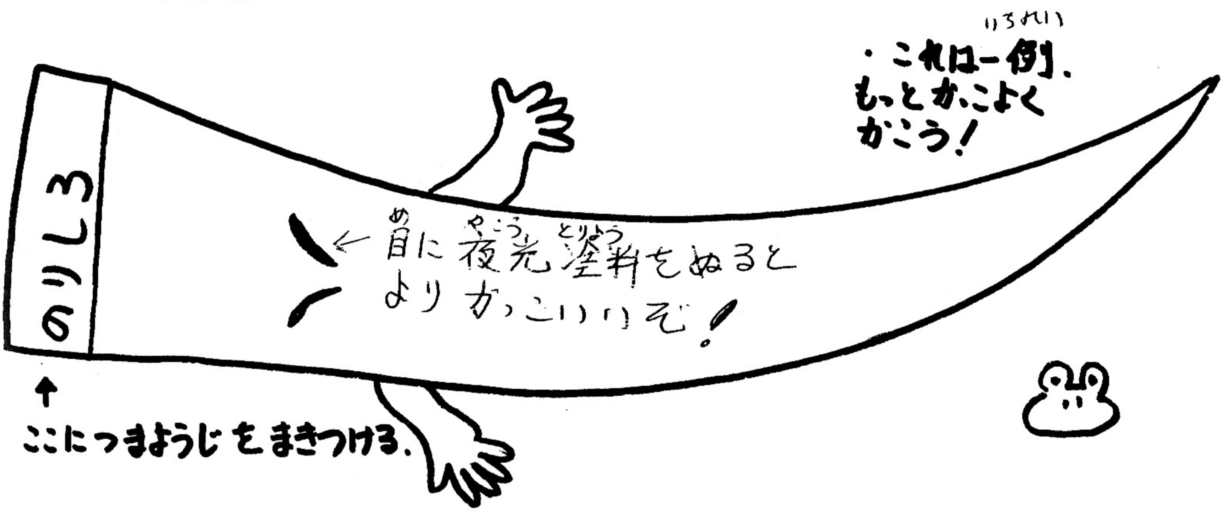
妖怪工作「一反もめんの吹き流し」

NO. 122　柳葉　蛙

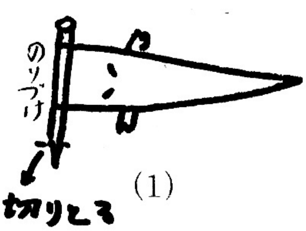
＜よういするもの＞

●うすいかみ。またはスーパーの白（しろ）いふくろ
●くろいマジック。夜光（やこう）塗料（とりょう）があればいうことなし！
●つまようじ
●ストロー
●いと少（すこ）し

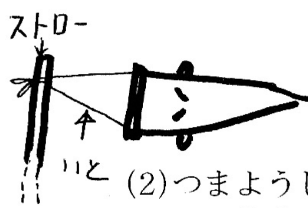
一反もめん型紙



＜つくりかた＞



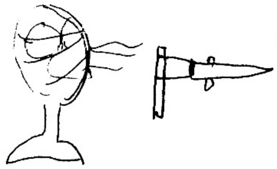
(1)



(2)つまようじに糸をむすび、
その先をストローにむすびつける。

できあがり

●こいのぼりみたいに風（かぜ）でおよぐ一反もめんのできあがりだ。
せんぷうき、まどぎわへもっていこう。一反もめんがかっこよくおよぐぞ！
せんぷうきはあまりちかづくとあぶないので、少しはなれてあそぼう！



●一反もめんのほか、いろんなキャラでもつくってみよう！

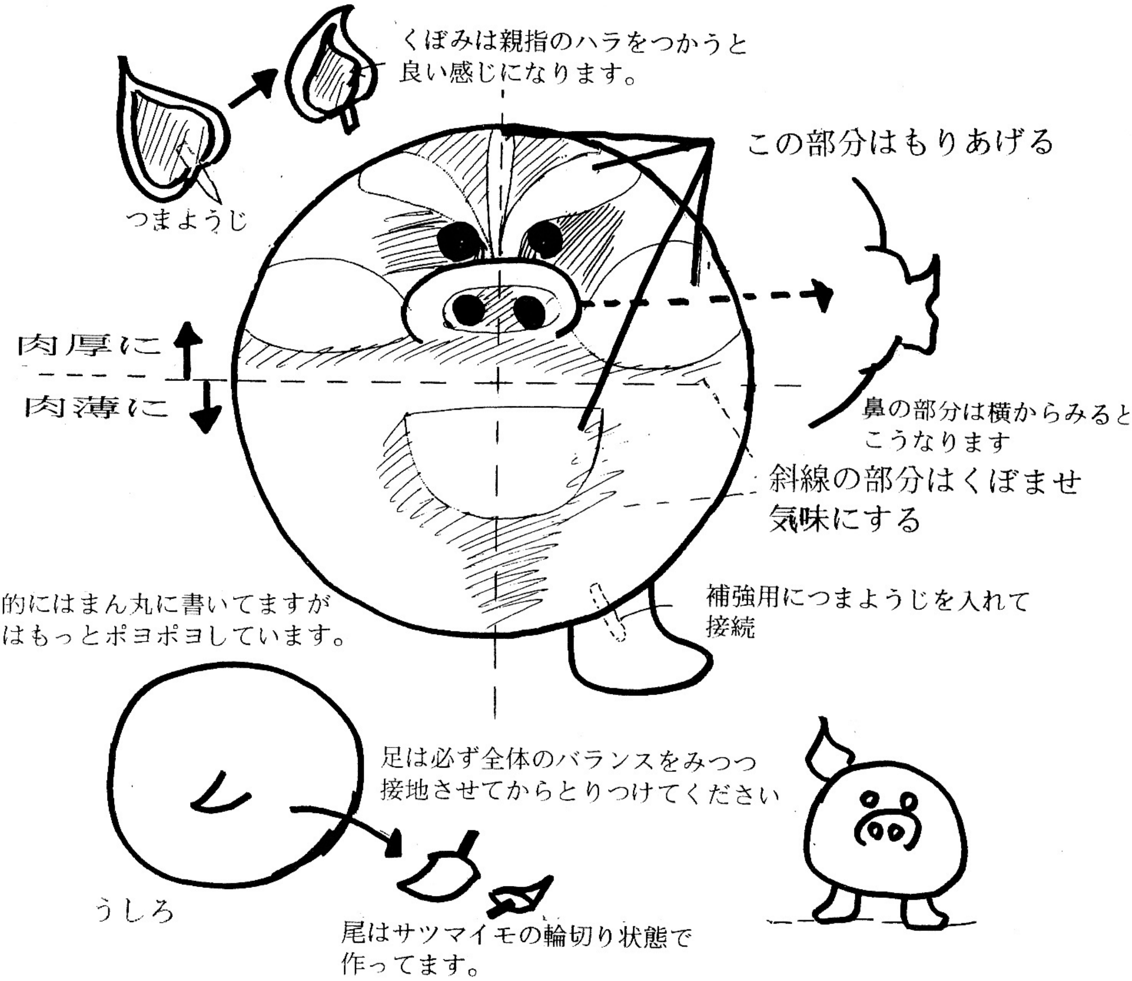
幼年雑誌のノリでかいてみました。

妖怪造形　～張り子でカタキラウア（片耳豚）　その２

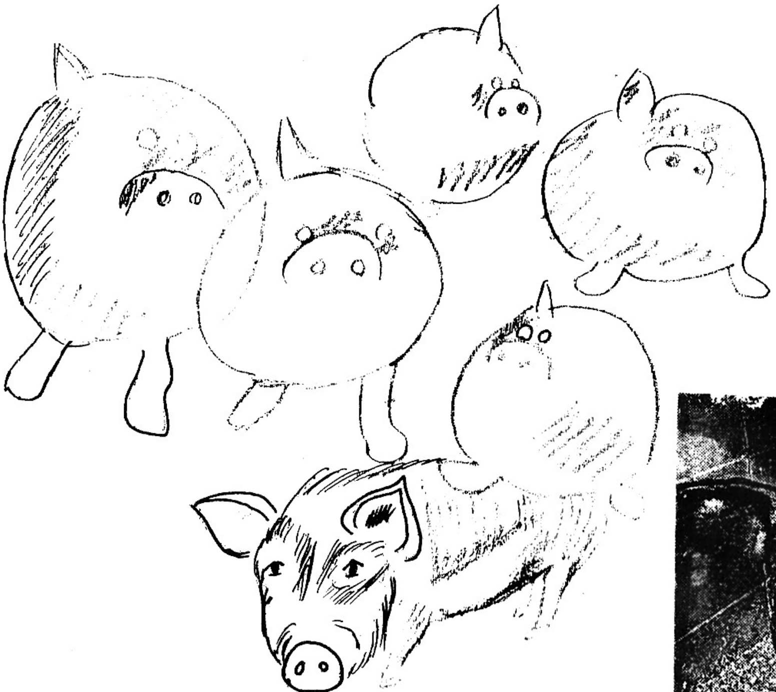
NO．１２２　柳葉　蛙

片耳豚の造形の底なし沼にハマッてもがいている時、天の助けか、たまたま片耳豚のふるさと奄美大島に古来からいた豚「奄美島豚」の写真入り記事がサンケイ夕刊にのってました。（ラッキー！ホンマに。）
＜資料２＞
片耳豚が奄美の妖怪であることを考えると、そのイメージの元、つまり島の人が“豚”とイメージするものにはこの「奄美島豚」のイメージがあるわけで肉づけ等この写真を参考にしました。＜その検討用スケッチが資料１です＞
しかし、この「奄島美豚」豚というより猪といった方が良いような野趣にあふれています。

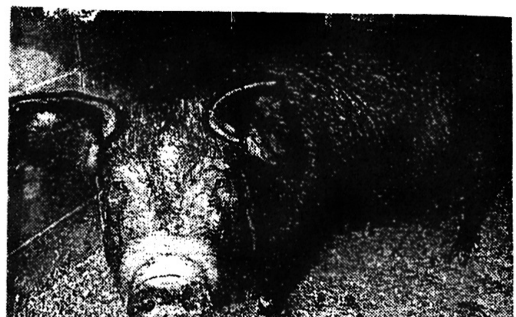
耳はハート型に造形してから、
まだやわらかいうちにとりつけ
自然な形にととのえてます。



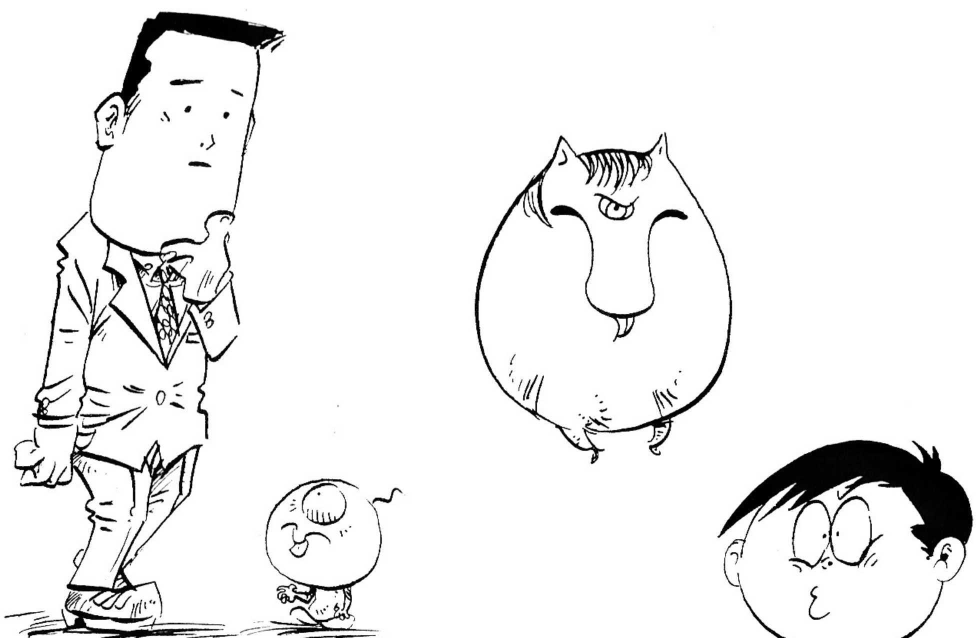
◇参考◇
「続・妖怪辞典」東京堂出版
「妖鬼化第４巻」ソフトガレージ
「サンケイ夕刊」



<資料1>
「片耳豚」造形
参考用スケッチ
○ポーズ検討
○「奄美島豚」との比較
●元絵はえんぴつ描きです



<資料2>
「幻の黒豚・奄美島豚」
いわずとしれた片耳豚（耳無豚）のイメージモデル（？）。全身真っ黒で優れた肉質をもっていたが、経済的理由で昭和５０年代に姿を消したが、’９８年特長を残す豚の発見により復活が試みられている。

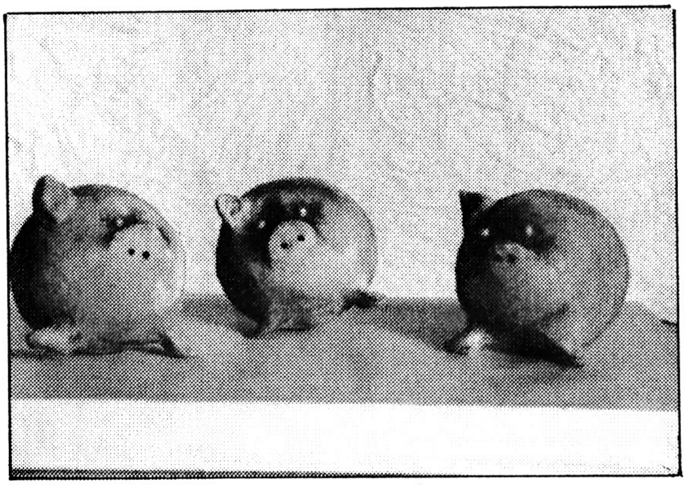


NO.14 古賀 弘明

妖怪造型教室～特別編～　柳葉蛙

① 片耳豚“三兄弟”
② すいかおばけ（「死人つき」,「異形の者」より）
③ ろくろ首の　【完成】写真紹介

今まで造型物の記事をボチボチ書いてましたが、今回は特別編ということで、フルスクラッチ三点を一挙に紹介したいと思います。
詳しい作り方は後日このページで取り上げるつもりです。



① 片耳豚『三兄弟』

これは今ちょうど造型教室で取り上げているハリコの原型です。なんとか造型にこぎつけました。

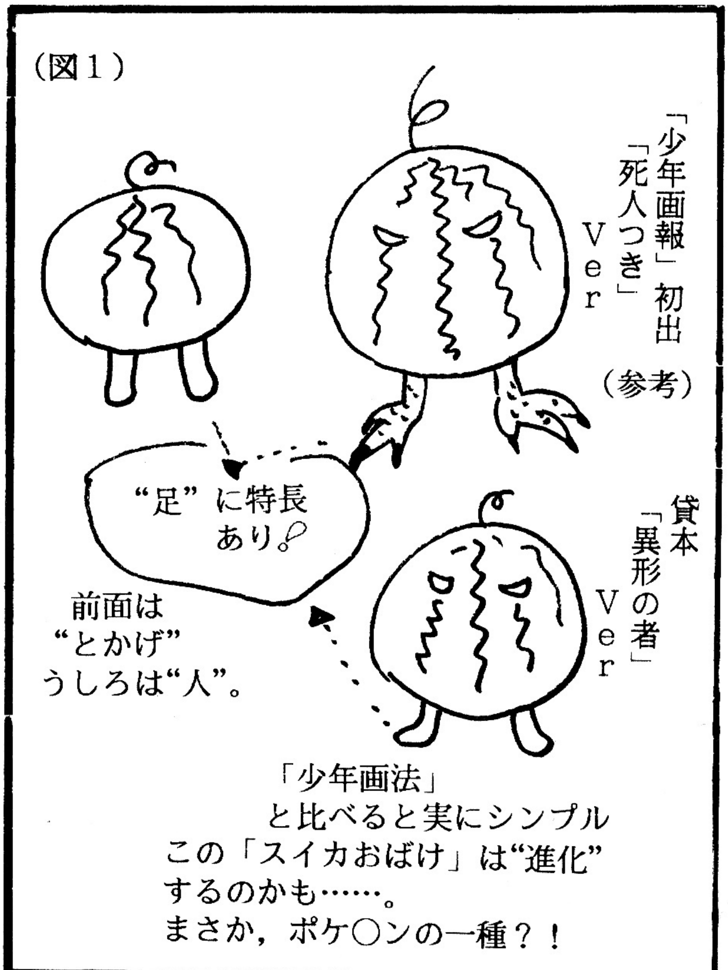
色彩は「妖鬼化」の「片耳豚」のカラーを参考にしたのですが、あまりにもポップな色あいに思わず「フハッ！」

原型のファンドに直接着色したので、使用したのは水彩クレヨナ、カラーインク、そしてベースはクレイ用水彩えのぐです。このクレイ用水彩えのぐは隠蔽力が強い、つまり、下地の色を消す力が強いので、まちがって塗ってしまっても、簡単にやりなおしがきき、ホント助かりました。あと部分的にパステルも利用してカゲをつけています。

目玉はビーズ（パール）にカラーインクで着色してます。

色彩の方ははじめ白黒の「続・妖怪事典」しかなかったので、半分本気で青と白（あるいは黄と白），紫と緑，赤と黄色のグランテーションにしたろかとも思いましたが、コレはコレでサイケかなと思いボツ。

三兄弟なのは例のブームにのっかかったワケですが、ブームの方がどっかへ行ってしまいました……。



② すいかおばけ

これはホントにマイナーな妖怪です。脇役中の脇役、ほとんど〔通行人〕並の登場です。貸本版の「異形の者」，これは美青年が主人公になっていますが、少年画報版「死人つき」では子供（少年）が主人公になっているように、この『すいかおばけ』も進化しとります。

ここでは進化した『すいかおばけ』を造型してみました。

作りはオーソドックスな紙ねんど（ファンド）コネコネです。目はビーズの一種を利用しました。

こういう形をした分です。

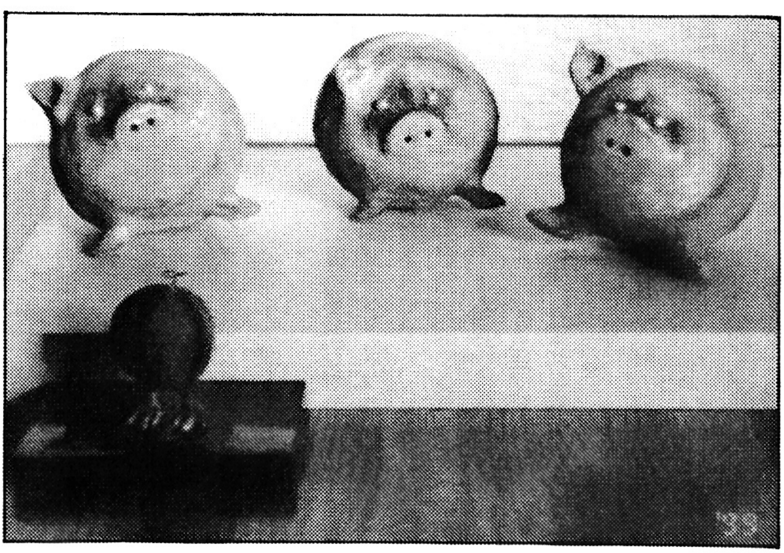
足とつるはハリ金です。足の鳥と人と植物とが合わさった感じを出すのが大変でした。半がわきの時に小刀でモールドを切り込むようにして入れてます。

つるは造型用のテーピング剤のはり金を使用しました。

足のつめはプラ板を切って接着剤でつけてます。

色の方はホントに資料がないので、スイカ、鳥、人のあいの子というイメージでやりました。足が本当に難しく、うまく決まりませんでした。

えのぐは前出のクレイ用（ねんど人形用）を使用。商品名は「ジョイフルカラー」で、紙ねんど専用ということもあり、オススメです。手芸店で入手可です。



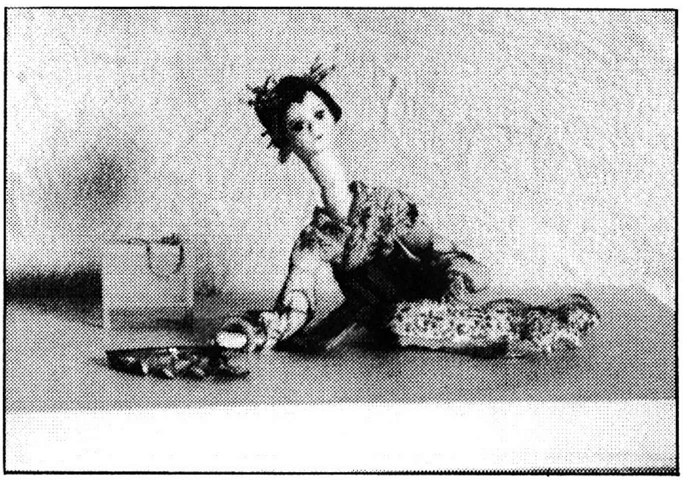
③ ろくろ首

情景としては、さる格の高い遊廓の静かな昼下がり、忙しくなる前のひとときをすごすおいらんが、扇でたわむれているうちにちょいとうたたね。気がつくと、知らぬ間に首が伸びていたのにハッと気づくといった感じです。季節は初秋。衣装も秋物に改め、虫カゴのスズ虫も元気なのに、思いがけない夏の暑さがぶり返し、このおいらんはプライベートタイムということもあり、うちかけを脱いでいます。

ボディ、紙、衣類はオールファンド，かんざしはハリ金にティッシュをまきつけ、カラーインクで着色、くしはあつ紙にカラーインクで着色、せんす、虫カゴは日本人形材料店で購入したものです。

「ろくろ首」の造型物としては、クラウン社の「ろくろ首」プラモがありますが、プラモという造型上の制約のためか、形としてはかなり角々しくいびつなもので、たとえるなら、KONISIKI氏が島田まげのかつらをつけて、ゆかたを身にまとっているといったものでした。

意外なことに水木先生の妖怪画に「ろくろ首」そのものの絵がなく、かろうじて「妖怪長屋」，「妖怪学校」（一枚絵）にちょいと登場するのみ。



で、水木美女（「猫姫様」「幻行灯」ｅｔｃ）をセレクトして日本的美女像をつくりました。だから正確には水木風ろくろ首となります。

造型で気をつけたのは、コミカルにならないようまとめあげることです。あくまでも一枚の「美人画」として通用するように心がけました。

水木美人といえば、黒目がちで、はかなげでいて、志はむちゃくちゃ強い。今は『死語』となった『やまとなでしこ』を体現したような女人で、これがまた難しい。押さえて表現の中で、これらを見事表現されて（しかも少ないセリフで）いる先生の力量はホント凄いなァと思いました。（若手マンガ家の中でそれに近い女人が描けるのは、私の知っている限り、２、３人です。）

作り方の方はまた詳しくこの項で取り上げますが、だいたい、頭部、腰上部（胸）、胴中部、胴下部（ヘソのあたり）、手先、足先、上腕部、下腕部、もも、すね部分のだいたいの形をファンドで作り、それらをハリ金でつないでポーズを決め、やや細身に肉付け（あとで着物を着せつけるため）ヌードボディをつくって、バランス、ポーズ検討の後、着物分のファンドをもりつけ、形を少しづつととのえて、別につくっていた帯びパーツをくっつけて出来上がりです。

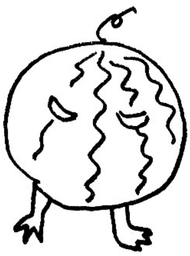
作りやすさを考えて両手、頭部は途中で切り離してディテールを作り込みました。これも時々本体と合わせながら作らないと、頭身が合わなくなりえらいことになりました。頭部１／６サイズ、ボディ１／８となり、ボディ丸々作り直し。

ディテールアップ用の道具として竹べら、小刀、カッターナイフを使用。特にカッターナイフは細かい削り込みに便利です。

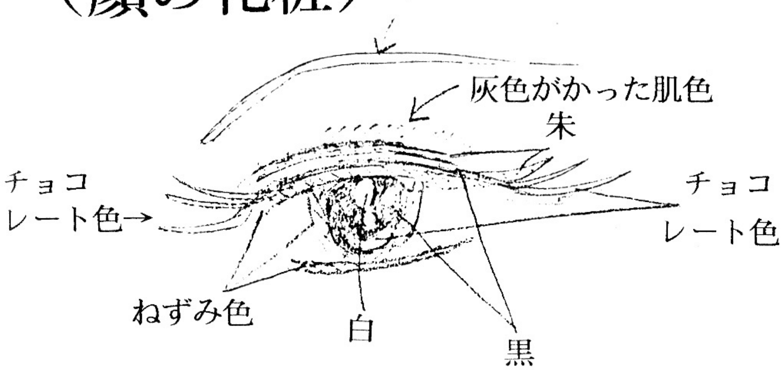
彩色はこれまた「ジョイフル」を使用しています。髪のはえぎわは面想筆の極細を利用。

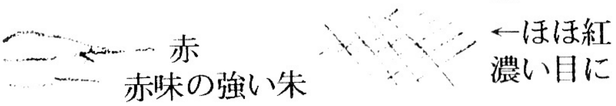
人形作りで大変だったのが「時代考証」です。やらないよりきちんとやった方が作品にも深み

が出てきますし。
浮世絵とか絵巻物も良い資料になりますし、図書館の資料室（専門所コーナー）にもいろいろ良い本がありますので、それらをコピーして利用するのも手です。
あと日本人形の造型本も役に立ちます。
一応手元にあるのは築地書館の『黒髪の文化史』大原梨恵子著，柴紅社『日本の髪型』南ちゑ著，『図録・染色まつり』新書では『遊女の文化史』中公新書です。あと日本人形テキスト等も参考にしています。
図等は別項にあげましたので、それを参考にして下さい。
それにしても日本人形関係の小道具が年々入手しにくくなってます。作り手が高齢化しているため、どうしても品薄、絶版になってしまうそうです。この虫カゴもたまたま三つあったもののうち一つを入手しました。
こういうのは見つけた時に即入手する方がよいみたいです。
質問等、このコーナーあてに送って下されば、次回原稿の参考にしたいと思います。



（顔の化粧）

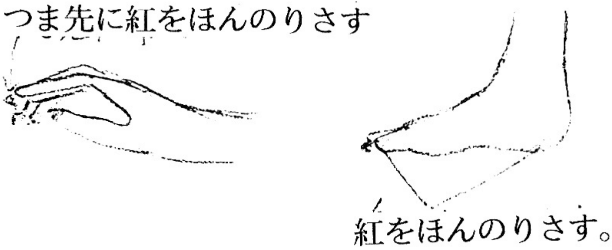




○眉…………ねずみ色
○まぶた……灰色がかった肌色
○まつげ
　瞳の中の月 ＞ チョコレート色
○瞳
○目のりんかく ＞ 黒
○瞳の星……白
○目尻
○まぶたの線 ＞ 朱
○白目………やや青味をおびた白
　（妖怪だから少し人間のカラーリングと変える）
　米人の場合はねずみ色のまじった白
○目のりんかく上内側
○目のりんかく下側
○瞳のりんかく ＞ ねずみ色

○　肌は始めやや青味を加えた肌色（これも妖怪らしさを出すため、けどあくまでも極少量！）をとそうしたあと、ドライブラシの要領で白を塗り、おしろいの感じを出す。

（手足の化粧）



このフィギュアの場合、素足は外てに出ませんが、露出する場合の化粧法は手の場合と同じです。

《「ろくろ首」資料編》

●立ちポーズにすると首が長い分バランスが悪くなるので座りポーズにしました。するとおいらんの帯びの結び方である「まな板帯」に



すると全体にボッタリしますので、すっきりまとめるために「前結び」に変えました。



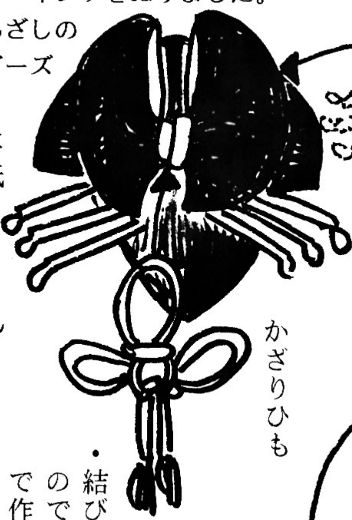
おびは前結びです。



●かんざし、ことじはハリ金にティッシュまきつけて、それにカラーインクをぬりました。

●玉かんざしの玉はビーズです。

●くしはあつ紙です。



・結び方がとても難しいので、それらしくひもで作ってくっつけてもいいです。

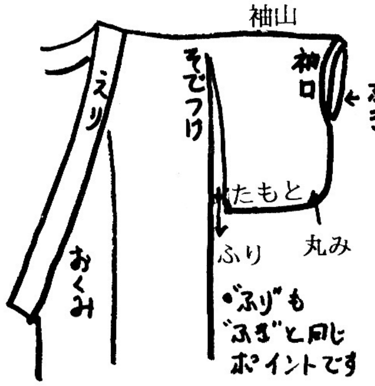
〈髪まわりのポイント〉



・髪形は「伊達兵庫」(立兵庫)で、おいらん独自のものです。

●かえし衿は半衿のうらを見せる着付け方法です。(粋物によくつかわれます)

〈着物の名称〉



〈まげの特長づけのポイント〉

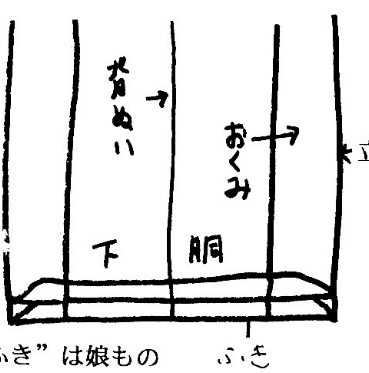
・全体に丸っこく可愛いい感じ



・全体に粋な感じにまとめる



(芸者・遊女等)



●"ふき"は娘ものでは広めに、粋物ではせまめにする。



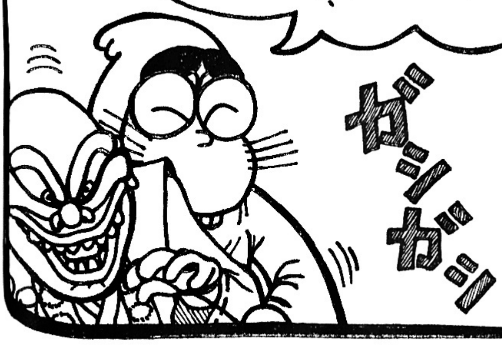
ビビビのT.T.の 妖怪人形館 其え竜、おりたたみ入道

あれは2年半前に遡ります。私が大学で所属している人形劇サークルにおいて、私が演出する機会を得ました。しかも、"水木絡め"に成功！題名は「笠地蔵と大入道」といい、おりたたみ入道が登場します。今回、「水木しげるキット特集」ということもあり、この手作り人形の紹介をしようと思います。



基本的にこの人形はウレタンを削って布を巻いたものなのですが、細かいパーツには綿が入っています。また、歯はアイスやプリンのスプーンなのだ！もちろん、このキャラの演じ手は私なのだが声は滝口順平風で演ってみましたぞ！劇を見にいらして下さった皆様、どうもありがとうございました。そして！水木妖怪人形はまだまだ作られたのです！次回をお楽しみに！





水木しげる情報


■PRODUCED BY ALFREX
ART DIRECTION : Ryo Takasugi
STYLIST & PRODUCER : Riko Maniwa
SALES PLANNER : Koji Minoda
INTERNATIONAL TRADE : Mark Alwood
ASSISTANT : Wataru Takahashi
MANAGER : Kyoko Ohnishi
GENERAL MANAGER : Takahiro Sano
■SPECIAL THANK'S
Shigeru Mizuki (Mizuki Pro)
DESIGN : Masanori Endo (Do planning)
PACKAGE PHOTO : Fumio Saito
水木しげる妖怪ワールド
悪魔
原作版
メフィスト
エロイム
エッサイム
われはもとめ
うったえたり
©水木プロ
株式会社アルフレックス 〒161-0033 東京都新宿区下落合1-5-18
Tel. 03-5330-0611 Fax. 03-5330-0610 http://www.alfrex.co.jp/



水木しげるの妖怪百景（仮称）	アドベンチャー	開発元 株式会社SNK	12月 発売予定	価格未定	[illegible]



ファーゼライ！	シミュレーションRPG	開発元 株式会社サクノス	11月 発売予定	予価 3,800円（税別）	©SACNOTH 1999



機甲世紀ユニトロン	RPG	開発元 [illegible]	11月 発売予定	3,800円（税別）	[illegible]

発売予定タイトル名	メーカー	ジャンル	予価	発売予定	備考

水木しげる
戦記傑作大全

【第１巻】
- ●「戦場の誓い」
- ●「０号作戦」
- ●「暁の突入」

【第２巻】
- ●水木しげる作戦シリーズ７話
  - ①「印度洋作戦」
  - ②「ミッドウェイ作戦」
  - ③「珊瑚海大海戦」
  - ④「急襲ツラギ沖」
  - ⑤「ケ号作戦裏話　脱出地点」
  - ⑥「あ号作戦と南雲中将　前編」
  - ⑦「あ号作戦と南雲中将　後編」
- ●「戦車対戦闘機」
- ●「零戦とグラマンの血闘」

【第３巻】
- ●決戦レイテ湾シリーズ７話
  - 第一部「栗田艦隊出発」
  - 第二部「戦艦武蔵の最后」
  - 第三部「小沢機動部隊南下す」
  - 第四部「西村中将死地へ赴く」
  - 第五部「エンガノ沖海戦」
  - 第六部「壮絶!!　特攻」
  - 完結編「サマールの一戦」
- ●「人間魚雷回天」

【第４巻】
- ●「必勝雷撃隊」
- ●「空中爆雷」
- ●「台風爆弾」
- ●「戦艦大和有賀艦長の最後」
- ●「山本を落とせ」

【第５巻】
- ●「戦艦比叡の悲劇」
- ●「撃墜」
- ●秘話シリーズ３話
  - ①「ダンピール海峡」
  - ②「絶望の大空」
  - ③「マリアナの滝」
- ●「乃木将軍と２０３高地」
- ●山本元帥と連合艦隊シリーズ２話
  - 第一部「奇襲!!　真珠湾」
  - 第二部「戦艦血に染まる時」

【第６巻】
- ●「壮絶！特攻」
- ●「駆逐艦魂」
- ●「零戦総攻撃」

【第７巻】
- ●「ゴマスリ二等兵」
- ●鬼軍曹シリーズ５話
  - ①「鬼軍曹」
  - ②「鬼軍曹・ちょいと居寝りの巻」
  - ③「鬼軍曹・ちょうとスリルの巻」
  - ④「鬼軍曹・土人の手紙」
  - ⑤「鬼軍曹の冒険」
- ●「三等兵物語」
- ●「最初の神風突撃隊　特攻」
- ●「空母飛竜の最期」
- ●「フッド号撃沈さる」
- ●「田中頼三」

【第８巻】
- ●「硫黄島の白い旗」
- ●「此一戦」
- ●「伊四一潜の最期」
- ●「魚雷艇対駆逐艦」
- ●「二人の中尉」
- ●「海の男」
- ●「夜襲ツラギ沖」
- ●「ブーゲンビル上空涙あり」

４月下旬発売予定（要予約）
定価２５，２００円（税込）
限定1,500部（分売不可）
発行　人類文化社　　発売　桜桃書房

鬼太郎生誕40周年記念ドール「墓場の鬼太郎」堂々リリース！



▶墓場の鬼太郎。言わずと知れた水木しげるの名キャラクター。「ゲゲゲの鬼太郎」のグッズは多いが「墓場の鬼太郎」版は稀少。鬼太郎40周年を記念して400体を限定発売。12月発売予定・2万5000円



▼ゲタはちゃんと木でできているのだ。

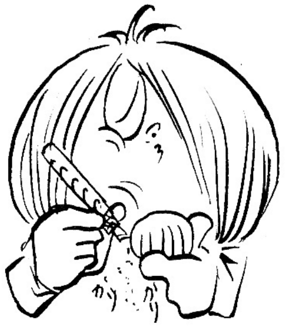


幻といわれたシスコの景品版鬼太郎を復刻しマニアを驚喜させたまんだらけよりまた通なアイテムが登場。今回の鬼太郎は、原作版の「墓場の鬼太郎」。シスコ版のボディに新たに新造のヘッドを追加。もちろんトーキング機能付き。

もう一品は、80年代SFコミック界を席巻した吾妻ひでおのヒロイン「ミャアちゃん」を立体化、感涙の品だ。㊫まんだらけ

フィギュア王　2

讀賣新聞　1999年(平成11年)12月5日(日曜日)



カット
No.14 古賀ろム明



新妖怪伝　百魔騒乱編

ロングセラーを続ける「妖怪伝」シリーズの拡張パック第4弾。今回はリクエストの高かった妖怪をはじめ、珍しい南方系の妖怪なども登場するぞ！　水木しげるのイラストコレクションとしても最適なのでゲームをしない人にも集めてほしいシリーズだ！

■構成：レアカード　10種　アンコモン　20種
　コモンカード　57種
■仕様：1パック（10枚入り）　1BOX　（15パック入り）
■価格：360円（税別）
■発売：1/29（やのまん）

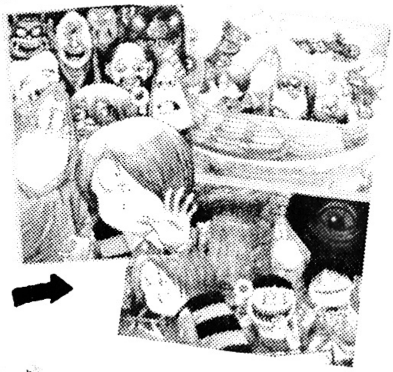


定価は表示価格＋税
中央公論新社

鬼太郎コレクションカード

貸し本時代からつづく「鬼太郎」シリーズの表紙をセレクト。水木ファン、妖怪ファンなら絶対に購入を義務化された商品（笑）。蓄光カードなどは妖怪にはピッタリの仕掛けだと思うぞ。当たりカードは交換で水木しげるの直筆サインカードがもらえる。

■構成：レギュラーカード134種　ＳＰ蓄光カード18種（1：1）
　当たりカード　1種（100枚限定）
■仕様：1パック（10枚入り）　1BOX　（15パック入り）
■価格：380円（税別）
■発売：2月下旬（やのまん）



読売新聞　　１９９９　１１月２０日



ゲゲゲの鬼太郎ZIPPO

■価格：各10,000円■発売元：ユニファイブ■発売中　『ゲゲゲの鬼太郎』の記念の年に、『鬼太郎』ZIPPOが発売された。№1と№2はブラックニッケルサテンクリアーで、№3はニッケルサテンクリアー。シリアルナンバー入り。

季刊 怪 KWAI

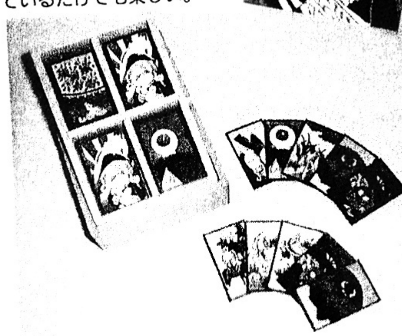
第七号
水木しげる
荒俣宏
京極夏彦
世界で唯一の妖怪マガジン最新刊！
特集：水木翁のアボリジニ・レポート
＆妖怪ブックガイド99　定価：本体1300円

読売新聞　　２０００　　１月　１日号

妖怪花あそび豪華愛蔵版

■価格：6,000円■発売元：やのまん■発売中　水木しげる描き下ろしの49枚目の札と、ゲームマットにもなる特製風呂敷が付属。札裏は黒と赤があり、高級桐箱に入った本格派向け豪華版。花札を知らなくても、水木妖怪のファンなら眺めているだけでも楽しい。





土浦環LC25周年

11.1.29 新いば

鬼太郎"角膜提供"訴える
記念のブロンズ像制作

失明した人に愛の光を――。市民に角膜の提供を呼び掛ける鬼太郎と目玉おやじのブロンズ像がこのほど、土浦市のJR土浦駅西口前広場にお目見え、行き交う市民らの注目を集めている。

アイバンク活動を推進している土浦環ライオンズクラブ（木村継会長）が、結成二十五周年を記念してモニュメントを制作、市に寄贈した。助川弘之市長らが出席して同日、除幕式が行われた。

いつも片方の目が髪の毛に隠れている鬼太郎に角膜を提供してあげれば、両方の目が見えるようになるのでは、と考えてマスコットに選んだ。

ブロンズ像は高さ約四十㌢。約百五十㌢のみかげ石の台座上に設置した。作者の水木しげるさん本人が制作を手掛けている。像の下には、アイバンクの役割を説明し、角膜提供を呼び掛ける石板を据え付けた。



市民に角膜提供を呼び掛ける鬼太郎と目玉のおやじ像

木村会長は「失明した人たちが光明をもらいたい、と角膜の提供を待っている。一人でも多くの人にアイバンクに登録してもらいたい」と話していた。

県内では現在、約百三十人が角膜の提供を望んでいる。しかし、提供者は年間で二十人に満たないという。

アイバンクについての問い合わせは県アイバンク（☎029・224・7007）まで。



読売新聞　12月21日



日本海新聞　1999　12月　7日

境港

妖怪神社でミレニアム

―水木しげるロード内に元日に誕生―

自然の石や木で建立

参拝者には〝妖怪雑煮〟

新たなるミレニアム（千年紀）を妖怪（ようかい）たちと祝おう―。二〇〇〇年代の幕開けとなる来年一月一日、境港市に妖怪神社が誕生する。除夜の鐘が鳴り終わった午前零時から、神社の落慶法要が行われ、津軽三味線による妖怪ソングの演奏やもちつきのほか、参拝者には妖怪雑煮がふるまわれる。

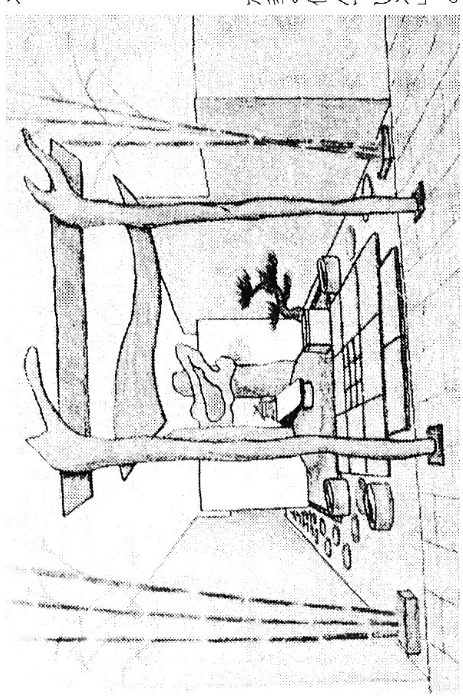
妖怪神社は「妖怪」と「魚」文化を軸に地域振興を図る民間の街づくり会社「アイズ」（黒目友則社長）が同市大正町の水木しげるロード内の約六十六平方㍍の敷地に建立する。

樹齢百年以上のカイヅカイブキの木で鳥居を造り、「御神体」は忌部石二つと樹齢三百年のケヤキで作った板を組み合わせた。漫画家の水木しげるさんの「自然の石の中に妖怪が多く住んでいる」という言葉から、自然の石や木を使った。

神社では、鬼太郎や妖怪など水木さんのイラスト入りの絵馬のほか、お守り、おみくじを置く。また、神社隣には観光客が自分で妖怪グッズを作ることができる工芸館を建設し、同時オープンさせる。

工芸館は木造二階建てで約百六十五平方㍍。一階が工房とふれあい広場、二階が企画展示室。オープンを記念し水木さんの原画展を開く。工芸館は年中無休。

落慶法要では、神事、巫女（みこ）舞、入魂式などを行い、鳥取市出身の津軽三味線奏者、川本貴寅さんがオリジナルの妖怪ソングを津軽三味線で演奏。もちつきや妖怪雑煮で完成を祝う。



妖怪神社のイメージ図

追跡'99

妖怪の受難 ①

境港・水木しげるロード

盗難や破損、15体にも

山陰線のJR米子駅から一両編成のディーゼルカーに乗り換え、約四十分。目的地のJR境港駅に到着した。

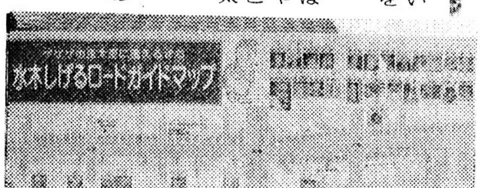
きれいに整備された駅前広場に立つと、磯の香りが漂う。大きなブロンズ像、竹馬に乗った「河童の三平」が人目を引く。妖怪（ようかい）のブロンズ像は、大小取り合わせて八十体。駅前から商店街の端まで約八百㍍の距離に、点々と置かれている。

「ゲゲゲの鬼太郎」などの作品で知られる漫画家、水木しげるさん(七七)の出身地でもある。水木さんの作品に登場するキャラクターを生かしたユニークな街づくり事業に、平成四年から着手。現在では年間四十万人強、市人口の十倍以上の観光客を集め、全国から注目を浴びている。

「水木しげるロード」の中心部に位置する松ケ枝町商店街振興組合の板倉壖会長(七九)は「最初は、閑散として観光客が来るのかという反対の声もあり、意見をまとめるのが大変だった」と話す。

設置されている八十体は「鬼太郎」や「目玉おやじ」「ねずみ男」「ねこ娘」など「ゲゲゲの鬼太郎」に出てくる有名なものから、「ぬらりひょん」「ぬり壁」までさまざま。どの妖怪も、どことなくコミカルな感じがする。

ブロンズ像の制作にあたっては、水木さんの著書る日本の妖怪五百種の中から立体的に表現しておもし選んでもらった。市都市計画課の宮本衡己



水木しげるロードの中心部に設置されたガイドマップ。どこにどの妖怪のブロンズ像が置かれているのか、一目で分かるようになっている

ち悪くないものをということで、小さいブロンズ像を多くした」という。狙いは見事にあたり、水木しげるロードは観光客がひっきりなしに訪れる観光名所に。

しかし、その配慮は盗難や破損が頻発するという皮肉な〝効果〟ももたらした。これまでに盗まれたり壊されたりした妖怪ブロンズ像は計十五体にも上っているのだ。

◇

人気を呼ぶ一方で、盗難事故も相次ぐ境港市の「水木しげるロード」。ユニークな街づくり事業の「光と

追跡'99

妖怪の受難 ②

境港・水木しげるロード

酔っ払い犯？マニア犯？

鳥取県境港市の「水木しげるロード」に置かれている八十体のブロンズ像は、観光客が自由に触ることができる。

最も古いものは設置されて六年が過ぎているため、磨き込まれてつるつるに。その中で、かたどりされたばかりのような青白いブロンズ像がひときわ目を引く。ロードの中ほどにある古ぞうきんをモデルにした妖怪（ようかい）「白うねり」のブロンズ像だ。

「白うねり」は今年六月二十六日の朝、台座から約二㌢の部分で足が切断され、持ち運ばれているのを近くの住民に発見された。十二件十五体目の被害。昨年七月の犯行から一年近くが過ぎ、盗難・破損事件がようやく落ち着いたと思われた矢先のことだった。

「白うねり」が置かれている場所は、松ケ枝商店街振興組合の板倉壖会長(七九)が経営する商店の目の前。板倉会長は「今までは犬を飼っていたので大丈夫だったが、事件のしばらく前に犬が死んだ。本当に残念だ」と悔しがる。

「白うねり」の切断部分は一部が腐食し、折れやすくなっていたという。午前二時ごろには近くで若者が騒いでいたとの情報もあったが、事件との関連性は不明のまま。鳥取県警境港署の松下理紀男・副署長は「動機が分からない上、持って帰られたら手の打ちようがない」という。

これまでの十二件の犯行のうち、犯人が捕まったのは一件だけ。時間が遅くて飲食店への入店を断られ、腹を立てたことによる犯行だった。飲食店の前に置かれているブロンズ像に比較的被害が多いことも、「酔っ払い犯行説」の有力な状況証拠の一つだ。

しかし、境港市都市計画課の宮本衡己課長は「中には、いじっているうちに台座から外れて持って帰ったのかと思われるようなものもあったが、機械で切ったものもある。どうしても欲しかったのかな、と思わざるを得ない」と「マニア犯行説」を示唆する。

酔っ払いの仕業なのか、マニアの仕業なのか—。

鬼太郎茶屋の荒木千重子さん(七七)は「本当のファンはそんなことをしないはず」と「マニア犯行説」を強く否定するのだが…。

（前川健次）



▲古ぞうきんの妖怪（ようかい）「白うねり」。今年6月に盗まれ、復元されたばかりだ

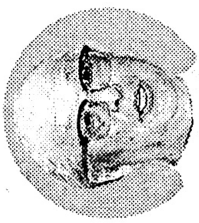
妖怪神社を街おこしの目玉に

●水木しげるさんの出身地　鳥取・境港の商店街●

人気漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の原作者、水木しげるさん(77)の出身地、鳥取県境港市の商店主らが、鬼太郎像など水木さんデザインの妖怪（ようかい）ブロンズ像80体が並ぶ目抜き通り「水木しげるロード」（約800㍍）を軸に地域の活性化を進める事業会社「アイズ」を設立した。同市が計画した「水木しげる館」が財政難から宙に浮くなど観光客増加の決め手がない中、来年1月1日のオープンを目指して「妖怪神社」などの建設を進め、妖怪パワーで集客アップを狙う。

「水木しげる館」は、通り沿いに、原画や初版本の展示

来月1日に


水木しげるさん

オープン予定

などをする3階建てビルを建設。総工費6億6000万円で今年春の完成を目指したが、財政難を理由とする市議会の反対で、用地買収までで計画は止まっている。

昨年4月、水木しげるロード振興会が、街づくりの基本計画を作り、商店主や市民18人が10月、資本金1130万円で会社を設立。市民自ら（I）街づくりに参加することと、鬼太郎の父「目玉（EYE）おやじ」に引っ掛けて社名をアイズとした。

水木さんは「地元の人たちの意気込みに、これまでの街づくりの経験が生かせると思う」と話した。【山中　博文】

妖怪の受難　④

境港・水木しげるロード

追跡'99

ブロンズ像に「魂」宿る

「『目玉おやじ』盗まれる―」。平成五年八月、マスコミが大きく取り上げたこのニュースで、八十体もの妖怪（ようかい）ブロンズ像が並ぶ鳥取県境港市の「水木しげるロード」は〝全国区〟になった。

相次ぐ盗難・破損事件に対し、観光客が増えたことによる「有名税」ととらえる向きも。しかし、十二件十五体の被害総額は約三百五十万円に上る。

「途中から保険をかけましたが、保険料は毎年高くなる一方です」と苦笑するのは、市都市計画課の宮本衛己課長。

また、鬼太郎茶屋の荒木多重子さん(七七)は「盗難事件で全国的に有名になったという人もいますが、もっといい意味で有名になったほうがいい」と憤る。

ユニークな街づくり事業「水木しげるロード」がスタートしてから数多くのファンが訪れ、妖怪のブロンズ像に愛着を持つ様子を直接見てきているからだ。

「水木しげるロード」を歩くと、ブロンズ像のかたわらに五円玉や十円玉が置かれているのを目にすることができる。

おさい銭に効果があるかどうかは疑問だが、荒木さんは「集まったおさい銭は、水木ロードを育てる会の運営資金などに回しています」という。

設置されてから六年以上がたち、毎日観光客の信奉（？）を集める妖怪の像。「形あるものに霊が宿る」という考えは日本古来のものだが、ブロンズ像が「神秘的な力」をもつようになっても不思議ではない。

実は、平成八年に原作者の水木しげるさんが像に魂をこめる「入魂式」を行っているのだ。



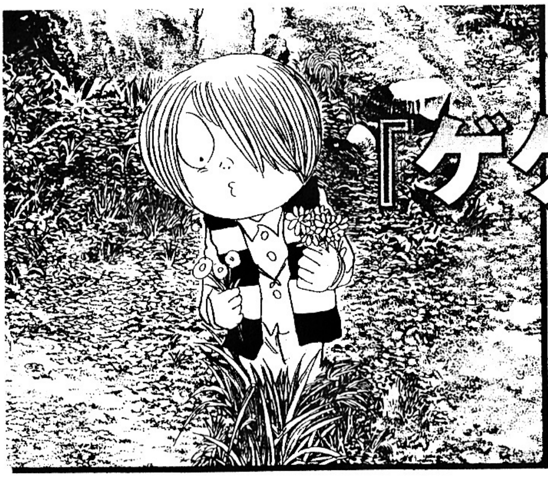
水木しげるさんの少年時代がモデルのゲゲル少年（右）。一連の事件で心中は…

荒木さんは「水木先生は入魂式のあと、『この妖怪たちは全部魂が入っていて、仏様でもあり、神様でもある』と言っていました。この話は、観光客にもときどき紹介しています」と話す。

「魂の入った妖怪たち」は、盗んだり壊したりした犯人に対してどんな罰をくだすのだろうか…。

記者には、とてもその先を想像する勇気はない。

（前川健次）＝おわり



誰もあえて書かなかった鬼太郎の真実

『ゲゲゲの鬼太郎』そのすばらしき妖怪世界

文●安藤君平　c 水木しげる

昭和34年に貸本漫画『墓場鬼太郎シリーズ』が発表されて以来、40年以上にわたって描かれてきた『ゲゲゲの鬼太郎』。貸本時代は、町の片隅や夜の世界を徘徊する幽霊族の子供として、特に正義感もないまま行動していた鬼太郎だが、少年マガジンに連載が始まり、TVアニメ化も決定してからは正義の妖怪道をまっしぐら。だが、二度目のアニメが終了すると、発表媒体が大人向け雑誌に移ったこともあり、スケベ要素も盛り込まれて、また独自な世界が展開した。そして80年代、三度目のアニメ化にあたって、また清く正しい正義妖怪に逆もどり。とにかく今にいたるまで、鬼太郎には様々なシリーズがあり、どの鬼太郎も微妙にキャラクターが違う。この間まで悪だった妖怪が何の説明もなく、鬼太郎の仲間になっていることもしばしばだ。しかし、そのおおらかさが水木作品の醍醐味でもあり、作品世界の奥行きを無限大にまで広げている秘密でもある。そんな水木世界にいちいち細かい突っ込みを入れるのは無意味の極み。しかし、それでもなお入れたくなるのがマニアの人情。てな訳で（どういう訳だ？）今回、ちょっと突っ込んだ、鬼太郎ワールドの紹介をしちゃいま～す。

今、あえて問おう。最強の妖怪はどいつなんだ？

「ゲゲゲの鬼太郎」には妖怪がいっぱい登場する。しかし「どいつが一番強いの？」というのが、誰もが持ってる素朴な疑問。何しろこの間まで強かった奴が、次回ではあっさり別の妖怪の子分になってるのが水木ワールド。それでも個人的な視点ながらあえて検証してみると……。

強い妖怪といえば、つい、こいつを思い浮かべがちだが……
バック・ベアード



「妖怪大戦争」のりりしかった頃のベアード

「妖怪大戦争」で初登場した西洋妖怪の親玉。本拠地はアメリカ。初登場の時は、強力な催眠能力で鬼太郎を苦しめた。しかし、一年後再登場した「鬼太郎のベトナム戦記」では、鬼太郎のちゃんちゃんこを盗んだ美女妖怪を追って渡米した目玉オヤジと出くわしたものの「美女妖怪ならいまパリにいってるよ」と親切に情報を提供。アメリカ妖怪としてベトナム戦争を支持していなかったということか。その一ヶ月後発表された「妖怪ラリー」では、自動車レースで鬼太郎と優勝争いを演じたが、3着に終わる。「ふん。こんないんちきなレースってあるかい。ぼくはおまえの優勝をみとめないね」とゴネたものの、審判長の赤舌に「なんだと！もういっぺんいってみろ」とどやされると、「いえいまのは、じょ、じょうだんです」と目線をそらしながらあやまるなど、意外な弱腰ぶりを露呈。『鬼太郎の世界お化け旅行』では、隕石に隠されたロケットに乗って宇宙旅行を楽しもうとロンドンにまでやってきたが鬼太郎たちにまっぷたつにされてしまうなど、出てくる度にすごみがなくなるので、一概に強いとはいえない妖怪だ。その上『妖怪ロッキード』では魔女の催眠術で悪の道に進んだ鬼太郎を、目玉の依頼で正気に戻し、協力して魔女をやっつけるなど、今いち腰が定まらない。80年代版のアニメでは、コウモリネコが日本に亡命してきたのは、アメリカでの妖怪大統領選でベアードに負けたためとされていた。



「妖怪ラリー」の情けないベアード

日本妖怪の総大将ということになっているが……
ぬらりひょん

日本の妖怪の総大将ということになっている妖怪。とはいうものの「妖怪ぬらりひょん」で出てきた時は、人に見つからぬようにこそこそと悪事を働く、しょぼくれた妖怪に過ぎず、鬼太郎にあっさりと「先祖流し」にされてしまった。その後、水木先生が、ぬらりひょんを日本の妖怪の総大将として位置づけたため、80年代に新シリーズのアニメと連動して発表された『最新版ゲゲゲの鬼太郎』（水木しげるは原作のみ）では、まるでデスラーのような押し出しの強い衣装で登場し、妖怪軍団を結成。妖怪による世界征服を目指した。このぬらりひょんは、先祖流しされた後、延々と生き続けて現代に復帰。歴史上行われてきた様々な人間の悪行を見守るうちに、その邪悪なエネルギーを吸収し、強大な力を有するようになったと設定されていた。このいかにも筋の通った設定ぶりは、水木先生らしからぬもので、『ゲゲゲの鬼太郎』の情けないぬらりひょんと、『妖怪図鑑』などで語られる妖怪の総大将としてのギャップを埋めるために、プロダクションの人間が考えたものだと思われる。『最新版』でのぬらりひょんは、鬼太郎のポケットにタバコをしのばせて、『墓場の鬼太郎』時代の鬼太郎の不良ぶりを指摘し、人間との分断をはかるなど、なかなかマニアックな戦いぶりを見せた。この後、90年代のアニメにも再登場し、何度でも鬼太郎に挑む不屈のチャレンジャー（ただしお笑い要素多し）として描かれた。78年に描かれた『ゲゲゲの鬼太郎・スポーツ狂時代編』には、鬼太郎の通うお化けの学校、墓の下高校の校長として登場する。



『最新版ゲゲゲの鬼太郎』のデスラーぬらりひょん



子泣きもついこんな感想を

組織力は随一。多分、総合的にも最強
刑部狸（ぎょうぶだぬき）

「昭和40年代に妖怪の時代が訪れることは妖怪の常識」というスローガンのもと、配下の八百八狸を率いて、一時ではあるが日本を征服した偉大な妖怪。配下に妖怪獣・蛟竜（こうりゅう）、不死身の大なまずという二匹の巨大妖怪を従えるなど、組織力・戦闘力とも妖怪界随一の実力を誇る。ふんどしにしていた一反もめんに首をしめられて気絶するなど、脇の甘さも目立つが、これぐらいの愛嬌がある方が部下もついていきやすいというもの。大組織の長があまりに完璧すぎても息がつまるっすよ。「美女はメイド、男はソーセージ」という単純明快な統治思想も、実に帝王然としていてよい。他の強力妖怪と違って一回しか登場しなかったのでボロを出さずにすんだという説もあるが、業績的に見れば、やはりナンバーワンといわざる得ないだろう。



妖怪獣・蛟龍を率いる刑部狸様。実にりりしい。まるで生頼範義の描く「スター・ウォーズ」のポスターのようだ

個別パワーとしてはケタはずれ
ダイダラボッチ

総合的な力、業績としては刑部狸に一歩ゆずるが、単独の力だけで見れば、ダイダラボッチもなかなかのものだ。何しろ復活したとたん、一気に鹿児県全土を食べてしまうのだからスケールがでかすぎる。戦艦の砲撃を受けても、新型爆弾をくらっても全然平気。頭の中に脳味噌が入っていないから。結局、この脳味噌を鬼太郎に攻撃されてダイダラボッチは土に還ってしまうのだが、その後鹿児島県がどうなったかは一切説明されていないのも水木漫画の醍醐味といえよう。



この大妖怪にとって、日本列島はメシに過ぎないのだ

実のところこいつが一番強いのでは……
目玉オヤジ

普段は非力で弱々しいのだが、鬼太郎がピンチになると子を思う力で凄い霊力を発揮する。鬼太郎の肉体を奪った火車を「逆もち殺し」で倒し、吸血鬼となった鬼太郎を救うため念力で時間を逆行させる「まぼろしの汽車」を呼び寄せるなど、いざとなった時の力はものすごい。敵の胃の中に入って意のままに操ったこともしばしばあった。宇宙空間に放り出されても膨張しただけで戻ってくるなど（『死神』）、生命力もものすごい。そもそも一度死にながら鬼太郎のことが心配でよみがえったのが目玉オヤジなのだ。時を操り、死をも超越し、物知りの上、やたらと強い孝行息子がいるのだから、目玉オヤジこそ最強の妖怪といえなくもない。



これがオヤジの「逆もち殺し」だ。気持ち悪いぞ！

悪の妖怪では、鬼太郎シリーズ最多登場を誇るものの……
ドラキュラ



長いものには見事に巻かれるナイスな世渡り

鬼太郎世界に何度も登場する西洋妖怪の代表格。つねに二番手で悪事を働く参謀タイプ。「妖怪大戦争」ではバック・ベアードの傘下として、「決戦小笠原」では妖怪樹のコンサルタントとして、「死神大戦記」では地獄の帝王サタンの地上部隊の一員として働き、「妖怪ロッキード」では魔女の手下として、児玉や小佐野というロッキード事件の主役たちから集金して回っていた（その他「鬼太郎の世界お化け旅行」「雪姫ちゃんとゲゲゲの鬼太郎」「鬼太郎地獄編」などにも登場）。親戚である妖怪樹のことを親しく「おばあさん」とよびかけ、「死神大戦記」ではミイラ男を「先輩」とたてるなど、実力者の懐にとびこむ手腕はなかなかのもの。いったん不利となれば、鬼太郎相手に「妖怪はやっぱり日本ですよ。まあどうぞ」とシャンパンをすすめるなど、世渡り上手はねずみ男以上。まあ、結局は隙を見て反撃し「ばか野郎、おまえらに負けられるかい」と逃げるのだが。悪知恵は別として実力的には強力妖怪とはいいがたいものの、ヨーロッパの名門妖怪として認められており、『週刊実話版ゲゲゲの鬼太郎』では、目玉オヤジがドラキュラ伯爵の令嬢を鬼太郎の花嫁に迎えようと考えていたことが明かになる。もっともこのシリーズの目玉は、女性器の中に入り込んで「ちょっと肉風呂にはいってみただけだ」とうそぶくなど、だいぶボケが入ってきていたのだが。

妖怪ならではの不気味さ、しぶとさでいえばこいつかも……
牛鬼（ぎゅうき）

四国の漁村に現れた妖怪。その本体は細胞を変化させる気体で、牛鬼を殺した者はこの気体にとりつかれて牛鬼になってしまう。鬼太郎も牛鬼にされてしまうが、村人の願いで現れた神・迦楼羅（千手観音を守った28部衆のひとり）によって助けられた。神さま直々に倒された妖怪はこの牛鬼ぐらいのもので、いかに手強い妖怪だったかがわかる。このように恐ろしい牛鬼であるが、その後はなぜか砂かけの妖怪アパートの住人となり、鬼太郎に協力する。もとの存在からして、改心したとはとても思えないのだが、そのあたりの細かなこだわりが一切ないのが、いかにも水木漫画らしくてすばらしい。牛鬼が鬼太郎の味方になるのは、2度目のアニメ化と連動して週刊「少年サンデー」に連載されたシリーズからであり、きっとその頃には、昔描いた「牛鬼」の話など、先生は覚えていなかったのだろう。牛鬼はこの他、「鬼太郎夜話（ガロ版）」にも悪の妖怪として登場するが、吸血鬼と引き分けて玉になる。



民家もひとひねりの牛鬼のパワー。その上不死身だから始末におえない

今さら出されても迷惑？ 鬼太郎と共演した有名人名鑑

水木漫画の魅力のひとつは、実在の人物が何のことわりもなし（多分）で登場することである。鬼太郎シリーズも例外でなく、様々な著名人が、妖怪に混じって登場する。それが全部水木的なキャラとして活躍するのだから、読んでいる方もたまらないが、描かれた方はもっとたまらないだろう。その中でも特に魅力的な活躍をした人たちをここで紹介しよう。

池田勇人



貸し本版の「鬼太郎夜話・霧の中のジョニー」に登場した総理大臣。吸血鬼に狙われた池田首相は鬼太郎に退治を依頼。成功のあかつきには鬼太郎に日本国籍と勲一等（ただし陛下のおゆるしがあれば）を出す約束をする。寝床の中で「早く所得倍増計画を軌道にのせて国民を安心させにゃならん」と独り言をつぶやく立派な政治家。ちなみ吸血鬼ジョニーが計画している「千人吸血プラン」のリストは、1池田勇人、2藤原あき（誰？）、3小林旭、4司葉子、5手塚治虫の順となっていた。2位の藤原あきは、この年参院選に当選した日本の「タレント議員」第一号らしい。よく知らんけど。

佐藤栄作



八百八狸に政権を奪われた日本国首相。その後地下にもぐりレジスタンス活動を積極的に展開。アメリカ軍に出動を要請したりした。でも結果的にはなにもしなかったに等しい。鬼太郎の活躍で八百八狸が封じられたのを自分の手柄と勘違いして、国民の前でいばって見せた。栄ちゃんは「ダイダラボッチ」にも登場。自衛隊に攻撃を命じたが、もちろん効果はなかった。

田中角栄



「ダイダラボッチ」では、佐藤栄作首相の横に田中角栄もいて一緒に慌てていた。「妖怪ロッキード」では口ッキード事件の主役、田中・小佐野・児玉は魔女の弟子で、その指令によって世の中をかきまわしていたことが明らかになる。

福田赳夫



平成の水戸黄門。「UFOの秘密」（漫画サンデー掲載）で東京に現れた「亡者の軍団」の壊滅を鬼太郎に依頼した。その続編の「地上絵の秘密」では、日本中の美女がUFOに誘拐され、福田首相はその解決を願い、鯛をもって鬼太郎の家を訪ねた。この時、ねずみ男に屁をひっかけられるも、頼み事をしている弱みで「大平さん、くさいけどがまんしましょう」とグッとこらえた。男だ。

大平正芳



まだ総理大臣になる前、「UFOの秘密」「地上絵の秘密」に福田首相の相方として登場。独特の不明瞭な言い回しをねずみ男に「キミ、安来節を歌ってんのか」と言われて、マジに怒る。この後、福田首相に「わしは国会があるから」と任務を押しつけられた大平は、UFOにさらわれた美女たちを救うため、丸山春樹（角川春樹もどき）が用意した野性号に風助十郎や鬼太郎たちと乗り込みインカへと向かう。悪魔ルキフェルと戦い、見事に美女を救出した大平さんたちは宇宙船で引き返すが、その船の中、裸の美女軍団にチンコいじられて「あまりムチャしないで年寄りだから……」と言いながらも、乱交パーティに突入した。

丸川のせがれ（角川春樹）

どこからどう見ても角川春樹としか見えない人物が「地上絵の秘密」に丸山のせがれとして登場。さらわれた千人の美女を救い出すため、所有する「野性号」を提供し「美女千人もとられて商売が手につきますか」と、鬼太郎たちと旅に出る。誘拐事件の元凶である悪魔ルキフェルと対決した丸山は「奴隷になれ」という契約書をつきつけられて逆上。いきなりルキフェルの頭をなぐりつけるという暴挙に出る。あきれた大平が「あんた、なんでそんな非常識なことするんです」ととがめると「非常識も勝ちさえすれば常識になりますよ。ぼくはこういうことをするためについてきたのですよ」ともう一発殴る始末。だが、その隙をついて目玉オヤジがルキフェルの口の中に入り、悪魔を操ったので、美女を救い出すことに成功。結果オーライで地球に戻った。



山口百恵



「わんたん妖怪」（週刊実話掲載）に登場。夜ベッドに何者かが忍び込んでくるのでタレントの山口百恵さんは安心して眠ることができずに困っていた。ねずみ男に呼ばれた鬼太郎は「百恵ちゃんのためなら助けんわけにはいかんな」と百恵邸にやってくる。退治してみれば、正体はあの有名な久米の仙人。仙術を身につけた彼は、ひそかに楽しもうとして、当時の美女ナンバーワン百恵ちゃんのもとに通っていたのだ。

郷ひろみ&沢田研二



高校生になって色気づき、すっかりダメになった鬼太郎が相撲部屋に弟子入りする「すもう」に登場。郷と沢田は、鬼太郎のイトコと称しその血を盗むことで霊力も奪いとった悪女モモ子のイヤミなボーイフレンドとして登場。沢田研二は似ていたが郷ひろみは全然似ていなかった。ちなみにモモ子のキャラはあきらかに山口百恵を意識したものなのだが、国技館でふんどしひとつで鬼太郎と相撲をとる役回りなので、さすがに遠慮してモモ子にしたようだ。

つげ義春



つげ義春が一時期水木プロでアシスタントをしていたのは有名な話であるが、「鬼太郎夜話」の劇中に名前だけが出てくる。世にも恐ろしいニセ鬼太郎の策略で自殺してしまった寝子さん（ネコ娘）を思って「ぼくのフィアンセに決めていたのに」と泣く鬼太郎。目玉オヤジはそんな鬼太郎に一言。「そりゃあおまえの顔ではむりだ。寝子さんのようにきれいな子は、つげ義春ぐらいの男前でなくちゃ、うんといわないよ」当然、発表媒体は月刊「ガロ」。

デーモン小暮



「ハハハ。地上にはデーモン小暮を歌手として派遣してある。彼はうまい演技で人間のように見せかけているが、あれはわしの親類だ」

これは「鬼太郎地獄編」に登場したドラキュラの言葉。なんとデーモン小暮は悪魔ではなく、ヴァンパイアだった。ドラキュラは地上の人間の血がエイズで汚れたことを恐れて、地獄の血の池地獄を征服しようとしたのだ。吸血鬼もエイズには勝てないということか。

三島由紀夫



文学界の巨匠・三島由紀夫も、かの有名な作家兼流行歌手？　三島由美夫として「鬼太郎夜話」に登場。ねずみ男の策略で芽を植え付けられ、吸血木になってしまった。水木先生は三島由紀夫に特別の関心があったらしく、その後も「コケカキイキイ外伝」で2度にわたって大活躍させている。

フランク永井



貸本版の「鬼太郎夜話」では、歌手のフランク永井もどきのトランク永井が吸血木にされた。その後、トランク永井は吸血木の実の中から奇跡的な復活をとげるのだが、体は子供並に縮んでいた。フランク永井氏のその後の不幸をはからずも暗示しているようで、今読むとかなり不気味な感じがする。

美空ひばり



貸本版の「鬼太郎夜話」に大スター大空ひばりとして登場。水神に捕らわれて溶かされたが、彼女のパンツはイタリヤ特製の強いパンツだったので溶けずに残った。

砂かけばばあ名言集

ある時は鬼太郎を助け、ある時は鬼太郎をたしなめ、ある時は鬼太郎を見捨てて逃げる。そんな素敵な超熟女・砂かけの発言をここにピック・アップ。その発言や行動の数々は、ある意味で水木ワールドの神髄を物語っているといえるのだ。



●日本で脇役をやらしたら宇野重吉かねずみ男かと世間ではもっぱらの評判じゃったがのう……。

アカマタに寄生されたネズミ男の腹がさけて死にかけた時のオババのセリフ。誰が言ったか知らないが、言われてみれば納得の一言。「妖怪軍団」より

●おい、みんな、釜なり退治に行く者は1ケ月家賃をただにしてやるぞーっ!!

髪の毛をとられ霊力をなくした鬼太郎。代わって妖怪退治に出かける時のオババのセリフ。住人たちは大喜びで出かけていったが、みんな毎月家賃をちゃんと払っていたのだ。お化けの生活も楽ではなさそう。「釜なり」より

●じいさん、わしゃあ小便がしとうなった。わしゃあ、うんちだ。

雲外鏡の強力な霊力にブルった子泣きと砂かけが、鬼太郎を見捨てて逃げる時のわざとらしい言い訳。登場当初は、意外と薄情なところがあるふたりだった。「鏡合戦」より

●そんなら鬼太郎、おめえ早くチャンチャンコをぬげ！

傘化けに妖怪アパートを焼き払われそうになった、オババのセリフ？　傘化けの狙いが鬼太郎のチャンチャンコを手に入れることだと知ったとたん、この一言。やっぱりお年寄りが頼れるのは自分の財産だけ。この後、納得いかない鬼太郎を、子泣きが「鬼太郎、ならぬかんにん、するがかんにんじゃ」とジジくさくいさめた。「傘化け」より

●いやだねえ、今はフリーセックスの時代だというのに。

南方の不思議な島にたどりついた鬼太郎たち。そこでは外来の者と島の者のセックスが禁止されていた。そのことを知ったオババがもらした言葉。意外と進歩的なのはいいが、おばばとのフリーセックスはちょっとゴメンだ。ちなみに「スポーツ狂時代編・すもう」では、子泣きのチンポさまがまだ現役であることが明かされる。「その後のゲゲゲの鬼太郎」より

●それにしてもなんてひどい姿に……。

ブードーの呪いで目玉オヤジそっくりのふたつの目玉になってしまったねずみ男。それを見ての一言だが、ずっとその姿の目玉オヤジの立場はどうなる……。「鬼太郎の世界お化け旅行―ブードー」より

●妖怪に年はない。あたしゃ、神功皇后のお供をして朝鮮へいったこともあるんだ。

神功皇后は応神天皇の母であるから、砂かけは4世紀後半から日本で活躍していることになる。年齢1800歳以上。しかもその頃の天皇家とつながりあり。さすがの貫禄だ。「鬼太郎のベトナム戦記」より

●鬼太郎といいやあ妖怪仲間じゃ天皇陛下みたいなもんだ。

相撲部屋に入門しながら序二段でくすぶっている鬼太郎にむけた言葉。天皇陛下とまで持ち上げられたら、誰もが発憤せざるえない。男を燃えさせるツボを押さえた、にくい一言だ。「スポーツ狂時代編・すもう」より

●おまえ片手になってどうするんじゃ。嫁の来てもなくなるぞい

妖怪手の目と戦うため、鬼太郎が自分の右手を包丁で切り放したのを見て一言。通常なら出版コードにひっかかりそうな発言だが、描いたのが水木先生だけに問題なく終わったようだ。もちろん鬼太郎の右手はあとで簡単にひっついた。ちなみに水木先生が結婚を決意したのは、ご母堂の「冗談じゃない。四十になって、しかも片手しかない者に、嫁なんか誰もこん」の一言だったという（「寝ぼけ人生」より）。その一方「吸血鬼エリート」でのねずみ男への目玉のセリフ「あいつは脳膜炎を2度もやっておるんじゃ」は講談社コミック復刻版では「あいつはものすごく意地が悪いんじゃ」に差し替えられた。筒井康隆と日本てんかん病協会の対立の影響か？「手の目」より

かつて発売された「鬼太郎」の単行本

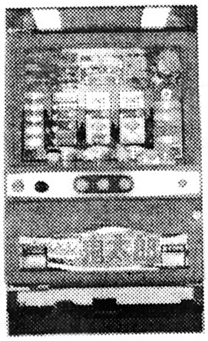
鬼太郎の単行本は実に様々な出版社から発売されている。少年誌を中心に発表された作品を中心にまとめられた単行本シリーズだけでも、講談社コミックス全9巻（数年前完全復刻版が出た）、朝日ソノラマのサンコミックス全12巻、サンワイトコミックス全8巻、虫プロの虫コミックス全8巻、3度目のアニメ化の際に再編集された講談社の「新装版ゲゲゲの鬼太郎」全17巻、中央公論社の愛蔵版全5巻など数多く存在する。その他、文庫版シリーズも、ちくま文庫版（少年マガジン、少年サンデーに連載された作品を中心に構成）、角川文庫版（80年代に発表された作品を中心にしたアンソロジー）、扶桑社文庫版（大人向けの雑誌に発表された作品が中心）、小学館文庫版（昭和50年代の第一次漫画文庫ブームの際に刊行）もあり、貸本時代の「墓場鬼太郎」シリーズの復刻版も二見書房サラ文庫版、青林堂版、朝日ソノラマ「水木しげる貸本漫画傑作選」版、角川書店貸本漫画復刻版などがあり、さらには番外編的な「妖神大戦記」（学研版全2巻とサンワイトコミック版あり）、「鬼太郎の世界お化け旅行」（双葉社パワァコミックス版全2巻とサンワイトコミックス版あり）、少年漫画雑誌以外で発表されたものを中心に構成されたKCスペシャル版「新ゲゲゲの鬼太郎」全4巻、水木プロ名義で発表された珍品「最新版ゲゲゲの鬼太郎」全4巻などがある。この膨大な刊行数を見るだけでも、いかに鬼太郎が長い年月多くの人々に愛され続けてきたかが、わかるというものだ。上記の単行本は絶版になっているものが多く、現在は文庫本のシリーズ（小学館版をのぞく）が手に入りやすい

古書店から消えた「ゲゲゲの鬼太郎」の怪

私が所有する「ゲゲゲの鬼太郎」はサンコミックス版である。だが、何巻か抜けがあったので、今回の企画を機に全巻そろえることにした。ところが、一般書店に行く前に古書店をのぞいて見たところ、文庫版の数冊をのぞいて、ほとんど鬼太郎の単行本がない。高田馬場から中野に出て、そのまま阿佐ヶ谷、荻窪、西荻、吉祥寺、三鷹の古書店をしらみつぶしに調べたのだが、中野のまんだらけで「新装版ゲゲゲの鬼太郎」全17巻そろいと虫プロ版全8巻、三鷹の古書店で中央公論社の愛蔵版全5巻を見つけたくらいである。しかも値段を見て驚いた。新装版全17巻が1万円なのはまだしも、愛蔵版全5巻に2万5千円の値がついていたのだ。西荻で2冊見かけたサンコミックス版は、1冊千円の値段がついていた。種類も多く、発行部数も多いはずの鬼太郎の単行本が、これほどまで品薄になり、値段が高騰しているのは何故なのか？　悪い妖怪が燃やしてしまったのか、はたまたネズミ男が一攫千金をねらって買い占めてるのか、それとも文庫本がよく売れるように水木先生の背後霊（滅ぼされた出雲族）が霊力で見えなくしてしまったのか……。様々な思いが駆けめぐる。で、西荻の古書店主に聞いてみたところ、お宝ブームの影響で、古い漫画本の価値が一般の人に知られて市場に出なくなった上、ちょっと値があがりそうな本はまたたく間に売れてしまうという悪循環が起こっており、その象徴的な作家が水木しげるということらしい。「とにかく鬼太郎は今ぜんぜん見ない……」ちょっと水木先生の描くメガネに似た店主は力なく語った。鼻からフハッと息がもれたようにも見えた。鬼太郎の単行本、現在、異常高騰中。お客さん、安いの見かけたら今が買いでっせ。俺があおってどうする。







パチンコ店でゲット！！







●大蛇の茹でたて　皆美社編

食をテーマにしたアンソロジー。三島由紀夫や村上春樹など、古今東西の44人の作家が描いたさまざまな食を味わう。

ウジをデンブ状に調理して視察のお偉いさん方に食べさせた西丸震哉氏のエッセーや、バター代わりにパンの耳にサラダオイルをつけて食べた思い出を語る尾辻克彦氏、「人だまの天ぷら」をテーマにした水木しげる氏の漫画など、大食や奇食、珍食が百花繚乱。

（皆美社　２０９６円）

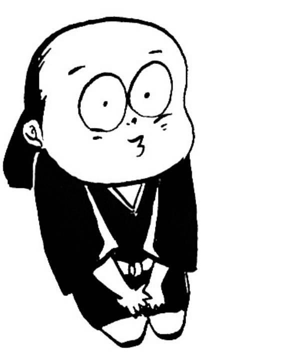
「大蛇～」について書店で聞いてみた処、

皆美社は取次店を通さない出版社のようで、

実物は手に入りませんでした。



タワリシチ



カット 古賀54明



アレッ！「フハッ」の最新号がもう出来たのかな？それにしては大きいなァ・・と、開けてビックリ『鬼太郎外伝』。

単行本化されれば、どうしたって扉絵やダブリのコマ等はカットされてしまう。オリジナルの雑誌連載版が、何といってもベストの作品と分かっていても、これだけで揃えておくのは、至難の技。

なにしろ週刊誌なら、一週間で絶版状態。熱心に買い続けても、アッと言う間にマンガが一杯、単行本が出れば、それらは処分・・というパターンになってしまう。まして十年・二十年前（いや今回の復刻は三十年以上前のものですネ）の雑誌を、後から探すとなると・・

そんな中で、水木先生の作画生活五十周年の記念すべき年の末尾を飾るにふさわしい、この『鬼太郎外伝』シリーズの再開は、とても嬉しい出来事です。

雑誌からの直接復刻は、まず雑誌探しに始まって、さらに修正にとても手間と苦労が掛かる作業と思いますので、編集スタッフの皆さん大変ご苦労様です。是非八巻完結予定が未定で終わらず確定になるよう、頑張って下さい。

また十二月には、ちくま文庫から『未収録短編集』も発売されました。こちらも、京極夏彦さんの水木作品に対する情熱が、ヒシヒシと伝わる内容出した。

（続編への希望を込めて、売上に協力すべく２冊買ってしまいました。）

最後に水伝へ、エールを送ります。ガンバレ！ガンバレ！みずでん！　関東水木会に負ケルナ！

No.２６７　内田　高信

えーと、昨年ラストの会誌『妖怪大戦争』の感想を書きます。すごくよかったです。面白かったです。ムダなPは1Pもないし、カラーで再現された妖怪画報は美しいし、コラムは面白いし。そして何といっても復刻された漫画2本は最高でした。はじめてみた扉絵や、本編Pもたくさんあって、あらすじやメインキャラ紹介Pも今のマンガとちがってわざわざ、いちいち描きおろしておられたんですね。（そんな貴重な扉絵や本編の一部も構成上必ずカットしちゃうなんて商業出版のコミックスはサービス悪いですね。）完全版はじめてよめて感激しました。

それにしても『妖怪大戦争』のテーマって、要するに「祖先を敬おう」ってコトなんですよね。「鬼太郎シリーズ」って本当はすごく、教育的な漫画だったんですね。これは一家に一冊の課題図書にすべきですよ。とにかく全8巻といわず全て？復刻して下さい。最近は商業誌の規制ますます強まって「なんでこのセリフが？」と思うモノまで修正されてますし。どーもひと昔前にでたサンワイドコミックスもKCスペシャルも紙質が悪くて、変色劣化いちじるしいので困ってるのです。それに今回の会誌。B5版とサイズ大きかったことも画面のすばらしさをひきだせてよけいよかったと思います。

No.27　山本　雅子







カット　古賀弘明

実は私、宮城県塩竈市にある「ガロ初代編集長長井勝一　漫画美術館」の公認ホームページ編集長をやらさせてもらってます。

塩竈は長井氏の故郷で一昨年オープンしました。水木先生の原画はもちろん「ガロ」で活躍された先生方の原画なども展示されています。

昨年はホームページでの画像掲載に際し快く受諾をいただきました。

（電話で先生とお話したときはドキドキしたなぁ。）

もしよろしければ会報の隅にでもホームページアドレスを掲載していただければと思います。

No.277　白石　純之

アドレス　http://www.bad－city.com/~nagai/

E-Mail　nagai@bad－city.com

布井家 境港ゲゲツアー，99レポート

NO．329　布井　洋二

水木伝説に入会し、もうすぐ1年。入会したら世界妖怪会議、ブリガドーン境港ツアーへ参加しようと思っていたら、なんと突然会社の出張となってしまい、その夢も今年は果たせずじまいかと・・・。「そうだ、お盆休みで実家の四国へ帰る途中で境港へ寄り道しよう」という名案を思いつき、家族へ相談したところ、一泊旅行ならという事で決定され、めでたく8/8~9の布井家ゲゲツアー，99がここに決行される事になった訳です。

フットワークとおみやげの重さを考え、米子でレンタカーを借り一路境港へ。鬼太郎列車もしっかり米子駅と道路沿いの線路で勇姿を確認。境港駅へ着いて観光案内所・売店で心おどらせながらもじっとがまんして水木ロードへ。ブロンズ像の写真を長男の平太にとらせ、スタンプを次男の太二へ押させながらロードを進んでいきました。それにしてもスタンプが盗まれたり、店がつぶれたりと3個入手できなかったのが残念でした。ブロンズ像、レリーフ、タイル。いやあ、すばらしい出来に感激しました。歩き疲れて食べた神戸ベーカリーの鬼太郎パンもなかなか子供達に好評でした。

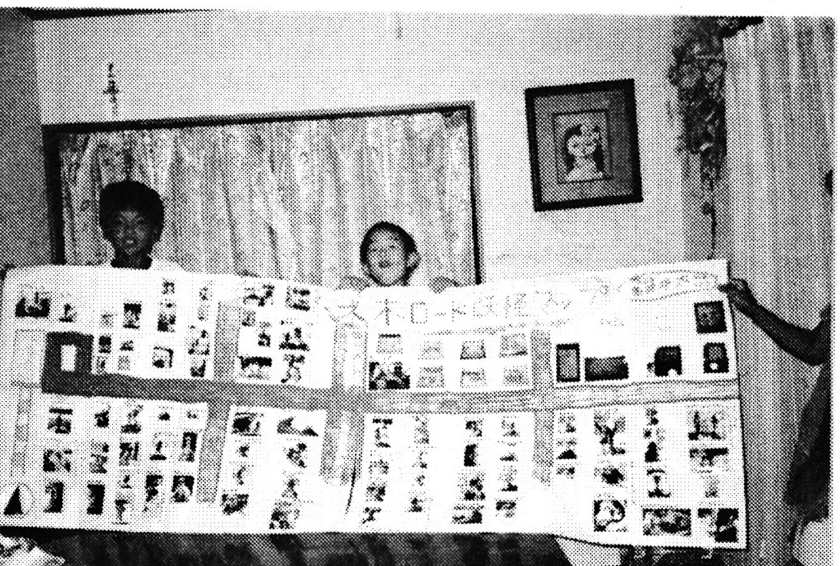
私はもっぱら、おみやげの買い漁りにあけくれ、念願のブロンズ像、百目の焼きものなど約15点ほどを入手しました。うわさ通りお金がいくらあっても足らない感じでした。ロードの店の方も本当に優しい人が多く、しゃべってるうちにシールをおまけしてくれた「いけびんストーア」のおばあちゃん、店の名は言いにくいのですがお宝をゆずってくれたおばさん本当にありがとうございました。しかし残念なことに「妖怪ショップゲゲゲ」はおばあちゃん（？）の喪中で閉店していました。それでも店の前で写真はとっちゃいました。すいません。

それから忘れられないのが初めて見た、水木先生のおこった顔・サラリーマン・妖奇伝の鬼太郎のお面の数々。本当にすばらしい！！絶品です。2~3万円なら買っちゃいますね。

2日目は前日休みだった大正郵便局、みなとタワーで開催中の妖怪博物館を訪れ3D映画を見たりしました。この博物館中の立体オブジェも本当にすばらしい出来で、次男太二はすこしびびり気味でした。

本当にすばらしい2日間で、また来ようという気にさせる街でした。感動のあまり長男の夏休みの自由研究は、写真のような「水木ロード妖怪マップ」となった訳ですが、残念ながら自由研究とは認められませんでした。しかし気のきいた先生のはからいにより廊下に貼り出され、現在も小学生の間で評判のようです。これで水木ロードへ少しでも多くの人が訪れ、早く「水木しげる館」が出来ればと思いをはせる今日この頃です。

追記　女房も金太郎あめならぬ鬼太郎あめ全種、パンの箱などをホクホク顔で持ち帰り、私の病気が伝染し始めているようです。



新入会員紹介

NO．341　建部　光子
住所／神奈川県相模原市
好きな作品／ん〜。困った。河童の三平かな。

⑦自由欄
はじめまして。ねずみ男が大好きな主婦です。
⑥の一番好きな作品っていじわるですよね。
好きな作品、たくさんあります。
特にねずみ男が出て、
活躍さえしてくれれば、もう
言うことなし！（でも、三平…）
"ねずみ男のママ"に
なりたい！
よろしくお願いします。

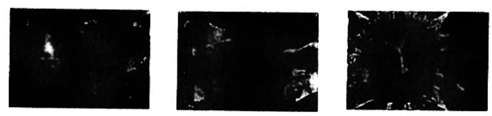


NO．338　高田　敬司
住所／徳島県名西郡
好きな作品／鬼太郎

⑦自由欄
水木伝説バックナンバーリスト希望

NO．339　石川　須美子
住所／茨城県水戸市
好きな作品／ゲゲゲの鬼太郎

⑦自由欄



主人は「ねずみ男」ファン
私は「鬼太郎」ファンです
2人で、古本屋を巡って水木先生作品を集めています
ゲームセンターのプライズは必ずGETしています
みなさんよろしくお願いしね

NO．342　黒沢　宏
住所／栃木県足利市
好きな作品／鬼太郎シリーズ

⑦自由欄
※水木伝説バックナンバーリストを
希望いたします。
※私は水木先生の貸本時代の作品が、
一番好きなのですが、地方なので書籍の
復刻などの情報が入らず困っております。
古い作品の復刻等の情報が得られれば幸いです。

NO．343　大城　英文
住所／沖縄県那覇市
好きな作品／怪奇死人帳

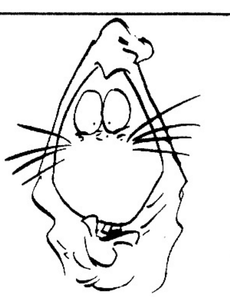
⑦自由欄
・一般に発売されている書籍では新刊情報
などが遅く、より確実に多くの水木しげる
作品にお会うことができれば今の私の
一番の幸わせです。

※「水木伝説バックナンバーリスト」
希望

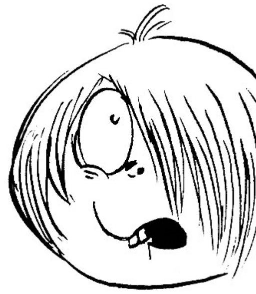
NO．340　藤田　勉
住所／千葉県千葉市
好きな作品／悪魔くん

⑦自由欄
「水木伝説バックナンバーリスト」
希望
水木伝説に入会いたします。
自分の好きだった「悪魔くん」について
もっと知りたくなり、入会いたします。
会報楽しみにしております。





カット
古賀ちよ明



NO. 344 津田　賢治
住所／東京都八王子市
好きな作品／ゲゲゲの鬼太郎（鬼太郎夜話）

⑦自由欄

貴会の『創造の書』(水木伝説XIV)を見て往年の水木熱に火がつき、即座に入会を決意致しました。会員らしい事はそうできないかも知れませんが、どうかよろしくお願い致します。



NO. 345 赤田　祐一
住所／東京都文京区
好きな作品／貸本版悪魔くん

⑦自由欄

家の近所の薬屋で、小学生の時、KC版『悪魔くん』を親に買ってもらったときから、わたしの人生は狂ってしまいました。いまでは、好きが高じて、水木作品をつくる側に廻っています。



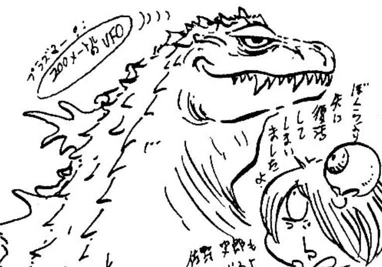
← 長澤美彦

NO. 346 杉山　えつ子
住所／静岡県沼津市
好きな作品／悪魔くん（全般）

⑦自由欄

水木しげる先生 公認F.C 水木伝説の皆様
初めましてミ 静岡在住の杉山えつ子と申します。
水木先生のマンガは以前から大好きでしたので、このような会があると聞き、早速入会させて頂く事となりました。
知識も蔵書も少なく、まだまだ未熟な私ですが精進努力致しますので、御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

1999. AUG.
杉山えつ子拝



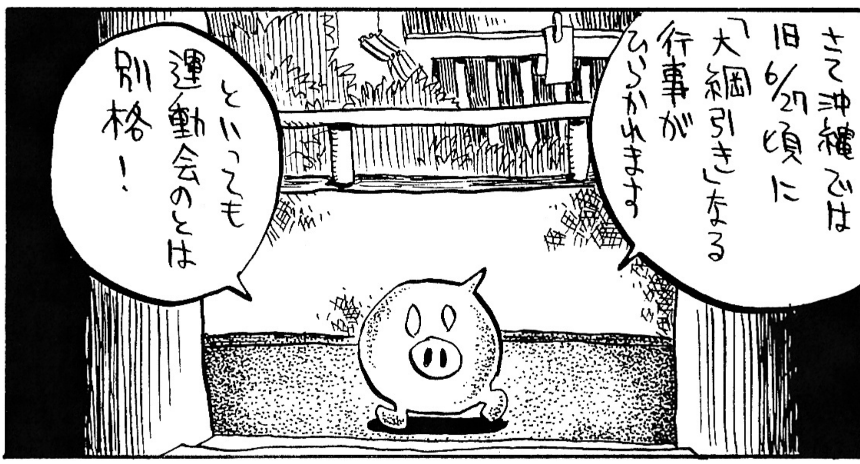
← 古賀弘明

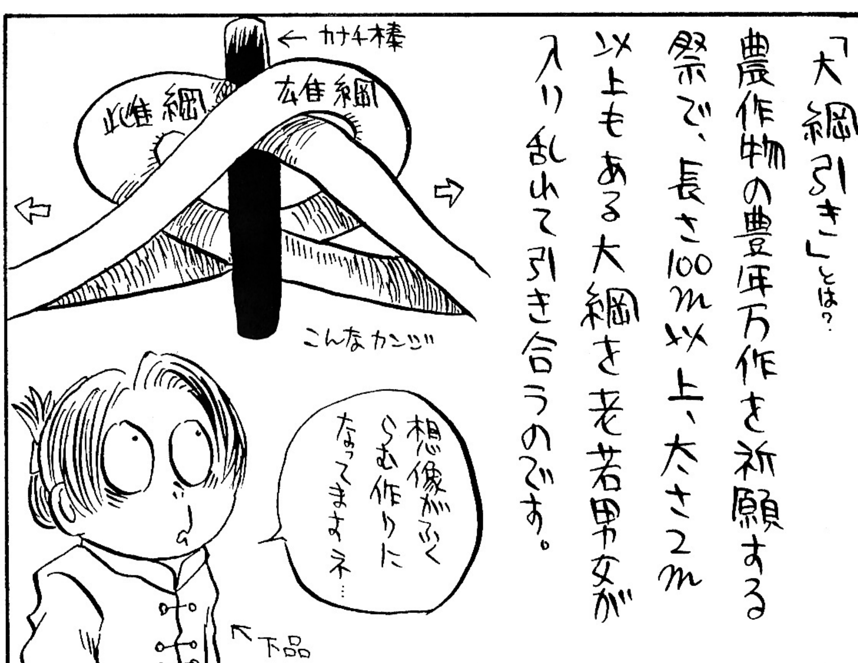
あめみやかよの

沖縄閑話

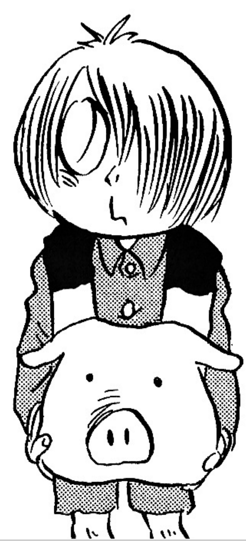
話題提供：金城先生







オスとメスの合体によって豊作を願うのはどこも同じようで……。




今回のメインはこのカナチ棒
神無棒(?)と呼ばれるあたりがクサイ
コレ
カナチ棒の役目は雄綱と雌綱をつなぐために存在しゆえに神聖。
<下段
カナチ棒は北部(本島)の山から一本の木が選ばれ、カナチ棒職人が作る。
未婚(だったかな)の女性がソレに触れると誰の子とも判らない子供を妊娠してしまうとか、タタリがあるとか云いながら、女・子供を遠ざけてきた。
(そのくらい神聖なの)
しかし大学生だった金城先生、友人達とカナチ棒にイタズラさしました!!
その当時全員酔っていたらしい
Kinjo
それを大学の教授に話したところ
かついだりまたがったりしてました
Kinjo
うーん
デザインの現在
タタリがあるよォ

間もなく


大学の体育大会の数日前に
先生と友人達はヘルニアで倒れる
うーん
ん。。。
私も思った
そのうち一人は妖しい宗教団体に足を突っ込み
半ばメメメメに
ワラワラワラワラ
更に一人は東京方面にて行方不明……。
無事に生き残った僕らはタタリだって云ってるんだ
現在妻子持ち
20代
…
神聖なモノに手をふれたりするとロクなことないようです
いやー全く妖怪と関係ありませんでした。でも、多少その類……ですよねぇ、馬場さぁん。
1/30(日)の波瀾万丈みましたかー?! 水木センセイが出演されてましたよ。ナマ水木だ。

子供の国

第1回　写真特集

２０００年の年賀状写真からご紹介します。



NO. 240
因幡　秀幸さんのお子様
因幡　啓太くん（7才）



NO. 76
高山　学さんのお子様
高山　萌ちゃん（2才）
奈那子ちゃん（2ヶ月）



NO. 151
三浦　達哉さんのお子様
三浦　茜ちゃん
希ちゃん



NO. 238
岡村　正愛さんのお子様
岡村　紗英子ちゃん



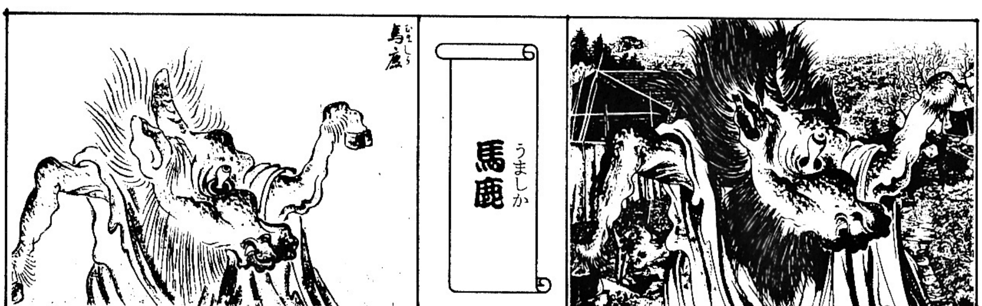
写真・イラスト・お便り募集中！

小中学生（それ以下も可）会員のみんなの元気な声を待ってます。
イラストは黒のサインペンやマジックで描くとキレイに印刷できます。

「なぜ妖怪を描くのか？」といわれても自分自身でも良くは分からない。妖怪を形にしたいという衝動は昔からあった。**幽霊**などというものも、子供の頃よく話題になり興味は持っていたが、なにしろ形が単純で、一つ描くとあとは似たような物になる。ということもあって、**妖怪**から始めた訳である。(中略）私自身、どうして妖怪に興味を持ち、長々と半世紀も描き続けるのかと言われてもわからないが、自分でも不思議だと思うのはその興味がずっと持続していて、いつも面白く妖怪と付き合っていたことだ。
（H５年、に行われた 妖怪展—現代に蘇る百鬼夜行のパンフレットより）

私自身も自分なりに、この様な形で妖怪と接している訳だが、時々フッと妖怪と接しているのがつらいと言うか、億劫みたいな状態になる。こういう時は決まって体調を壊しているか気分が“ウツ”の時で、また気分も体調も絶好調な時は、妖怪の絵を見たり、本を呼んでいてとても面白い。さて今回はどうだったんだろうと思いながら、今書いていて前述の先生の言葉を読み直してみると、改めて先生はスゴイなぁ～と思い、また恥ずかしく思います。それでは





松井文庫（百鬼夜行絵巻より）

馬鹿といえば「ばか」と読み、「鹿をさして、馬となす」という、中国の秦（しん）の時代の有名な故事から出たという説がある。では妖怪の**馬鹿**とは「馬鹿騒ぎ」「馬鹿力」など、通常考えられない行動力や行為をさせてしまう妖怪で、人に取り憑き、馬鹿者にしてしまうのが**馬鹿**なのである。



産女（うぶめ）



鳥山石燕｛画図百鬼夜行（前篇　陽）より｝

妊娠してお腹にまだ子供を宿したまま、死んでしまったり、出産の時、子供だけ産まれて 母親がすぐ死んでしまった場合、その母親が十分に供養され成仏できないと死後、**産女**という幽霊となって現れるという。**産女**は江戸時代になると、中国の妖怪 **姑獲鳥**（**夜行 遊女**）と同一視されてしまい、そのイメージは強く、**ウグメ**や**オゴメ**にも表れている。

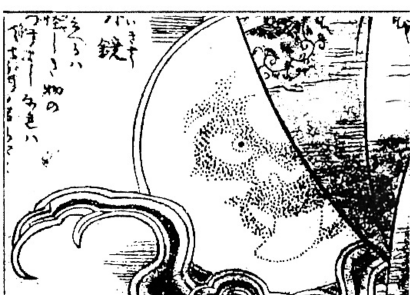


海坊主（うみぼうず）



怪談大団扇より

一般に**海坊主**と言うのは、海上に現れる妖怪で、巨大でしかも黒いといわれる。目が光ってくちばしがあるのもあるが、目も。口も、鼻もないただの黒坊主の場合もある。**海坊主**が出たら、だまって見ない様にしなければならない。「あれは何だ！」などと言うと、たちまち船をひっくり返される。



雲外鏡（うんがいきょう）

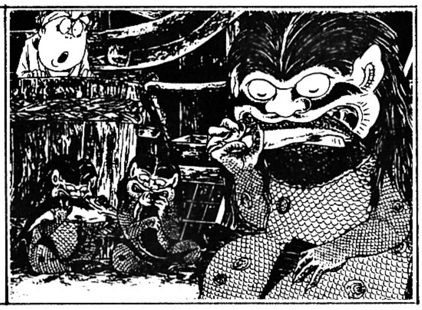


鳥山石燕｛画図百鬼徒然袋（巻の下）より｝

器物の霊と言われる物のうちで、最も古くからあったのが、鏡の霊だとされる。形の丸い 所が、太陽や月を表し、魂は丸いと考えていた人が多かったし、**タマシイ**という名称にも 表れている。また旧暦の八月十五夜の月明かりの中で、水晶の盆で水を汲み、 その水で 鏡の面に怪物を描くと、鏡の中にその怪物が棲みつくといわれている。



海女房（うみにょうぼう）



初代 歌川豊国（於杉於玉二身の仇討より）

島根半島の平田市のちかくの十六島という所では、魚を塩漬けにしておく風習があった。ある日、**海女房**がやって来て、桶の中の塩魚を食べ出した。そこへ家の者が帰ってきて、この光景を見て驚き、退治しようと村人を呼び寄せ、家に入った時には、からの桶があるばかりだった。また**海女房**の夫は**海坊主**といわれている。

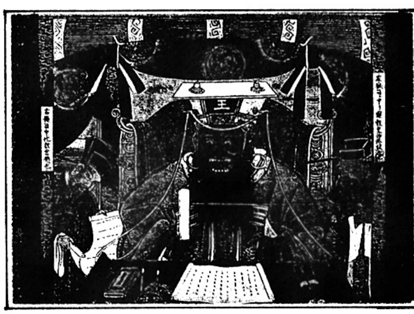


煙々羅（えんえんら）



鳥山石燕｛今昔百鬼拾遺（上の巻 雲）より｝

煙羅煙羅とも言われる。**煙々羅**は火煙の妖怪である。昔、かまどに火を入れると、ふわりと上がった煙がなぜかいつまでも消えず、よく見ていると、それが人の顔になったり、怪しい獣に見えたりしたものだ。この妖怪は、ぼんやりと無心に煙を眺めている事が出来るような心に余裕のある人しか見る事は出来なかったのだろう。



閻魔大王（えんまだいおう）

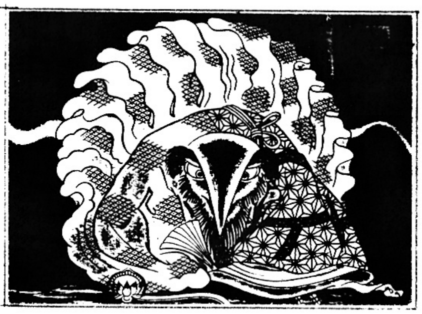


聖衆来迎寺（六道絵より）

人間は死んでから、四十九日はあの世には行く事が出来ず、初七日から始まり、三十五日目（五七日）に**閻魔大王**の裁きを受ける。王の横に浄玻璃の鏡があって、亡者をその前に立たせると、生前の悪行がことごとく写し出されるというからコンピューターよりすごい。大王はこれを見ながら裁く。また生前にうそをついた者は、この**閻魔**が釘抜きで舌を抜く。



襟立衣（えりたてごろも）



鳥山石燕｛画図百鬼徒然袋（巻の中）より

襟立衣（衿立衣）というのは高僧が着る衣で、後頭部を隠す程、襟（衿）を突き出して作ってある独特の重ね着である。妖怪 **襟立衣**は鞍馬山の魔王、**僧正坊**の衣だと言われる。
その天狗の大将が着る衣であるわけだから、もうそれだけで神力が秘められていると考えてよいだろう。



お菊虫（きくむし）



竹原春泉｛桃山人夜話（巻第四）より｝

昔、大和(奈良県)に櫛屋があって、お菊という娘がいた。家が貧乏で食のない生活の 為ある時、村の米倉へしのんで行き、米を盗もうとしたが、村人に見つかり殺されて しまった。
それからというもの、毎年春先に蛍のように光を放つ虫がいちめんに現れる ようになった。その虫はこの地から上流にいることはないので、**お菊虫**と呼ばれるように なった。



大首（おおくび）



鳥山石燕｛今昔画図続百鬼（巻の下 明）より｝

おはぐろを黒々としてつけた首だけの妖怪。かつて江戸の町にこつ然として現れたという。髪がすだれのように長くて、姿はよくわからないが、たぶん首だけだったのだろう。
と 伝えられているが、こんな化け物が現れたら、驚いて姿を見極める余裕などあろうはずも ない。

水・伝の周辺

その3―97下半期版

No.99 さるた・せいいち

水木作品そのものではなく、その周辺についての情報、その3です。
半年の時差がありますが、読書・探書の参考にしてください。

○『Ｑｕｉｃｋ Ｊａｐａｎ 15号』「大特集 水木しげるの世界」（太田出版 97・8） 八〇〇円
水木しげるインタビュー「『無意識』の巨人」、大泉実成の「消えたマンガ家」（番外編）「三人の鬼太郎作家」、「幻の水木しげるマンガ二本立て」の、豪華三本立興行である。
幻のマンガ「(1)アマゾンの奇妙なもの (2)火星人がやってきた」は、すでに水・伝で紹介したもので、幻ではないと思うが……。
圧巻は、いわゆる「偽鬼太郎」シリーズを描いたマンガ家、竹内寛行の足跡を追った、大泉実成の「消えたマンガ家」。
「水木 寛行、死んだの？
大泉 ええ。死にました。
水木 死んだの。ああ。」（P.56）
「赤田 寛行さんは八七で亡くなりました。明治40年生まれでした。
水木 八七？ はあ。あんまり幸せな一生ではなかったようでしたが。それほどね。一生貧乏でしたから」（P.58）
水木氏にかかるとは、他人は皆、不幸、貧乏、餓死になってしまう。

○『マンガゾンビ』宇田川岳夫（太田出版 97・8） 八〇〇円
しかし、「もう一人の鬼太郎を生んだ謎のマンガ家 竹内寛行」によれば、竹内の晩年は、
「八〇才にして映画の看板を描きながら悠々自適に生活」（P.１７５）していたという。幸せな一生だったようである。
「ゾンビ一口メモ⇩竹内寛行を始めとする兎月書房の貸本は、実に意外なことに国会図書館に大量に保管されている」（P.１７５）

○『消えたマンガ家 3』大泉実成（太田出版 97・12） 八〇〇円
「三人の鬼太郎作家」も収録されている。大泉名義では最後になる。
太田出版のマンガの復刻のコンセプトは「復刻とは価値の創造である。評価されるべきものを、評価されるように復刻するのであるから売れるのが当然」（P.１０３〜１０４）ということだそうだ。

○『リトルモア』VOL.3 WINTER（リトルモア 98・1） 一〇〇〇円
東眞一郎名義の少女マンガ『雪のワルツ』（24.p）が掲載されている。こちらの方が「幻のマンガ」と呼ぶにふさわしいが、掲載誌や制作年が記されてないの不親切である。

○『ダカーポ No.379』8月20日号「マンガ復刻ブームの楽しみ方」（マガジンハウス） 二五七円
「対談・みなもと太郎VS米沢嘉博 復刻マンガの〝お楽しみはこれからもなのじゃ〟」
「『米沢 （略）去年は水木しげるさんの『霧の中のジョニー』と『怪奇一番勝負』が講談社から1000部限定の完全復刻版で出たんですよ。1万5000円なのに予約がいっぱいで、すぐに売り切れだった。もっとも古本屋で探せば10万くらいするけど』
『みなもと 読めるだけでうれしい段階から、あの頃のままで読みたい、と変わってきたんだろうね。（略）』」（P.61）

○『妖怪まんだら 水木しげるの世界』（世界文化社 97・8） 一三〇〇円
京極夏彦「地獄へ行かぬ鬼太郎―鬼太郎作品における妖怪と他界」
「『鬼太郎』シリーズは実に三百五十タイトルを越す」（P.118）
「註1／（略）単行本も多数出版されているが、決定版と呼べるようなものは出ていない。現在手に入るものはいずれも不備が多く、コマやネームを落としたり、酷いものはページをそっくり落としたり、無意味な改竄をしたり、紛失部分を書き直したりを繰り返し、志低き人々の手にかかって、見るも無残な惨状となっている。収録順も目茶苦茶で、とてもお勧めできない。そうしたものが七度八度と繰り返し出版されてしまう状況にもかかわらず三百五十本のうち、単行本未収録分は実に百本を下らないものと思われる（ゴシックさるた）」（P.118〜119）
水・伝で、鬼太郎「完全版」を出す前のウォーミングアップとして、鬼太郎「拾遺集」を編んでみては、いかがでしょうか。

○『サンデー毎日』9月7日号 二七六円
「小宮悦子のおしゃべりな時間」のゲストに、水木氏が登場。
「小宮 （略）みんなが親孝行してくれてる感じ、しません？ 鬼太郎とか。
水木 いま、カネ儲けさせてくれるのは鬼太郎です。
小宮 孝行息子ですよね。
水木 有り難迷惑という感じなんですね。あまり稼いでも税金取られるし（笑）」（P.56）

「何でもおいしく食べて、女性はみんな美人に見える」とのこと。なるほど。

○『妖怪と歩く　ドキュメント・水木しげる』足立倫行（文春文庫　97・9）　四七六円
文庫で再読。文庫には、単行本＋αのお楽しみがないとね。「交錯する群像」の阪神大震災以後をフォローするとかね。
解説の大泉実成さんの肩書きは、ノンフィクション・ライターだけでなく、「水木しげる原理主義者」と入れてほしかった。

○『ナマズの巣—小学館コミックガイド—』VOL.7　97Summer（小学館　97・9）　非売品
内記稔夫インタビュー「『ビッグコミック』と現代マンガの30年」
第一回手塚治虫文化賞特別賞を受賞した、現代マンガ図書館を主宰する内記さんが、手塚治虫、さいとう・たかを、水木しげる、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎、白土三平の作品を振り返る。
「○水木さんはいかがですか。
●とにかくすごい人ですね。年齢も手塚さんより上ですし。貸本漫画の頃からペン画みたいに斜線をいっぱい入れたり点描を使った手間のかかる絵でね。（略）「ビッグコミック」創刊頃の短編には「水木世界」のキャラクターがすべて出てきます、眼鏡で出っ歯の男とか。水木さんの作品にも（略）『丸い輪の世界』みたいに異次元を扱ったSFっぽいものが結構あるんです。内容的には手塚さんのSFと通じるようなところもあるんじゃないでしょうか」（P.4）

○『まんが秘宝　つっぱりアナーキー王（キング）』（洋泉社　97・9）　一一〇〇円
「水木しげるの『フーシギくん』『おばけのムーラちゃん　知られざる水木アナーキーヒーロー列伝」（P.86〜87）
ともに、水・伝で復刻されていることを、ひとことつけ加えてほしかった。

○『青春と読書』97年9月号「特集　荒俣宏の世界」（集英社）　九〇円
アリャマタ氏についてのエッセイ「食いしん坊な『オドロキ大王』」を水木氏が寄せている。

○『まんがまっぷ　97〜98　首都圏・京阪神・愛知＝編』まんが探検隊編（夏目書房　97・9）　一二〇〇円
私のよく行く神田神保町の「コミック高岡」は、★★★
角川書店の『墓場鬼太郎』（初回限定二〇〇〇セット〔函入り〕　特典　水木しげる秘蔵「鬼太郎幻の原画ポスター」付き）が12月になっても、まだ置いてあった。あわてて買わなくとも、あるところにあるのだ。地元（茨城県水戸市）でバラで買って損を

した。ポスターがほしい。

○『本の旅人』97年8月号「あの幻の名作が蘇る　貸本まんが復刻版『墓場鬼太郎』を読む」（角川書店）　九五円
角川の復刻版の解説（水木しげる、京極夏彦、荒俣宏、中沢新一、養老孟司、高橋克彦）が一度に全部読める。

○『マンガの鬼』（青林工藝社　97・10）　八三八円
『ガロ』退社組が作った雑誌。
「『廃刊が一番イカンですよ！』　角川書店より新雑誌『怪』創刊！　水木しげる編集長に訊く」が、掲載されている。

○『ガロ』98・1月号（青林堂）　六四八円
昔の名前で出ています。『ガロ』復刊。読者には、家庭の事情はあまり関係がない。面白いマンガがたくさんが読めればいい。でも、本棚に並べておくとケンカするかな。

○『青春マンガ列伝』夏目房之介（マガジンハウス　97・10）　一五〇〇円
夏目さんは、「マンガと私（夏目）の個人史のしがらみ」が、「私の10代から20代前半にわたる青春譚になると同時に、日本マンガが現在の市場と表現の特質を獲得していった過渡期の、ライブな証言になるはずだ」（P.252）という。
水木氏に関しては、「中学時代の『幸福論』」というタイトルで、『神変　方丈記』『イソップ式漫画講座2　これはたまらん』『幸福の甘き香り』について書いている。
夏目さんは「乾いた距離感」が「水木独特のユーモアを保証」（P.44）していると分析する。
「どうやら中学にしてすでに、私（夏目）のなかには、ことの善悪や深刻さをいつか遠い風景のように眺めてみたいという願望があったとおぼしい。水木マンガの視線も、私にとっては同様の遠い視線と受けとられたのだろう。
漱石（房之介は漱石の孫）も水木も、実人生の過酷さや偶然のおそろしさをよく知っている。その上でこんな距離感をもつことができる。それは多分当時の私のなかの救いのイメージだったのだろうし、じつのところいまだにそうなのである」（P.48）

○『マンガと「戦争」』夏目房之介（講談社新書　97・12）　六四〇円
夏目さんの著作もう一冊。「マンガは『戦争』をいかに描いてきたか」
水木氏に関しては「水木しげると戦記マンガ」という一章を設けている。
「特攻機が空母に激突したのち、空母は沈没する。そのあとは何事もなかったかのような海面が二ページ見開きで描かれる。こ

のおわりかたは水木マンガの常套手法である。人間的な出来事のすべてが、最後に何事もなかったような風景のなかにとけこんでおわるのだ。この手法は、水木の思想そのものといってもいい」（P.49）

「（略）戦争による兵士の死の描写は、全く劇的でない。しばしば病死や輸送船の撃沈など、ふいにつまずいて転んだような偶然として描かれる。こうした描写こそ、水木の体験的戦記物の特徴なのだ。水木のうしろでボートにのっていた男が、音もなくワニに食われたり、手榴弾で魚をとっていた男が魚を喉につまらせて死ぬ描写など、さまざまな戦争『死』があることを水木作品は教えてくれる。

『総員玉砕せよ！』の一場面も、水木の自伝的戦記物の特徴をよくあらわしている。主人公たちの部隊が敵の銃撃から逃げるうちに、ある兵士が撃たれて倒れる。軍医の《遺骨を作るんだ》という命令で、水木に似た主人公が、まだ生きている兵士の指を切り落とし、当の兵士はその場におきざりにする。ここで非情にも立ち去る二人は、別に悪い奴でもなんでもない。むしろごく平凡な兵隊で、軍医は最後に玉砕を命令する参謀にくってかかる好人物でもある。

兵士たちは結構こずるい者であったり、まったく要領の悪い者であったり、いつも居丈高な上官が案外優しいところもあったりするが、それらは悪や善という倫理基準で描かれているわけではない。どの顔をみても、またその体をみても、ヒーローや悪党のかっこよさは微塵もなく、ただくたびれたふつうの人間たちがいるばかりだ。彼らの善や不善はどこまでも、ただ人間なんてその程度だという遠い目からみられたものでしかない」（P.52～53）

「（略）戦記物において水木は、妖怪世界のような超常的救いなどほとんど描かない。むしろ戦争『死』は、いつも救われない、世俗の人間の『死』である。『総員』の最後、主人公が死ぬ場面も、いかにもカッコ悪く情けなく《みんな　こんな　気持で死んで　行ったんだなあ》と思いながら、死んでゆく。この『ふつうさ』こそが水木マンガの普遍性である。そして、そこでは英雄主義も犠牲行動の賛美も、物語の確信にはなり得なかった」（P.54～55）

「（略）単純化をおそれずにいえば、手塚（治虫）は終生恐怖から『死』を拒否して『生きること』を選んだが、水木の『死』の恐怖のすぐ隣には、地続きで異会の安逸があった。『生きる』と『死ぬ』は、水木マンガの場合紙一重なのだ」（P.56）

「水木マンガは、戦争を正義とする倫理も。世間的善悪も、そんなのばからしいといえる位相がどこかにあるんだよ、という慰安を感じさせてくれる。戦争状態にある国家がいかに愚かであるか、そんなものと自分一個の生命をひきかえるのがいかにつまらないかを、本当につまらない戦争『死』の描写で示してくれた」（P.58）

全体の内容は、「マンガ表現の角度からマンガを批評するという私（夏目）のスタイルが、うまく使えなかったのが悔やまれる」（P.178）と、本人が書いているとおり、いつもの夏目さんの文章の緻密さが、欠けているように思えた。

○『寄生人　QJマンガ選書06』つゆき・サブロー（太田出版　97・10）　一八〇〇円

巻頭に、水木しげる特別インタビュー「友人つゆき・サブローと兎月書房の思い出」が掲載されている。
つゆきは、「怪奇マンガ家　つゆき・サブロー」「フィルム・コレクター　杉本五郎」「少女愛好家　日本のルイス・キャロル杉本五郎」と、三つの顔を持っていた。面白いことに、それぞれの顔で交友関係のあった人たちが、つゆきの別の顔をほとんど知らない。
未読の人は、立ち読みでもいいから是非読んでみてください。一読三嘆とはこのこと。ほとんど水木作品の切り貼りだけで一冊の貸本マンガを作ってしまうのだから、おどろくやら、あきれるやら。
「月報ＶＯＬ．６」で、平林重雄さんが「つゆき・サブローの元ネタ全解説」をしている。「（水木）作品のオリジナルのコマをそのままトレースして描き、オリジナルの原稿の順序を入れ替えて、全く別の作品を作り上げたもの」（P.iv）。最大の賛辞である。
唐沢俊一さんが、解説「怪作と怪作者―杉本五郎氏について」のなかで、杉本の（有名な）エピソードを紹介している。
「私自身、一時、古書コレクションを続けて、体をこわしたことがあった。そのとき、こういうことをこのまま続けていて、僕の人生いいんでしょうか、と氏に質問したことがある、そのときの答えがふるっていた。
『これはネ、病気なんです。病気にかかったら、金がなくてもクスリを買ってのまなくちゃならないでショ。おクスリだと思って本をお買いなさい』」（P.２２１）。蓋し名言である。
杉本五郎遺稿集『映画をあつめて』（平凡社）は、現在品切れ。古本屋を探そう。

○『時代が呼んだ顔　撮っておきのマンガ家たち』齋藤亮一全撮影（自費出版　96・5）　頒布価格　一八〇〇円
前々からほしいと思っていた、マンガ家の生の姿、一瞬を切り取った写真集。
水木氏をはじめ、いがらしゆみこ、池上遼一、石ノ森章太郎、小島剛夕、バロン吉元、日野日出志。平田弘史、モンキー・パンチ等、43人のマンガ家の写真が収められている。
12月14日、福島県いわき市のいわき市立美術館で開催されていた「石ノ森萬画展」の会場で購入した。うれしい。
「石ノ森萬画展」の図録よりも資料的価値があると思う。
マスコミに登場するマンガ家は、姿・顔かたちがわかるけれど、大部分のマンガは、どんな人が描いているのかわからない。
私は、村野守美さんの姿に感動した。
「東村山の身障者職業訓練所にぶち込まれたのを2日で逃げ出し、マンガ家になろう！と、4日間で描き上げたマンガが『少年』に載り、その後『なかよし』の連載も始まったころ…18歳の時ですが、手塚治虫先生に呼ばれたんです。　先生の作品を真似してたんで、こりゃ怒られて終いだなぁと。でも実は、講談社の社内報に載って（載った？）石ノ森章太郎先生と伊藤章夫先

生の対談で『将来有望な新人は村野守美だ』と出ていたのを、見せたくて呼んでくれたんですよ。で、呼ばれたついでに、ベタでもやりますっつうて、先生のところに入れてもらったんですね」（P.151）

マンガ家は、才能があれば、身体に障害があろうが、なかろうが、実力を発揮できる社会である。その意味では、「平等」だといえるのではないかな。村野さんのやわらかく美しいペンタッチの作品は今までたくさん読んできたが、写真を見るまで、「障害」があることを知らなかった。逆に、同情だけでは生きてゆけない社会でもある。水木氏の場合も同じですよね。お二人とも、自分を「障害者」とは思っていないであろう。

自費出版なので、連絡先を書いておきます。

《株式会社スタジオ・マイ　東京都練馬区豊玉上一—八—十八　高橋ビル一F　TEL〇三—五九九九—八六一一》

○『読売新聞　日曜版』12月14日

「こんな話」で、京極夏彦さんの紹介記事「自作で声優の一刻」。

● 自作で声優の一刻

「自分でやることが分かっていたら、こんなに長いセリフを書きませんでした」と苦笑するのは、「嗤う伊右衛門」で今年の泉鏡花賞を受賞した作家の京極夏彦。

フジテレビの人気アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の脚本「言霊使いの罠！」を執筆、鬼太郎の敵役「一刻堂」役でアフレコにも挑戦したのだ。

「小説の書き方を学んだ」というほどの原作者水木しげるの大ファン。脚本を引き受けた時は長編を執筆中で、時間がとれずに1日で書き上げたが、「書く以上はオリジナルで他の人に書けないような作品を目指した」という自信作。しかも、キャラクターデザインまで自身で行ったという。



「アフレコは初めてでよく分からなかった」と言いながらも、「ほかの声優さんのアフレコは一種の話芸のようなもので、聞いていて心地よかった。連れて帰って、毎朝その声で起こして欲しくなった」とか。

作品は12月28日午前7時半からの年末スペシャルで放送される。

こんな話

え・川西 [illegible]人

○『週刊新潮』12月18号　二七六円

「建設省　中国地方建設局」のPRのページ「日本の川を語る。」シリーズの30回めに、水木氏が登場、斐伊川（ひいかわ）（堺水道（さかいすいどう））について語っている。（P.140～141）

「（略）地元のＪＲ境港駅前から数百メートルに亘って『水木ロード』という通りがある。（略）ここには他に『妖怪広場』もあって、『水木しげる記念館』も計画中。週末にはカップルや家族連れで賑わう。妖怪たちはいまでは境港市のシンボルとして、人々に憩いを与えているのである」

○『ＳＡＰＩＯ』1月17日　三七一円

読み切り特別寄稿「水木しげるの霊界大冒険　『死と再生』の国メキシコを行く！」が掲載されている。

同行レポーターは、大泉実成さん。

「昨今、水木しげるの世界を巡る妖怪冒険旅行熱は、益々激しくなっている。そして、子供の頃からの、抜きがたい収集癖。

『やっぱりメキシコの仮面は一番スゴイですよ。だから、２００、入手するんです』

ああ、あぶねーじいさまに、またターボがかかってしまった」（P.１１４）

「『面というのは、面を作る人の性格が出るんだなあ。真面目に作っていて、下手じゃない人もいる。でも、面白味とか、味わいがない。面というのは怖いものが多いですが、怖さの中にも愛嬌がないとダメです。これは重要なことです。

ふざけすぎてもいけないんですよ。だから、性格が重要なんですよ。結局、人気作家になるための資質があるかないかということなんだな……』

僕にはまるで、水木しげるがマンガについて語っているように思えた」（P.１１７）

◇ところで、Ｋ社から、『水木しげる全集』が刊行される予定だという噂を聞きました。Ｋ社は、水木氏を、マイナーな貸本マンガの世界から、メジャーな週刊誌の世界にデビューさせた出版社であるが、『Ｔ塚Ｏ虫漫画全集』の杜撰な編集をみてもわかるように、どこかマンガの読者を軽視しているところがあるので、心配です。

また、全集を出した作家やマンガ家には、その後しばらくして亡くなっている人がずいぶんいるので、それも心配。

いずれにせよ、生涯現役の水木氏に、全集はまだまだ似合わないと思うのですが。

◇と、この原稿を書き終えて、投函しようと思っていたとき、石ノ森章太郎さんの訃報を聞く。石ノ森さんも、全集の計画があった。最近の連載は、石森プロのシュガー佐藤さんが、ほとんど代筆していたから、ずいぶん体調が悪いのだろうと思っていたが、60歳は若いよね。『サイボーグ００９』完結編が読めなくなっちゃった。「石ノ森萬画展」の図録を、買っておけばよかった。やくみつるさんが、マンガ家の60歳は、人間の年齢でいうと、90歳に当たると言っていた。では、水木氏は、いくつになるのだ。

（というわけで、次号「水木しげる記念館」へ続くかもしれない）

水・伝の周辺

その6―99年版

No.99 さるた・せいいち

水木作品の周辺についての情報、《その6》です。「フハッ」がこのところ順調に発行されている。万歳。会費の支払時期も簡単にわかるようになり、私のようなものぐさな人間には、ありがたいことです。

○「コミックゴン」Vol.4「恐怖という名のトラウマ」（ミリオン出版 99・3） 六一九円
「『ゲゲゲの鬼太郎』妖怪づくし」境港・水木しげるロードの紹介。東京都調布市・天神通り商店街にも、妖怪ロードがあるんだよ。今度行ってみよう。

○『マンガの歩き方』オフサイド・ブックス編集部編（彩流社 99・5） 一二〇〇円
「調布の“鬼太郎”をロケハンする 「ブリガードン」タウン遊歩術」。ガイドマップ付。
他にも、『じゃりン子チエ』や『あしたのジョー』、『バイトくん』の世界を、この本を持って、探索してみよう。

○「新いばらき新聞」1月29日
私の地元、茨城県のローカル紙に「鬼太郎“角膜提供”訴える 記念のブロンズ像制作」という記事が載った。
記事によれば「市民に角膜の提供を呼び掛ける鬼太郎と目玉おやじのブロンズ像がこのほどJR土浦駅西口前広場にお目見え、行き交う市民らの注目を集めている」とのこと。「（ブロンズ像は）作者の水木しげるさん本人が制作を手掛けている」というのですが、水・伝の諸兄はご存知でしたか。今度行ってみよう。

○「読売新聞」9月5日 「こころの風土記 境港市（鳥取県） 漫画家 水木しげるさん」
水・伝会員から情報を募って、「あなたのまちの水木ワールド」という特集はどうでしょうか。
「もし水木ロードが出来なければ。『商店街はとっくにつぶれていたでしょう』」

○「ひょうひょう」5月号「特集 あの日の百円物語」（論創社） 四七六円
「ひょうひょう」は、財団法人長寿社会開発センターが編集している「50代からのイキイキ発見マガジン」。どのような読者層を狙っているのかよくわからない雑誌ですが、画業50周年の水木氏は、どこにでも出没する。
「十銭あめ玉の怪」というエッセイを寄稿している。「水木大先生が（少年時代に）ひだる神にとりつかれた」話。

○『貸本屋のぼくはマンガに夢中だった』長谷川裕（草思社　99・4）　一六〇〇円

「『河童の三平』は貸本マンガの最高傑作だ。

『河童の三平』はこうした、みんなの信じていたお話（進歩史観）とは、ほとんど無縁だった。進歩も明るい明日も、この作者にとってはまったく興味のないことなのである。このころの水木の顔は、オリンピック景気に浮かれるおおかたの日本人とはまったくちがう方向を向いていたのだ。（中略）

私をふくめた多くの日本人とは反対に、水木の顔は死者のほうを向いていた。水木は死者の声に耳を傾けようとしていた。『河童の三平』は「死」という人生でもっとも厳粛な事実を、ごくまっとうに描いた、希有なマンガなのである。このマンガの登場人物たちはなべてあっさりと死んでしまう。結局はおじいさんもお父さんも、最後には三平自身も死神に連れていかれてしまうのである。とくに印象的なのは、東京に出稼ぎに出た母が行方不明になってから、三平を一人で育ててくれたおじいさんが死ぬ前後だ。（中略）

自分の死を悟ったおじいさんは、三平に河原家の山や畠を見せてまわる。

「お前もしってるな　これはうちの畠だ　いま大根をまいたところだ……」

「あれをみろ　わしが植えたのじゃ」

「昔は禿げ山だった」

「お前が大きくなるまでには　木も大きくなる」

「困ったことがあったら　大きくなった木を一本ずつ売って　ごはんをたべなさい」

「分かったかい」

「分かったよ　おじいさん」

ここにはおじいさんの死の瞬間は描かれていない。秋が来て、落葉がはじまった桐の木のあいだをおじいさんと三平の二人が歩き去っていくところが描かれ、そこに、

「それから一ヶ月后……　おじいさんは死神につれていかれてしまったのだ」

というキャプションが重なるだけである。そしてつぎのコマでは裏庭の竹林に三平が一人たたずみ、

「とうとう一人ぼっちになってしもうた」

とつぶやく。家に入ろうとする三平の背中に栗がぽつんと落ちてくる。

なんらドラマチックな描写はない。しかし、取り残されたものの悲しさがそくそくと伝わってくる。

（中略）死とは肉体が滅び、腐敗し、骨となりということではない。死とはそれまで笑い、怒り、話をしていた人がふといなくなることである。そして生きている人たちは後にとり残されてしまう。何度も何度も、かけがえのない人びとから取り残され、

今度は自分が人びとを残して一人消えていく。それが生ということなのである。こんな単純で、しかも厳粛な事実をかくもみごとに描き切ったマンガというのは、私にとって『河童の三平』が初めてだった」（P.191〜P.193）

「（中略）この世はほんとうに生者だけのものなのだろうか。ほんとうに死んでしまえばそれまでなのだろうか。水木しげるは死んでいった者たちの声にじっと耳を傾けながら（むろんそれは水木自身の、左手を失うにいたった南方での戦争体験と無縁ではないはずだ）、生者の哲学を嗤っている。

死者と生者が交流し、共存する『河童の三平』は、深くやさしいユーモアに包まれている。いずれは死んでしまい、何年もたてば、この世にその痕跡さえ残すこともないだろう私たちにとって、最後にすがれるものは、この『河童の三平』の淡々としたユーモアなのではなかろうか」（P.194）

義母を亡くしたときに、たまたま読んでいた。勇気づけられた。

○「噂の真相」6月号（株式会社　噂の真相）　四四八円

「メディア異人列伝」（P.80〜P.81）に、水木氏が登場。

水木氏の発言の部分を引用。

「最近のブームについては、私も非常に不思議に思って観察している。これはおかしいと思う。80歳近くになってちやほやされるなんていうのは、想像を絶することですわ。古い原稿があたかも今描いたもののように、あっち（の出版社）へ行ったりこっち（の出版社）へ来たりしていますからね」

「たとえば田川水泡にしても、作品は子ども向けだったでしょう、子どものことを考えて描いていた。その次の世代には手塚治虫とかいろいろいるわけだけれども、彼らは〈青年〉ということを意識してやっていましたからね。私の場合は、それはほんの少ししか意識しなかった。〈人間〉てなことを考えていたから」

「商業雑誌では誰だって利潤を追求したいんだけど、『ガロ』はあまりそういうのがなかったですからね。私は自由に描いていた。商業雑誌では編集者から内容に関して苦言が出るけど、『読者にウケるように』などと、おもねることもなかった」

「（小林よしのりの）『戦争論』に快感を感じる人も多いと思いますよ。3割ぐらいの人は、戦争なんかやってもいいと思っているかもしれない。だけどそれは過去に高い代償を払って体験したんですから。『勇ましい』とか『心が満足する』とか。そのために軍備を持って、みんなを戦々恐々とした気持ちにさせるのは、しないほうがいいと思いますよ」

○『フーシギくん／おばけのムーラちゃん　水木しげる特選怪異譚①』（文藝春秋　99・10）　九三三円

水木氏の次女、武良悦子氏のインタビューを収録。
水・伝では、すでに復刻済。第2弾はあるのかな。

○「週刊読書人」10月29日号　「特集　水木しげる」（株式会社　読書人）　二三八円
水木氏へのインタビューと、米沢嘉博さんの解説、大泉実成のエッセイが読める。
大泉さんのエッセイ「子供に優しい目」によれば、「昨今の旅で強く感じるのは、いよいよ水木さんも『死』というものと本格的に格闘しはじめたのだな」、「一連の『妖怪を獲得する旅』は『死とは何か』を考える行為と背中合わせになっていたのだ」というのだ。

○『萬有ビンボー漫画大系』竹熊健太郎　杉森昌武　責任編集（祥伝社　99・11）　一四〇〇円
またまた、大泉実成さんによる『コミック昭和史』の考察と、水木氏へのインタビュー。
「大泉　手塚治虫とか石ノ森章太郎とかは、未来のロボットとかを中心に描くじゃないですか。逆に（水木）先生とかガロ系の作家とかは、現実的なビンボーとかを描いて、二つに別れていますよね。
水木　手塚系統はね、雑誌の編集者が好むんです。少年雑誌にビンボー漫画を描いたって膝をたたく少年はいないから。だから、本質的に大人の漫画だな、水木さんのは。自分がおもしろいことを描くということが基本だからですなあ」（P.298）
「水木しげるという人はものすごいリアリストである。『金が無いから貧乏になるんで、金があれば金持ちになれる』なんていう当たり前のことも、他の人間が言ってもなんとも感じないけど、水木さんがいうと『ううう－－ん、これぞ水木リアリズムよ』と感心してしまうから不思議である。もう一つのリアリズムが、結局『運が悪ければ』ビンボーになると。そして、これらを総括すると『ビンボーは自然現象である』。
水木しげるは、努力すれば金持ちになれるとか、根性があれば金持ちになれるとか、チャレンジすれば金持ちになれるとか、ポジティブ・シンキングすれば金持ちになれるとか、そういう空理空論は絶対に言わない。ビンボーとは（中略）あらゆる人為的な要素を越えた自然現象なのである。
そして、これだけのリアリストである水木しげるが、妖怪漫画を書き続けているというところが、実に面白いと思う」
（P.300～P.301）
ミレニアムって、「千年王国」の意味もあるんだってね。2000年は「悪魔くん」復活か!?
（次回《その7》へつづく）

くさった国

{編集後記だよ～ん}



『ノストラダムスの予言』等で大騒ぎだった1999年も終わり、いよいよ2000年に突入！昨年は運営の方が順調だったので今年も、良いスタートが切れるかな？と思っていたが、昨年末『水伝ＥＡＳＴ忘年会』で風邪（インフルエンザだと思う）をひいてしまい、年明けには、長年愛用していたワープロが壊れてしまい、２月上旬には発送できるはずの今号も１ヶ月以上も遅れてしまった。

また、個人的には３月には失業するし、波瀾万丈の2000年！開幕スタートとなった。

今回の巻頭特集は『妖怪造形』と云うことで、10数年前の『モデルグラフィクス』の「妖怪造形コーナー」を復刻してみた。全18回の掲載で小誌の半分をも使ってしまった。造形のグラビアは、本当はカラーだったのだが、小誌でそれを再現できなかったのが残念だ。

また、連載最後の妖怪は、水木しげる先生の作品とは無縁のオリジナル妖怪だったので除外した。えっ、「そっちの方が気になる」と言われる方もいるって。やめた方がいいよ！タコとまことちゃんを合体させたようなものだから……

凄いと云えば４月下旬に発売される『水木しげる・戦記傑作大全』これまで『ロケットマン』や『怪獣ラバン』以上に幻と言われていた貸本漫画時代の戦記漫画を長・中・短編ほぼ全ての作品を完全収録するのだ。しかも、これだけの作品群を全８巻セットで25200円の価格は安い。○談社の限定本が３巻や４巻セットでこれくらいの値段はするのだから………

『鬼太郎』『妖怪』にしか興味のないファンの方々にもぜひ購読したもらいたい。水木先生の少年時代にその不可思議さに興味を持った魑魅魍魎の世界。その裏側で格好良さと憧れでひかれた戦争の世界。そして自ら戦地へ赴く事によってその思いが「無念」に変わった時、別の水木しげるが見えてくる。

波瀾万丈と云えば、水木先生の生出演！チェックされましたか？それは１月30日日本ＴＶ系放送の『波瀾万丈』という番組が水木先生の特集を組んで水木先生自身も出演されたのです。

長年、水木先生のファンをやっているものだから、水木先生の足跡等、知っていて当然と思いＴＶを見てみたが、知ってても水木先生の生涯は「やはり凄いんだ！」と痛感させられた。

次号予告

フハッ第46号

【水木しげる妖怪画集特集】

☆　巻頭特集は「フハッ」誌上初の読者担当。会員No.267　内田高信氏による妖怪画集研究。書影もバッチリ掲載するもんね。

◇　最近の書物では使用されなくなった妖怪画を数点収録。

◆　天山の『今、日本妖怪が好きだ！』大増ページ

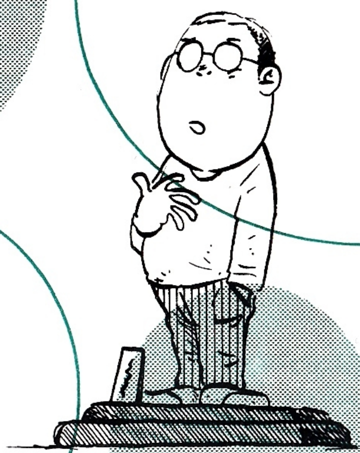
＊　原稿の締め切りは４月末日です。

フハッ・第45号

《水木しげる・妖怪造形特集》

- 発行／平成12年３月15日
- 表紙／絵（古賀弘明）、写真（モデルグラフィック）
- 編集／しげ幽鬼
- 担当／馬場茂幸、北迫耕治、吉田温代、吉田良恵、古賀弘明、佐々木卓、柳葉蛙
日比野聖巳、長澤美奈、大澤佳世、さるたせいいち、ビビビのＴ．Ｔ
土田重幸、岡村正愛
- 協力／㈱人類文化社、㈱ＳＮＫ、㈱やのまん、㈱アルフレックス
内田高信、米吉和久
- 多謝／水木しげる先生、水木プロの皆様
- 印刷／太陽出版株式会社
- 制作

発行／水木しげるＦＣ・水木伝説
〠654-0152
兵庫県神戸市須磨区北落合３丁目38番地２１７号棟709号室



制作・発行

水木しげるＦＣ

水木伝説